

仙台市文化財調査報告書第430集

宮城県仙台市

国史跡 陸奥国分寺跡

—昭和46～50・53・54年度発掘調査報告書—

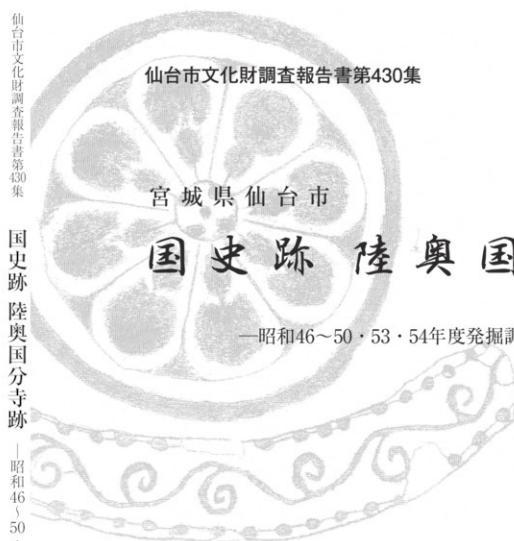
—昭和46・50・53・54年度発掘調査報告書—

二〇一四年三月

仙台市教育委員会

2014.3

仙台市教育委員会



仙台市文化財調査報告書第430集

宮城県仙台市

国史跡 陸奥国分寺跡

—昭和46～50・53・54年度発掘調査報告書—

2014.3

仙台市教育委員会



陸奥国分寺 創建期軒瓦



陸奥国分寺 貞觀地震復興期軒瓦



赤色顔料付着 偏行唐草文軒平瓦

序 文

仙台市の文化財保護行政につきましては、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。仙台市には現在約780ヶ所の遺跡が確認されております。これら多くの遺跡は先人たちが遺してくれた歴史遺産でありますとともに、後世に伝えていかなければならない貴重な文化遺産であります。

この中でも特に重要なものについては、国などから「史跡」として指定を受け、遺跡が損なわれることのないよう努めているところです。若林区木ノ下にある陸奥国分寺跡は、早くからその重要性が知られ、大正11年に寺域のほぼ全域が国の史跡として指定を受けております。

陸奥国分寺は、古代律令制下の奈良時代、天平13年（741）聖武天皇の勅願により全国60余国に建立された国分寺の内で最も北にあります。昭和30年から34年（1955～59）に行なわれた発掘調査により、800尺四方（一辺約242m方形）と考えられる伽藍の概要が明らかになりました。南の正門である南大門から、中門、金堂、講堂、僧坊と伽藍中軸線上に並ぶ堂宇に加え、寺域内東側では回廊に囲まれた七重塔があったことも確認されております。規模、内容とも当時の国分寺の様子を知る上で貴重な遺跡であることから、昭和46年（1971）以降は、史跡環境整備のための調査が行われてきました。

本報告書は昭和46年度（1971）から昭和54年度（1979）までに実施された調査のうち、これまで報告のなされてなかったものを集めて一冊とし、調査結果を報告、公開するものであります。これらの調査成果は、この史跡がこれからも市民生活の中でうるおいのある場として活用されるよう、整備の中に活かして参りたいと考えております。

本報告書が学術研究はもとより、多くの市民の皆様にも広く活用され、地域の歴史や文化財に関する理解の一助になれば幸いです。

調査当時の記録によれば、多くの皆様のご助言、ご協力をいただきながら調査が行われており、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、ここであらためて深く感謝申し上げますとともに、今後の史跡整備に向けましても、市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年3月

仙台市教育委員会

教育長 上田 昌孝

例　　言

1. 本書は国史跡除奥国分寺跡に関する昭和46～50・53・54年度（1971～75・78・79年度）に実施された発掘調査の内、未報告分の調査に関する発掘調査報告書である。
本書の内容はすでに公開されている現地説明会や各種発表会資料に優先する。
2. 本報告書の作成にあたっては、以下のように分担した。
本文執筆：木村浩二　　写真撮影：石山智之
図版作成：石山智之・木村浩二　　編　　集：石山智之・木村浩二
また、遺構図・日誌等資料の集約・分類、遺物集計、実測図・拓影作成、製図・トレース・図版作成にあたっては、大友浩美、笠原裕子、鈴木由美の補助を得た。
3. 本調査に係わる出土遺物、実測図、写真等の資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 全体平面図に示した座標系は、平面直角座標系X（旧測地系）である。各年度の調査区平面図は各々任意の原点により作成されており、全体図の座標系に載せられないものもあったことから、表示しなかった。
2. 図中の方位については、測量基準方位が不明なものがあり、統一できなかった。多くは伽藍中軸方向（真北基準でN.5°W）を測量南北基線としており、原図に従いこの方向を北として表示した。原図に表示のなかつたものや不明確のものについては周辺遺構との関係から概ね復元したが、図中に明示しなかった。
3. 遺構の略称は使用せず、原則として原図に表記された遺構名称を用いた。遺構番号についても調査区ごとの番号である。
4. 断面図については、平面図との対応関係や基準高が不明なものがあり、土層表記についても土色帳を使用していないことから、統一表記ができなかった。これらのことから、層位については本文中の表記にとどめ、図は掲載しなかった。
5. 遺物の略号は次のとおりで、年度ごとの通しNoである。はじめの数字は西暦年号の下2桁である。

C：土師器（非クロ調整）	D：土師器（ロクロ調整）・赤焼土器	E：須恵器
F：丸瓦・軒丸瓦	G：平瓦・軒平瓦	H：その他の瓦
I：陶　　器	K：石　　器・石製品	N：金属製品
		P：土製品
6. 遺物観察表の計測値は、欠損部分の推定復元が可能なものは復元値を（ ）で表記し、不可能なものは残存値の後に+を付して表記した。
7. 軒丸瓦の法量の幅については、瓦当直径と丸瓦部幅を比較し、大きい方の数値記載を基本とした。また、最大長及び瓦厚については、丸瓦部分の残存状況が良好なもののみ記載した。
8. 軒平瓦の法量については、最大幅と瓦当面長を比較し、大きい方の数値記載を基本としたが、平瓦部分の残存状況が良好なものについては併記した。また、最大長及び瓦厚については、平瓦部分の残存状況が良好なもののみ記載した。
9. 遺物写真図版の縮尺は約原寸大～1/4の不定縮尺である。
10. 平瓦凸面実測図のアミカケ部分は赤色顔料付着範囲を示している。

目 次

第1章 はじめに.....	1
第2章 1971・72（昭和46・47）年度発掘調査	
1. 調査経過.....	6
2. 発見遺構・出土遺物.....	7
第3章 1973（昭和48）年度発掘調査	
1. 調査経過.....	30
2. 発見遺構・出土遺物.....	31
第4章 1974（昭和49）年度発掘調査	
1. 調査経過.....	65
2. 発見遺構・出土遺物.....	66
第5章 1975（昭和50）年度発掘調査	
1. 調査経過.....	75
2. 発見遺構・出土遺物.....	76
第6章 1978（昭和53）年度発掘調査	
1. 調査経過.....	105
2. 発見遺構・出土遺物.....	105
第7章 1979（昭和54）年度発掘調査	
1. 寺域西辺築地	
(1) 調査経過.....	106
(2) 発見遺構・出土遺物.....	106
2. 伽藍地南西外側	
(1) 調査経過.....	108
(2) 発見遺構・出土遺物.....	109
第8章 参考資料.....	111
第9章 まとめ.....	123
註・引用参考文献	
抄録	

挿図目次

- 第1図 陸奥国分寺跡位置図
第2図 調査区位置図
第3図 調査区位置図-72
第4図 調査区平面図-72
第5図 出土遺物拓影・実測図71・72-1
第6図 出土遺物拓影・実測図71・72-2
第7図 出土遺物拓影・実測図71・72-3
第8図 出土遺物拓影・実測図71・72-4
第9図 出土遺物拓影71・72-5
第10図 調査区位置図-73
第11図 調査区平面図-73
第12図 出土遺物拓影・実測図73-1
第13図 出土遺物拓影・実測図73-2
第14図 出土遺物拓影・実測図73-3
第15図 出土遺物拓影・実測図73-4
第16図 出土遺物拓影・実測図73-5
第17図 出土遺物拓影・実測図73-6
第18図 出土遺物拓影・実測図73-7
第19図 出土遺物拓影・実測図73-8
第20図 出土遺物拓影・実測図73-9
第21図 出土遺物実測図73-10
第22図 出土遺物拓影73-11
第23図 調査区位置図-74
第24図 調査区平面図-74-1
第25図 調査区平面図-74-2
第26図 出土遺物拓影・実測図74-1
第27図 出土遺物拓影74-2
第28図 調査区位置図-75
第29図 調査区平面図-75-1
第30図 調査区平面図-75-2
第31図 出土遺物拓影・実測図75-1
第32図 出土遺物拓影・実測図75-2
第33図 出土遺物拓影・実測図75-3
第34図 出土遺物拓影・実測図75-4
第35図 出土遺物拓影・実測図75-5
第36図 出土遺物実測図75-6
第37図 調査区位置図-78
第38図 調査区位置図-79-1
第39図 調査区平面図-79-1
第40図 調査区位置図-79-2
第41図 調査区平面図-79-2
第42図 出土遺物拓影・実測図77・79
第43図 出土遺物拓影 参考-1
第44図 出土遺物拓影 参考-2
第45図 出土遺物拓影 参考-3
第46図 出土遺物拓影 参考-4
第47図 軒丸瓦・軒平瓦分類図

写真図版目次

- 写真図版1～16 1971・72（昭和46・47）年度調査出土遺物
写真図版17～37 1973（昭和48）年度調査出土遺物
写真図版38～41 1974（昭和49）年度調査出土遺物
写真図版42～61 1975（昭和50）年度調査出土遺物
写真図版62 1977・79（昭和52・54）年度出土遺物
写真図版63～70 參考資料

第1章 はじめに

陸奥国分寺跡は、天平13年（741）聖武天皇の詔によって造営された古代陸奥国の国分僧寺跡で、仙台市若林区木ノ下にあり、現在、国分寺薬師堂が建てられている。国分寺跡の東約500mには、ほぼ同時期に造営されたと考えられている国分尼寺跡があり、北東約9.5kmには陸奥国府であった多賀城跡がある。

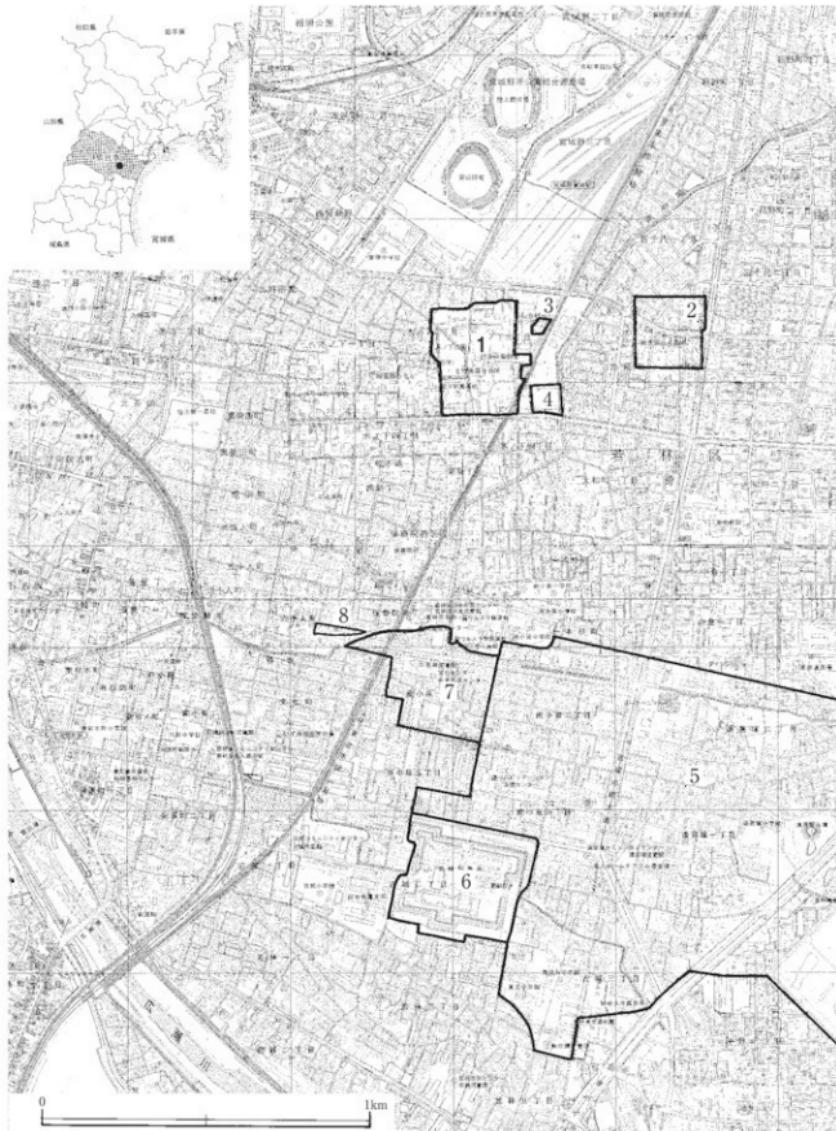
文献上では、陸奥国分寺の創建年代や規模については全く記録がなく、「日本紀略」承平4年（934）に陸奥国分寺の七重塔が落雷にあい焼失したとの記録が残るだけである。律令国家の衰退に伴い、財政基盤を失った国分寺は、平安時代後期以降の様相は不明である。再び記録がみえるのは、慶長12年（1607）、初代仙台藩主伊達政宗の再興事業で、薬師堂、仁王門が講堂跡、南大門跡の上にそれぞれ建立された。藩政期は歴代藩主の庇護を受け、繁栄したが、明治維新後は寺禄を失い衰退した。大正11年（1922）、国史跡の指定を受け、明治36年（1903）、陸奥国分寺薬師堂は国指定重要文化財、昭和50年（1975）、仁王門は県指定有形文化財の指定を受けた。

史跡陸奥国分寺跡の発掘調査は、第1次から第5次まで、昭和30年から34年（1955～59年）の5カ年にわたり、陸奥国分寺跡発掘調査委員会により実施された。この調査により、伽藍中枢部の各建物や東・西・南の各辺の様相が明らかになり、方800尺（約242m四方）の寺域に南面する東大寺式伽藍を擁した大規模かつ本格的な寺院であったことが推定された。

その後、平成20（2008）年度まで総数29次にわたる発掘調査がされた。この内、第6次にあたる昭和42（1967）年度に寺域北東部での調査、第12次にあたる昭和54（1979）年度に寺域地内西部の准い観音堂北側での調査と、第15次にあたる昭和55（1980）年度に実施された東門跡の調査以降は、調査ごと、あるいは調査年度ごとに発掘調査報告書が刊行されてきた。

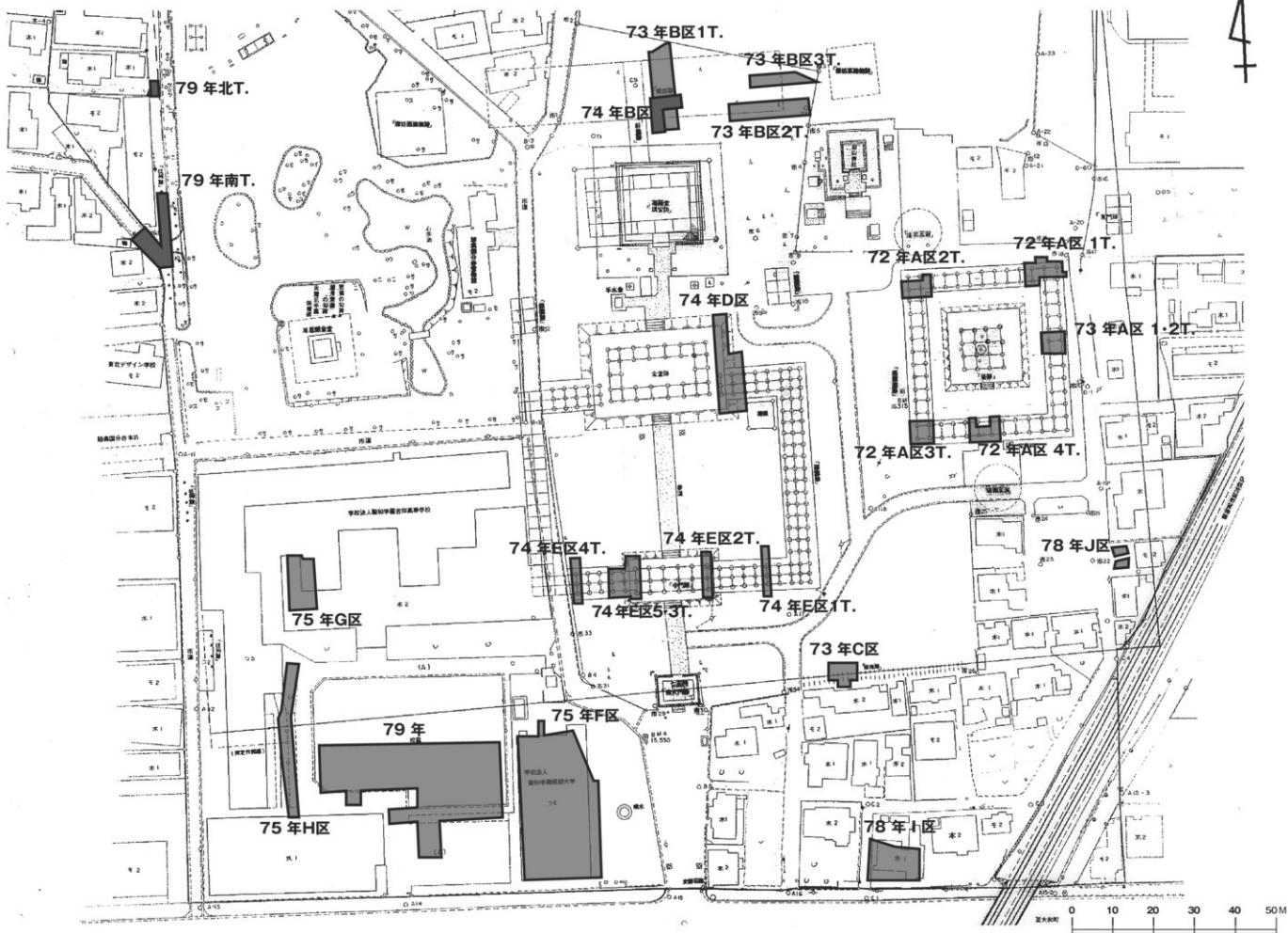
しかし、第7次にあたる昭和42（1973）年度から、第14次にあたる昭和54（1979）年度までの7件の調査に関しては、随時開催した現地での説明会や調査略報での発表にとどまっていた。第7～9次調査は昭和47～49年度の3カ年にわたり、史跡環境整備計画にともなって実施されたものである。当時は環境整備第1～3次調査とされた。塔院回廊跡、僧坊跡、寺院南辺築地跡、中門跡と回廊跡、金堂跡と回廊跡など、中枢伽藍の遺構地表表示を施工するために必要な詳細データを得るために実施された。第10・13次調査は伽藍南西外にあたり、私立高等学校・短期大学用地内である。校舎の新築計画にともなって、史跡現状変更許可申請が提出されたことから、昭和50年・54年に事前の遺構確認調査が実施されたものである。第11次調査は伽藍東辺南部と伽藍南東外にあたり、個人住宅・共同住宅の建設にともなう史跡現状変更許可申請が提出されたことから、昭和53年に事前の遺構確認調査が実施されたものである。第14次調査は伽藍西辺中央部にあたり、市道舗装工事にともなう史跡現状変更許可申請が提出されたことから、昭和55年（54年度）に事前の遺構確認調査が実施されたものである。

いずれも発掘調査後、長い年月が経過し、図、写真、日誌等の調査に関する記録の中には散逸したり、詳細が不明になったものが多い。特に遺構に関する図は、基準点、座標系、標高原点等不明なものが多いことから、今後の調査成果との対比を行なう際の整合性が取れなかったり、誤解を生ずることが想定されることから、あえて表記を避けた。遺構の認定や年代判定についても新たな解釈は行なわず、可能な限り当時の資料に則って表記した。出土遺物についても出土地点、遺構、層位等、不明なものが多く、遺構との関係を検討できなかった。かつての基礎整理段階で作成された実測図や拓影も遺されていたが、今次整理を行なう中で可能な限り新たに作成し、写真についても全てを撮影し、紙幅の中で可能な限り収録した。これらの資料については、混乱なく表記するため、年度ごとに改めて登録を行い、年度・種別ごとに登録番号を付した。



1 : 史跡陸奥國分寺跡 2 : 史跡陸奥國分尼寺跡 3 : 国分寺東道路 4 : 薬師堂東道路
5 : 南小泉道跡 6 : 若林城跡 7 : 菴種園道跡 8 : 保春院前道路

第1図 陸奥國分寺跡位置図



第2図 調査区位置図

表1 陸奥国分寺跡発掘調査実績一覧

No.	年度	調査期間	調査面積	調査原因	調査箇所	調査主体	調査内容	文献
1	S30	8月12日～9月5日	4000m ²	第1次	伽藍中心部	陸奥国分寺跡発掘調査委員会	金堂・廻廊・塔を確認	1 - 22
2	S31	8月1日～8月25日		第2次	伽藍中心部～北部		講堂跡・中門跡・廻廊跡・南大門跡・鐘楼跡・経楼跡・軒廊跡・僧坊西建物の一部を確認	
3	S32	8月1日～8月30日		第3次	伽藍中心部～北部・西部		僧坊跡・塔跡・塔廻廊跡・塔北丸塗を確認	
4	S33	8月11日～8月25日		第4次	伽藍中心部・東部・北西部		塔・塔廻廊跡・東門跡・僧坊西建物の一部を確認	
5	S34	8月1日～8月31日		第5次	伽藍東北部・北西部・西辺・北辺		僧坊西建物跡・僧坊東建物跡・西辺上の柱列（寄柱）・講堂根石を確認、北辺は確認できず	
6	S42	4月1日～4月10日	120m ²	現状変更事前調査（仙台鉄道教育館所）	東門北東側・寺地北東部	宮城県教委	東門の北東部で東辺（？）の溝跡を確認、寺地北東部では北辺は確認できず	2
7	S47	2月15日～3月5日	150m ²	環境整備（第1次）1～4トレーナー	塔院廻廊（北東・北西・南西コーナー・南辺中央部）	仙台市教委	塔院廻廊周辺で整地層（？）を確認、廻廊基壇は確認できず	3
8	S48	12月10日～1月31日	240m ²	環境整備（第2次）A-E区	塔院廻廊（西辺・中央部）、僧坊跡・南北礎築地	仙台市教委	塔院廻廊の根石を確認、僧坊跡基壇と雨落溝・根石を確認、南辺礎築地跡と北側に並行する溝跡を確認	4
9	S49	7月8日～8月7日	344m ²	環境整備（第3次）	中門跡と廻廊・金堂跡・廻廊跡・僧坊跡	仙台市教委	中門跡と廻廊の整地層と根石確認、金堂跡基壇と廻廊基壇確認、僧坊跡基壇と根石・掘立柱（？）を確認	5
10	S50	6月12日～8月2日	1010m ²	現状変更事前調査（聖和学園校舎・トイレ・下水管設置工事・H区画）	伽藍地南西外側	仙台市教委	南辺夷地掘込地業と南辺の溝跡を確認、平安後期造構の掘立柱建物跡11棟などを確認	6
11	S53	5月18日～8月13日	112m ²	現状変更事前調査（共同住宅）I区（個人住宅）J区（個人住宅）J'区（個人住宅）	伽藍地東辺南部・伽藍地南東外側	仙台市教委	東辺では基壇を確認できず、南東部では土坑・溝・ピットなどを確認	7
12	S54	7月23日～8月23日	150m ²	現状変更事前調査（位牌堂）1～3トレーナー	伽藍地西部・准胝規音北堂	仙台市教委	灰白以降の基壇と根石を確認	9
13	S54	6月11日～8月3日	690m ²	現状変更事前調査（聖和学園校舎）	伽藍地南西外側	仙台市教委	ピット・溝・土坑を確認、複数が多い	8
14	S54	3月24日～3月28日	72m ²	現状変更事前調査（道路舗装）北トレーナー・南トレーナー	伽藍地北東部	仙台市教委	版巻（西辺礎地？）・柱列（寄柱？）を確認	10
15	S55	7月8日～9月19日	400m ²	環境整備（第4次）	東門跡	仙台市教委	東門基壇・棗地壠掘込地業・寄柱・東辺の溝跡を確認	11
16	S56	10月23日～10月24日	12m ²	現状変更事前調査（個人住宅）	東門跡南東部（外側）	仙台市教委	搅乱	12
17	S57	7月22日～8月11日	48m ²	現状変更事前調査（共同住宅）L区1～3トレーナー	伽藍地西辺中央部	仙台市教委	西辺の溝跡を確認	13
18	S57	11月24日～12月2日	21m ²	現状変更事前調査（共同住宅）M区	伽藍地東辺南部	仙台市教委	南北方向の溝跡、土坑、柱頭跡を有するピットなどを確認	-
19	S58	9月26日～11月15日	140m ²	環境整備（第5次）	南大門東側礎地跡	仙台市教委	南辺礎地と南辺の溝跡を確認	14
20	S61	6月6日～6月11日	15m ²	現状変更事前調査（個人住宅）	伽藍地南東外側	仙台市教委	搅乱	15
21	S62	7月9日～8月27日	242m ²	範囲確認	伽藍地西辺	仙台市教委	西辺の溝跡を確認	16
22	S62	10月26日～12月22日	137m ²	範囲確認	伽藍地東辺	仙台市教委	東辺（？）の溝跡を確認	-
23	H1	11月17日～12月27日	289m ²	範囲確認	伽藍地南東部	仙台市教委	土坑5基など	17
24	H16	12月13日～12月27日	128m ²	現状変更事前調査（木ノ下跨道橋）	伽藍地南東外側	仙台市教委	基本削削平、搅乱	-
25	H17	6月30日	32m ²	立合い（市宮AP解体）	北西部	仙台市教委	柱穴3基・土坑・溝・ピットなど	-
26	H17	11月15日～12月2日	18m ²	範囲確認	南大門跡・仁王門礎石	仙台市教委	南大門跡掘込地業・根石を確認	18
27	H18	5月23日～8月11日	739m ²	範囲確認1～6区	伽藍地南辺西部・北部	仙台市教委	南辺礎地・溝跡・僧坊北側での柱列（？）土取穴・北東部で堅穴住居跡	19
28	H19	5月8日～8月7日	702m ²	範囲確認1～7区	伽藍地南辺東部・寺地北東部	仙台市教委	南辺礎地・溝跡・北東部で掘立柱建物跡・堅穴住居跡	20
29	H20	5月14日～7月23日	150m ²	範囲確認1～2区	南大門跡	仙台市教委	南大門跡掘込地業	21

第2章 1971・72（昭和46・47）年度発掘調査

1. 調査経過

環境整備事業のための基礎資料を補充することを目的に、環境整備事業事前調査の第1次として、塔院廻廊跡の調査を実施した。昭和46年度に一部予備的な調査を行なったが、主体は翌47年度に行なわれた。

調査期間は、昭和48年2月15日から3月5日までである。

調査の目的は、①廻廊基壇の確認、②廻廊入口の確認とされ、そのために廻廊と見られる部分4ヶ所にトレンチを設定し、計150m²を対象に調査を実施した。

A区第1トレンチは、塔院廻廊北東隅と考えられる位置に、東西10m×南北4mで設定した。

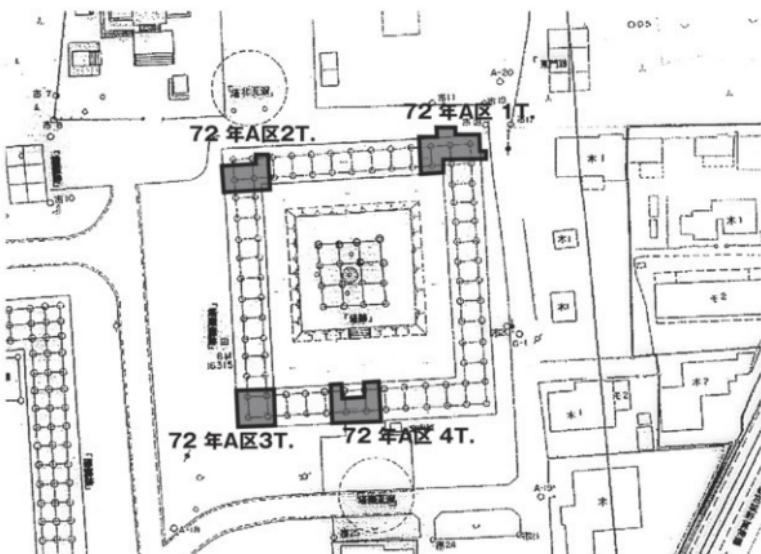
A区第2トレンチは、塔院廻廊北西隅と考えられる位置に、東西7m×南北4mで設定した。

A区第3トレンチは、塔院廻廊南西隅と考えられる位置に、東西6m×南北6mで設定した。

A区第4トレンチは、塔院廻廊南側中央付近に、回廊入口の遺構確認のため、東西8m×南北6mで設定した。

第1・2トレンチは調査の進展にともない調査区の拡張をおこなったが、第4トレンチは立木のため、一部調査区を縮小した。

いずれのトレンチにおいても、水道管、排水管の敷設、拔根、整地工事などのため、予想以上に遺構の遺存状況が悪く、当初のねらいであった基壇は削平のため検出できず、南正面中央と考えられた入口部分も確認できなかった。



第3図 調査区位置図-72

2. 発見遺構・出土遺物

(1) A区第1トレーンチ

表土下40cmで、北東隅の礎石根石を検出した。礎石は残っていなかった。この根石は整地層と考えられる黄色土と黒色土の混合土層にのっていた。この整地層は旧表土である黒褐色土層の上にほぼ一様に積んでおり、層厚はほぼ20cm程度である。北東隅の根石から約3m西の地点でも根石が発見された。さらに西3mの地点では根石が発見されなかつたが、ピットが対になって発見された。また、根石の下層からは、ピットが発見され、この中から国分寺創建期のものと考えられる瓦が発見された。

(2) A区第2トレーンチ

後世の搅乱が著しく、旧表土も殆ど残っておらず、遺構は検出されなかつた。若干の瓦と鉄製品が出土した。

(3) A区第3トレーンチ

I層：表土30cm、II層：焼土・炭化物を霜降り状に含む暗褐色土10cm、III層：暗黄色土（整地層）5～10cm、IV層：黒褐色土（旧表土）30cm、V層：黄色火山灰土（地盤）の層位が最も良好に検出された。

遺構はIII層整地層上面で検出された。遺構は一辻1m前後の平面方形のピット3基で、3m程の間隔をおいて並立している。

また、30cm程の間隔で東西に並立する2つの箱状遺構が検出された。東側は、東西2.1m、南北1.1mの隅丸長方形、深さ0.7mで、壁は直立し、側壁、底面とも固く焼けている。西側は、やや小さく、東西1.9m、南北0.7m、深さ0.7mで、壁面、底面とも焼けていない。両遺構は底面で3つのトンネルによって連結しており、一連の遺構である。下層から近世期、薬師堂の屋根瓦と同様の瓦やスサ入り窓壁片等が出土したことから、江戸時代初期、薬師堂再建時の瓦窯（平窯）の可能性が考えられる。瓦類の他、永楽通宝、寛永通宝などの古銭が出土した。

(4) A区第4トレーンチ

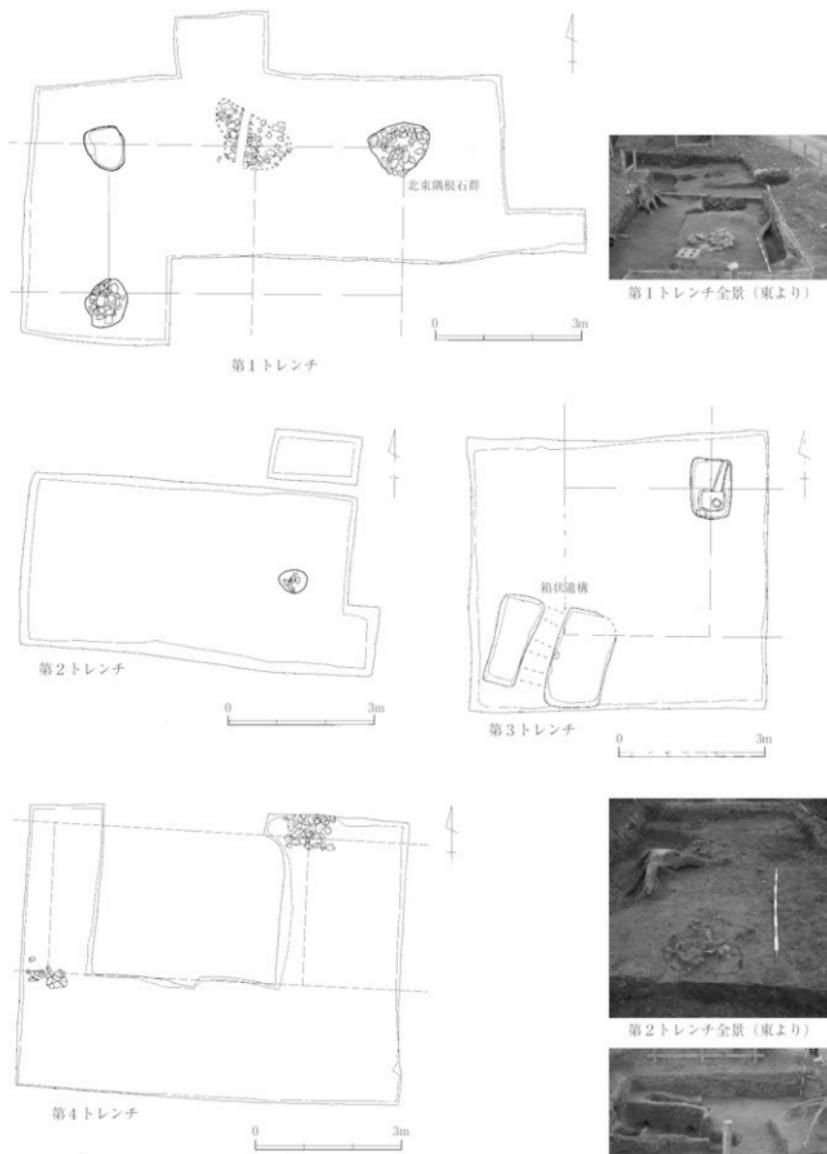
表土下20cmで整地層面を検出し、その上面で根石群を2ヶ所検出した。整地層は厚さ30cm程度で、他の調査区の整地層に比較して、最も良好な状態である。整地層上面でピットが検出された。また、部分的ではあるが、整地層を覆う白色土が検出された。

(5) 出土遺物

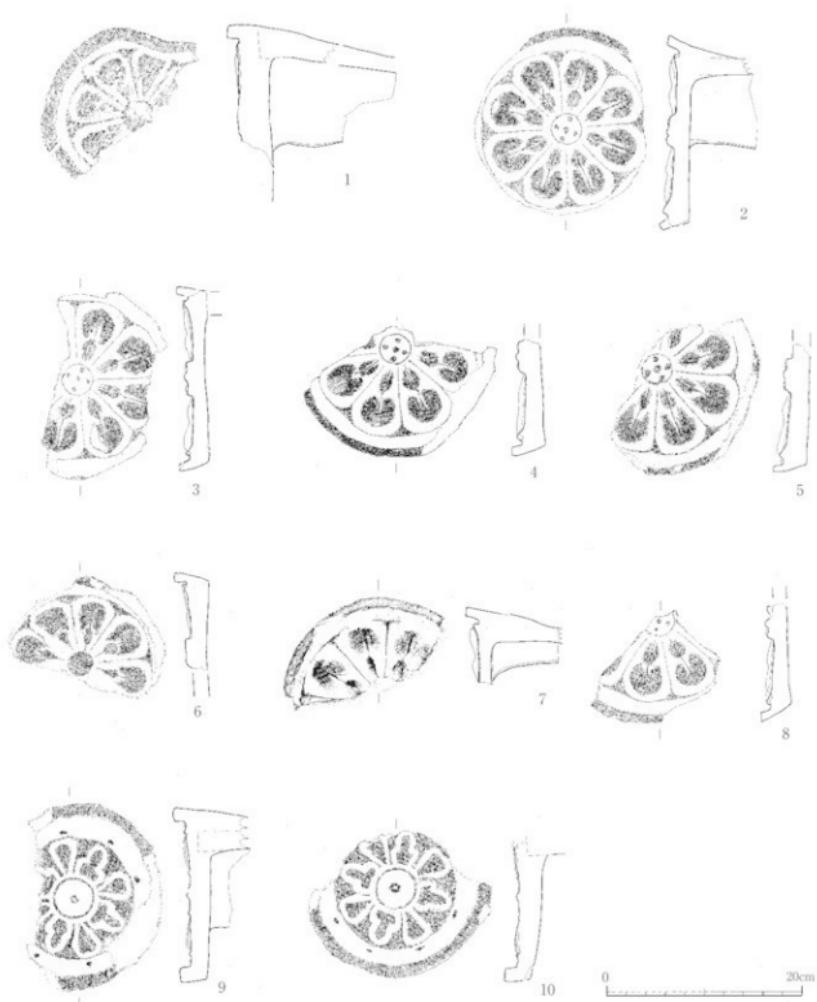
瓦は、陸奥国分寺に関わる古代のものが大半を占めるが、薬師堂に関わる近世初期のものもみられる。古代の軒瓦片は、66点あり、軒丸瓦34点（重弁蓮華文19、宝相草文5、他）軒平瓦32点（偏行唐草文16、連珠文7、山形文4、均整唐草文2、他）、ヘラ書・指書の文字瓦も7点ある。その他には、土師器・須恵器等环破片、鉄製品、古錢などがある。

(6)まとめ

1. 発掘区の全域で旧表土（国分寺創建以前の旧表土）上に整地層が検出され、回廊の柱礎石はその上に据えられている。2. 回廊柱礎石の下層から、国分寺創建期の瓦を含むピットが発見された。3. 第1・3トレーンチにおいて、礎石・根石の失われている部分でも一定の間隔でピットが検出された。4. 第3トレーンチで、江戸時代初め、薬師堂の屋根瓦を焼成したと見られる瓦窯跡が発見された。



第4図 調査区平面図-72 (1/100)



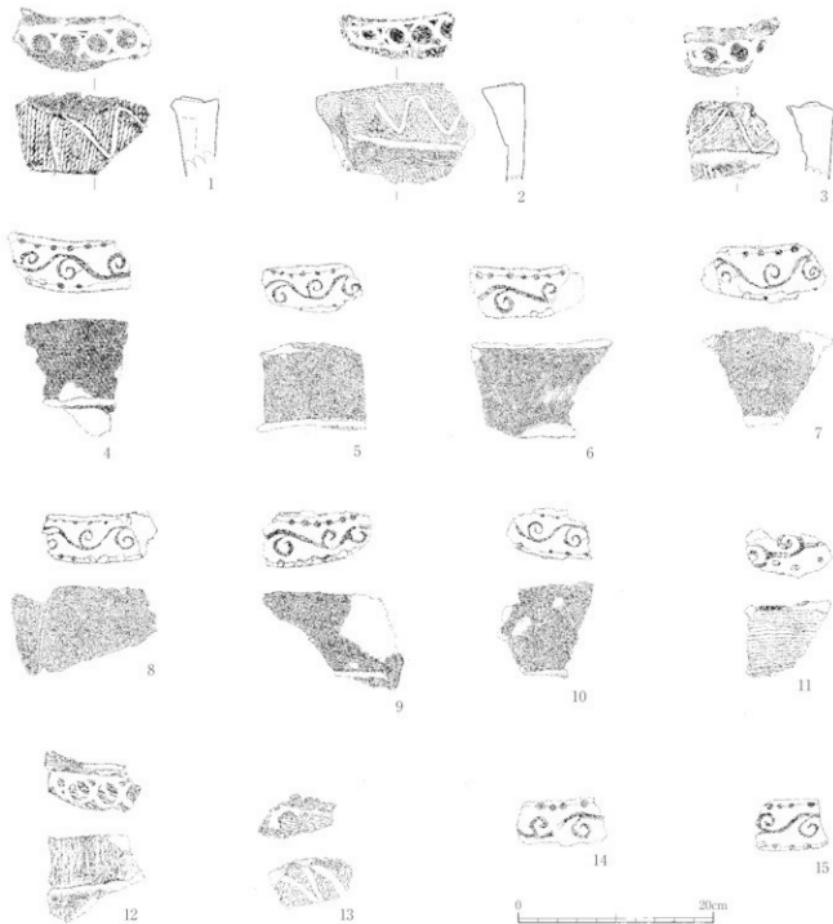
番号	地区	遺構名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 幅 (cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類番号	写真 回数	
1	—	—	—	軒丸瓦	115+	—	10.9+	33	瓦当面: SV2-1黒色 瓦当面: 重弁蓮華文	71-F-1	116	1-1				
2	A-IT.	P1	理主	軒丸瓦	94+	—	—	18.7+	21	瓦当面: 3V7-1黒D, SV8-1M 瓦当面: 重弁蓮華文	72-F-9	114	2-3			
3	A-IT.	P1	—	軒丸瓦	—	—	—	18.5+	21	瓦当面: 2SV6-1黄赤 瓦当面: 重弁蓮華文	72-F-17	114	3-3			
4	A-IT.	P1	—	軒丸瓦	—	—	—	12.0+	—	瓦当面: 2SV4-1黄赤 瓦当面: 重弁蓮華文	72-F-15	112	3-1			
5	A-IT.	P1	—	軒丸瓦	—	—	—	13.1+	26.5	瓦当面: 2SV4-3赤黄 瓦当面: 重弁蓮華文	72-F-2	112	1-3			
6	A-IT.	—	II	軒丸瓦	—	—	—	9.6+	21	瓦当面: 2SV6-1M 瓦当面: 重弁蓮華文	72-F-16	116	3-2			
7	A-IT.	P1	—	軒丸瓦	98+	—	—	7.1+	13+	瓦当面: 5M4-100青灰 瓦当面: 重弁蓮華文	72-F-1	114	1-2			
8	A-IT.	—	II	軒丸瓦	—	—	—	10.6+	26	瓦当面: N4-09K 瓦当面: 重弁蓮華文	72-F-21	114	3-7			
9	A-IT.	—	II	軒丸瓦	—	—	—	17.8	24	瓦当面: 7SV5-1M 瓦当面: 宝相華文	72-F-14	124	2-7			
10	—	—	—	軒丸瓦	—	—	—	17.6+	24	瓦当面: 7SV7-1M白 瓦当面: 宝相華文	72-F-41	124	6-1			

第5図 出土遺物拓影・実測図71-72-1



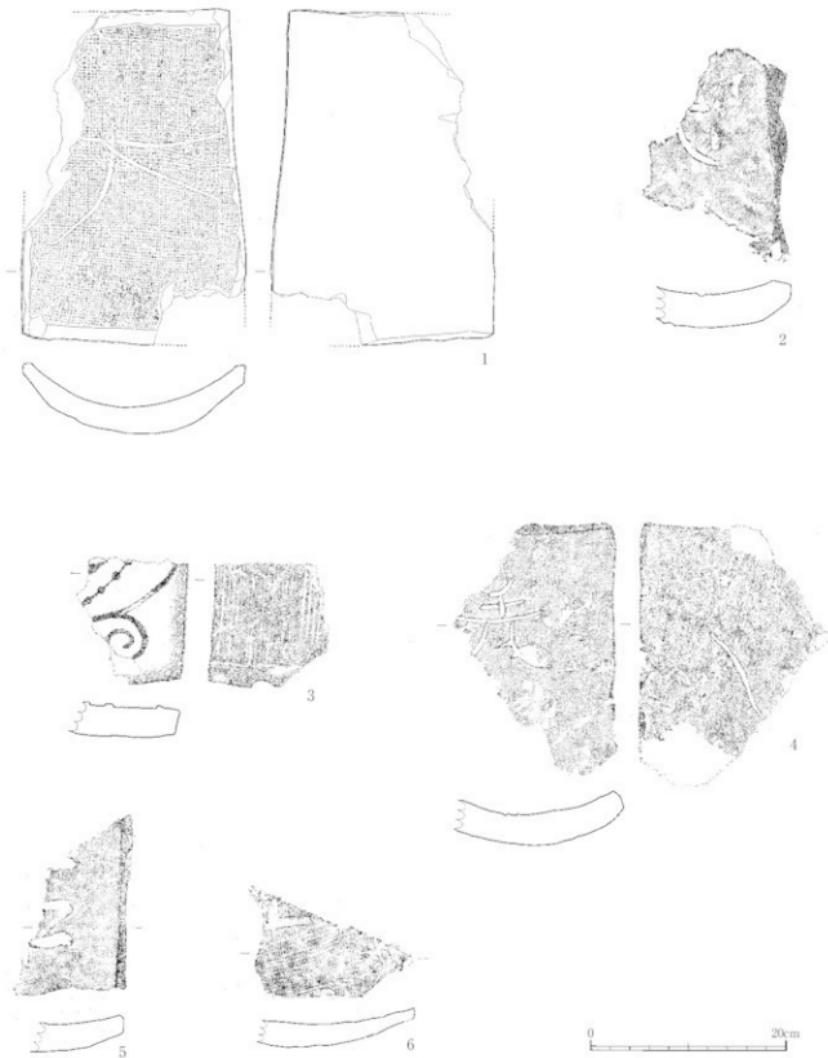
第6図 出土遺物拓影・実測図71・72-2-

番号	地C	遺物名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	A-1T.	P2	—	刹平瓦	18+	—	—	237+	—	瓦当面 N6-096, 237b-256 黄 瓦当面 帯行模章文 制面 ハナメ 72-G-12	231	94			
2	A-1T.	P3	—	刹平瓦	11.9+	—	—	167+	—	瓦当面 N7-096 瓦当面 帯行模章文 制面 ハナメ	72-G-21	12-1			
3	A-1T.	P1	—	刹平瓦	15.4+	—	—	170+	—	瓦当面 N3-096b, N5-096 瓦当面 帯行模章文 制面 ハナメ→ハナメ	72-G-8	231	84		
4	A-1T.	P1	—	刹平瓦	10.5+	—	—	169+	—	瓦当面 N7-096d, N5-096 瓦当面 帯行模章文 制面 ハナメ→ハナメ	72-G-2	231	72		
5	A-1T.	P1	—	刹平瓦	11.2+	—	—	180+	—	瓦当面 N4-096, N6-096 瓦当面 帯行模章文 制面 ハナメ→ハナメ	72-G-16	231	10-4		
6	A-1T.	P1	—	刹平瓦	15.4+	—	—	19+	—	瓦当面 N6-096 瓦当面 帯行模章文 制面 ハナメ→ハナメ	72-G-4	231	74		



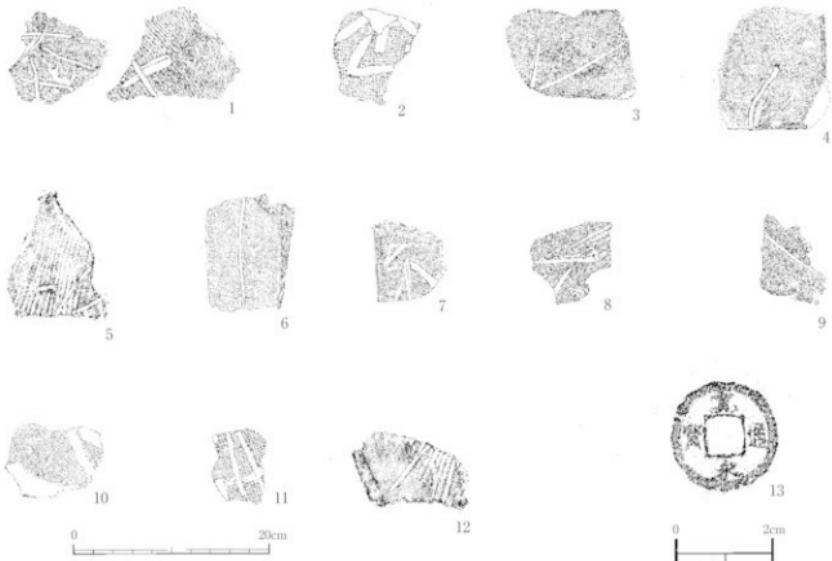
番号	地区	遺物名	部位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	A-3T-	—	B	軒平瓦	8.1+	—	—	15+	—	瓦当面: N4.0K, N7.0K	1.5W	斜上加 素面+引目目	72-G-25	262	13.1
2	A-4T-	—	B	軒平瓦	10+	—	—	128+	—	瓦当面: N5.0K, N6.0K	1.5W	斜上 加 素面+引目目	72-G-19	262	11.3
3	A-4T-	—	B	軒平瓦	7.1+	—	—	100+	—	瓦当面: N6.0K, N3.0K	1.5W	斜上 加 素面+引目目	72-G-22	262	12.2
4	A-1T-	P1	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-6	231	8.2		
5	A-1T-	P1	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-3	231	7.3		
6	A-1T-	P1	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-1	231	7.1		
7	A-1T-	P1	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-7	231	8.3		
8	A-1T-	P1	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-5	231	8.1		
9	A-1T-	—	B	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-18	231	11.2		
10	A-1T-	P1	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-9	231	9.1		
11	A-1T-	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-26	234	13.2		
12	A-3T-	P1	瓦上	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 連續文	72-G-23	262	12.3		
13	A-2T-	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 連續文	72-G-11	262	9.3		
14	A-4T-	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-20	231	11.4		
15	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	瓦当面: 扇行唐草文	72-G-27	231	13.3		

第7図 土出土遺物拓影・実測図71・72-3



第8図 土出土遺物拓影・実測図71・72-4

番号	地区	遺構名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	真正面長 (cm)	真正面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	—	—	平瓦	平瓦	24.2	23	—	—	—	古面・褐色	褐色・有目板	—	72-G-37	—	15-2
2	A-IT.	—	表土	平瓦	20.0	13.7	3.4	—	—	古面・褐色	褐色・有目板	—	72-G-40	—	15-5
3	A	—	—	兔板	14.0	12.0	3.4	—	—	古面・褐色	褐色・有目板	—	72-G-41	—	16-7
4	A-IT.	—	—	平瓦	25.6	17.4	3.2	—	—	古面・褐色	褐色・有目板	—	72-G-30	—	14-1
5	A	—	—	平瓦	17.5	9.5	3.1	—	—	古面・褐色	褐色・有目板	—	72-G-44	—	16-3
6	A-IT.	—	B	平瓦	12.0	16.1	2.5	—	—	古面・褐色	褐色・有目板	—	72-G-38	—	15-3



番号	地名	遺物名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面積 (cm ²)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-43	—	16.2
2	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-29	—	13.5
3	A-2T	—	I	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-41	—	15.6
4	—	P3	埋土	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-28	—	13.4
5	A-2T	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-42	—	16.1
6	—	P3	埋土	丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72F-42	—	6.2
7	A-1T	P1	—	丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72F-43	—	6.3
8	A-2T	—	I	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-39	—	15.4
9	A-1T	—	II	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-35	—	14.6
10	A-4T	—	II	丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72F-45	—	6.5
11	A-1T	—	II	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-31	—	14.2
12	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	72G-33	—	14.4

番号	地名	遺物名	層位	種別・器種	H (mm)	重 (g)	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
13	A-3T	—	表土	金属製品・鉄質	229	20	新寶永鏡	72N-4	—	16.6

第9図 出土遺物拓影・実測図71・72—5



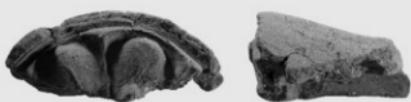
1. 71-F-1



2. 72-F-1



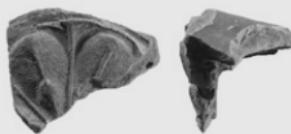
3. 72-F-2



4. 72-F-3



5. 72-F-4



6. 72-F-5



7. 72-F-6

写真図版 1 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物①



1. 72-F-7



2. 72-F-8



3. 72-F-9



4. 72-F-11



5. 72-F-12



6. 72-F-13



7. 72-F-14



写真図版2 1971・72(昭和46・47)年度出土遺物②



1. 72-F-15



2. 72-F-16



3. 72-F-17



4. 72-F-18



5. 72-F-19



6. 72-F-20



7. 72-F-21

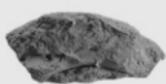


8. 72-F-22



9. 72-F-23

写真図版3 1971・72(昭和46・47)年度出土遺物③



1. 72-F-24



2. 72-F-25



3. 72-F-26



4. 72-F-27



5. 72-F-28

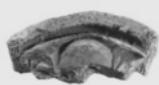


6. 72-F-29



7. 72-F-30

写真図版 4 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物④



1. 72-F-31



2. 72-F-32



3. 72-F-33



4. 72-F-34



5. 72-F-37



6. 72-F-38



7. 72-F-39



8. 72-F-40

写真図版 5 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物⑤



1. 72-F-41



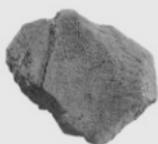
2. 72-F-42



3. 72-F-43



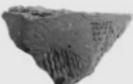
4. 72-F-44



5. 72-F-45



6. 72-F-46



7. 72-F-47

写真図版 6 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物⑥



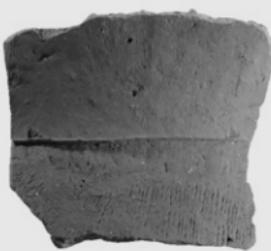
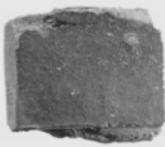
1. 72-G-1



2. 72-G-2

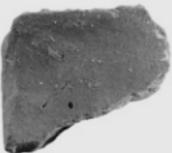


3. 72-G-3



4. 72-G-4

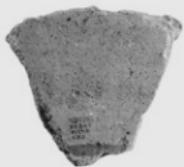
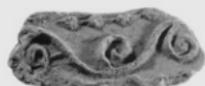
写真図版 7 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物⑦



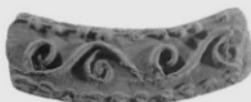
1. 72-G-5



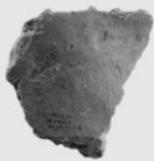
2. 72-G-6



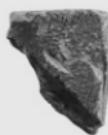
3. 72-G-7



4. 72-G-8



1. 72-G-9



2. 72-G-10



3. 72-G-11



4. 72-G-12

写真図版 9 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物⑨



1. 72-G-13



2. 72-G-14



3. 72-G-15



4. 72-G-16

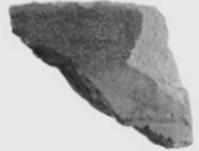
写真図版10 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物⑩



1. 72-G-17



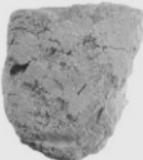
2. 72-G-18



3. 72-G-19



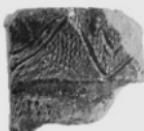
4. 72-G-20



写真図版11 1971・72(昭和46・47)年度出土遺物⑪



1. 72-G-21



2. 72-G-22



3. 72-G-23

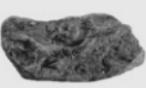


4. 72-G-24

写真図版12 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物⑫



1. 72-G-25



2. 72-G-26



3. 72-G-27



4. 72-G-28



5. 72-G-29

写真図版13 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物⑬



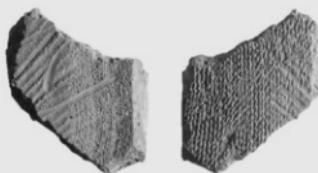
1. 72-G-30



2. 72-G-31



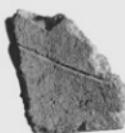
3. 72-G-32



4. 72-G-33



5. 72-G-34



6. 72-G-35

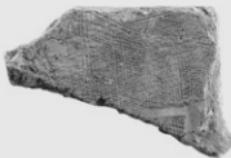
写真図版14 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物¹⁴



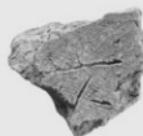
1. 72-G-36



2. 72-G-37



3. 72-G-38



4. 72-G-39



5. 72-G-40



6. 72-G-41

写真図版15 1971・72(昭和46・47)年度出土遺物⑮



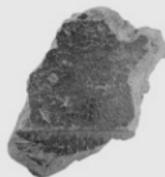
1. 72-G-42



2. 72-G-43



3. 72-G-44



4. 72-G-45



5. 72-G-46



6. 72-N-1



7. 72-H-1

写真図版16 1971・72（昭和46・47）年度出土遺物^⑯

第3章 1973(昭和48)年度発掘調査

1. 調査経過

環境整備事業のための基礎資料を補充することを目的に、環境整備事業事前調査の第2次として、(1) 塔院廻廊跡、(2) 篠坊跡、(3) 外郭南辺築地跡の調査を実施した。

調査期間は、昭和48年12月10日から49年1月31日までである。

(1) 塔院迴廊跡 (A區)

塔院回廊跡では、礎石などの遺構は地表面では認められないものの、従来の調査で、根石が検出され柱間はほぼ確認されていた。しかし、基壇幅など詳細であり、昭和47年の調査で根石部分から性格不明のピットなどが検出されていたことから、それらの確認にため調査を実施した。調査区は、塔心礎真東の塔廻廊跡東辺中央に東西6m×南北5mに設定した。地表下40~50cmで層厚5~6cmの白色シルト整地層を検出し、この下層の暗褐色堅密層地上で、根石群を2ヶ所検出した。また、これら根石の据え方と考えられる浅いピットを切る2本の溝も検出された。

(2) 僧坊跡 (B区)

僧坊跡は薬師堂北裏の杉林中に位置していることから、これまで広範囲におよぶ調査が実施できず、建物構造等の詳細が殆ど把握できなかった。今回は基壇規模や建物柱位置の確認を目的に、僧坊跡東半部を中心に3ヶ所にトレンチを設定して調査を実施した。

第1トレチは僧坊跡中央部付近に南北18m×東西5mで設定した。トレチ南半の表下土50~60cmで4基の根石群を検出したが、礎石は発見できなかった。また、トレチ南端で東西方向の溝跡を1条検出した。トレチ北半は削平や搅乱が著しく、基壇、礎石、根石等の遺構は確認できなかった。

第2トレーニングは僧坊跡東南部付近に東西19m×南北3mで設定した。表土下60cm程度、黄色土・黒色土混合の整地層を検出したが、礎石・根石等は発見できなかった。しかし、トレーニング南壁に沿って、東西方向に伸びる溝跡を1条検出、第1トレーニング検出の溝跡と一連の遺構と考えられた。

第3トレンチは僧坊跡北東部に東西方向に設定したが、調査、擾乱が著しく、遺構は確認できなかつた。

(3) 外郭南刃築地跡 (C区)

外郭南辺築地跡は、現国分寺仁王門の東に東西方向に延びる高まりが残り、寺域外郭の土壠と考えられていた。今回の調査は、その性格と規模を確認する目的で、T字形に29m²の調査区を設定して実施した。その結果、土壠状の高まりは築地土壠であることが判明した。



第10図 調査区位置図-73

2. 発見遺構・出土遺物

(1) 塔院回廊跡（A区）

塔心礎の真東、塔院廻廊東辺中央で根石群を2ヶ所（根石A・B）検出した。根石は整地層を浅く掘り込んだ直径1.2m程の不整円形の掘り方の中に環状に設置されていた。根石群A・Bの芯々距離は約3.3mである。

根石群や整地層を切って、南北方向に延びる溝跡を2条（溝A・B）検出した。調査区の北にさらに延び、全容は不明である。溝Aは幅22~23m、長さ3.6m以上、深さ約1.2mで、壁はほぼ直立する。底面は中央には深さ30cmほどの落ち込みがある。溝Bは幅、長さとも不明だが、深さ約1.5mで壁はほぼ直立する。両溝堆積土中から、宝相華文軒平瓦片が出土しており、平安時代貞觀年間以降の溝と考えられる。

整地層上面の白色土層を主に、多量の瓦が出土した。軒丸瓦は重弁蓮華文、宝相華文、軒平瓦は偏行唐草文、連珠文などが多い。土器類は極めて少なかった。

(2) 僧坊跡（B区）

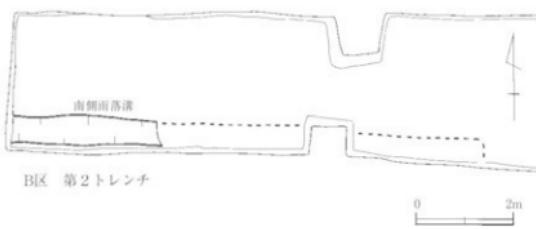
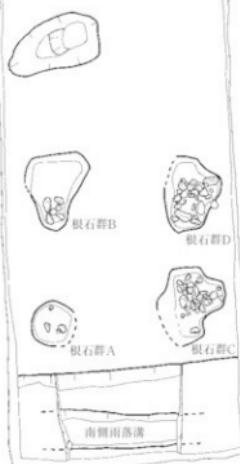
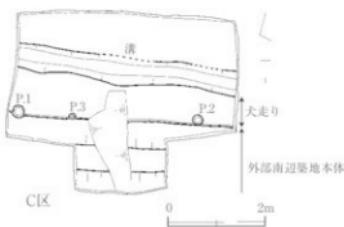
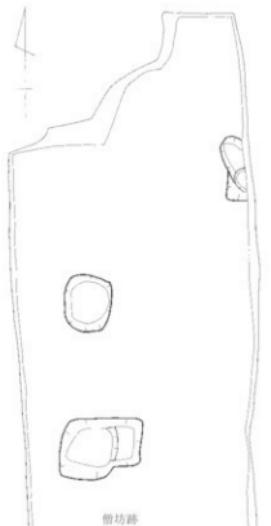
中央部に設定した第1トレチ南半部で整地層の上面から、礎石据え方と考えられる根石群を4ヶ所（根石A・B・C・D）を検出した。礎石は検出されなかつた。整地層の厚さは30~50cmで、根石群A-C列の南1.5m付近で10cm程の段差で落ち込む。段下には塔基壇周囲と同様の白色土層が認められたことから、ここが僧坊跡基壇の南縁端と考えられた。

また、この白色土層の下層から、黄黒褐色整地層が検出され、根石群A-C列の南1.9m付近で落ち込む溝が1条検出された。この溝は上幅70cm前後、底面幅40~50cm、深さ6~8cmで、根石群列と同方向の東西に延びることから、基壇南側の雨落溝と考えられる。溝内からは多くの瓦の他、土師器、須恵器等も出土した。軒丸瓦は国分寺創建期の重弁蓮華文、土師器は成形にロクロを使用しない有段丸底で内面黒色処理、須恵器は回転ヘラ切り、回転ヘラケズリ調整のもので、いずれも奈良時代中頃から後半期の特徴を示している。トレチ南端の溝跡から北に14.4m程の地点で、基壇南縁端で検出されたものと同様の白色土が認められたことから、この付近が僧坊跡基壇の北縁端と考えられた。

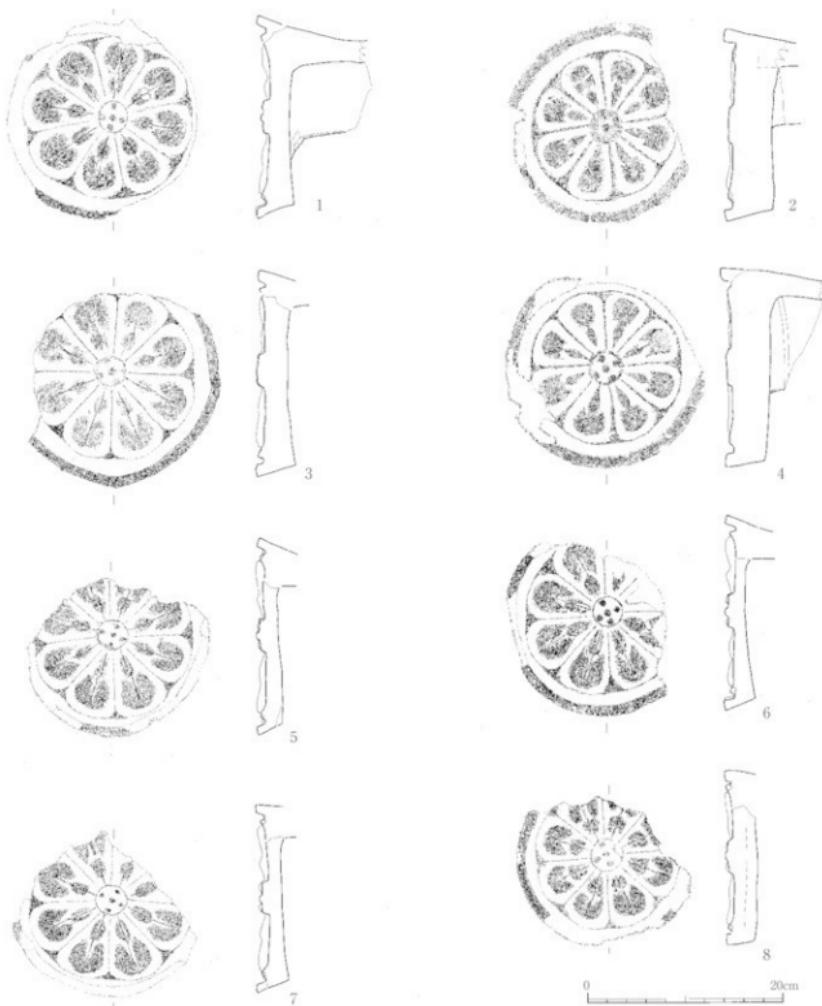
第2トレチでは、表土下60cmで黄色・黒色混合土の整地層を検出したが、根石、礎石等は検出されなかつた。トレチ南縁に沿って東西方向に延びる溝跡を1条検出した。この溝は第1トレチ南端で検出の溝跡と同様の様相を呈し、トレチ西端から約10mまで確認され、延長線上にもあたっていることから、一連の雨落溝と考えられた。確認された雨落溝の東端は、伽藍中軸線の通る僧坊跡中心から約38mにあたる。

(3) 外郭南辺築地跡（C区）

調査区の南半で、東西方向に延びる築地の北縁を検出した。築地基底幅は2.2m以上であるが南縁は不明である。遺存する高さは築成下面から50~60cmである。土層断面によれば、黄色土と黒色土の互層を成す版築工法が認められる。この版築積み土は黒色旧表土層上にはほぼ水平に積まれているが、大きく上層部と下層部に大別される。上層部は厚さ10cm前後の互層で積まれる築地本体部、下層部は2~3cmの細互層で極めて硬く締まっており、築地北側の犬走りをも含む築地本体の基層と考えられる。上層の築地本体部分の高さは40cm前後である。築地本体の北縁に沿って、3つのピットが検出された。ピット1・2は直径30~40cm、深さ30cm程で、芯々距離は5.7mである。この中間部は搅乱により不明であるが、ここに同様ピットの存在を想定すると各ピットは約3m(10尺)の間隔となる。これは外郭西辺で確認された柱穴列の様相と類似しており、築地寄せ柱と考えられる。築地本体の北側には幅70cm程の緩やかな傾斜の平坦面が認められ、犬走りと考えられる。さらに犬走りの北側には、幅50cm、深さ15cm前後、横断面U字形の溝跡が検出された。築地跡周辺からは、重弁蓮華文軒丸瓦、偏行唐草文軒平瓦等の瓦片が若干出土した。

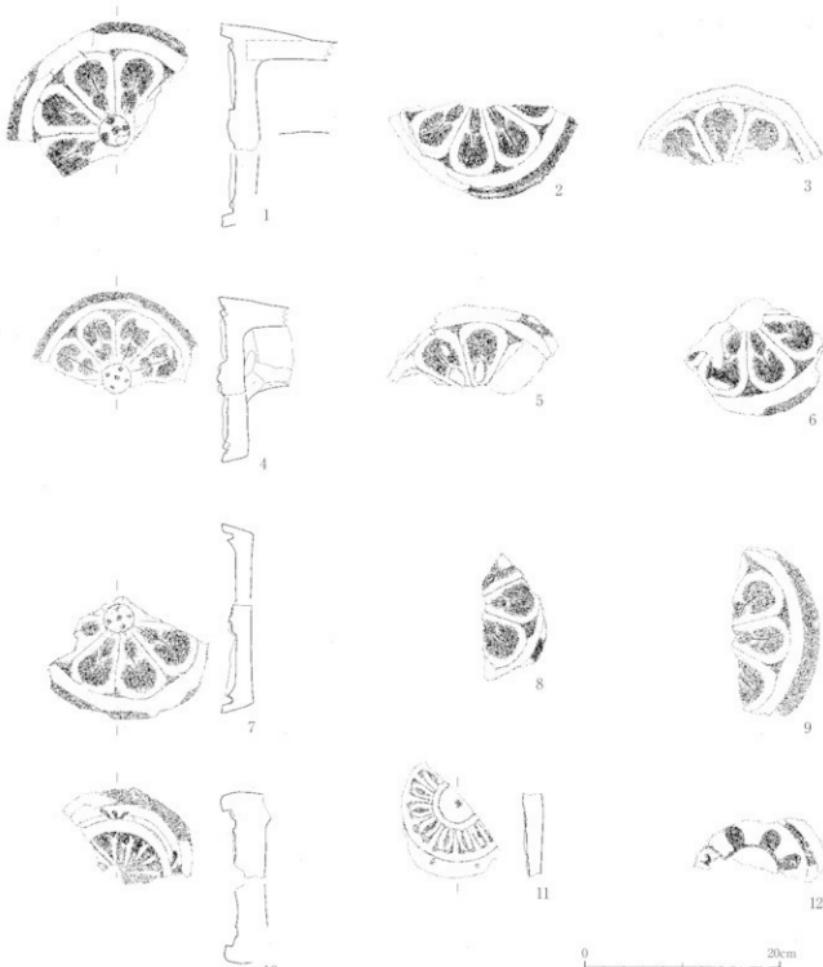


第11図 調査区平面図-73 (1/100)



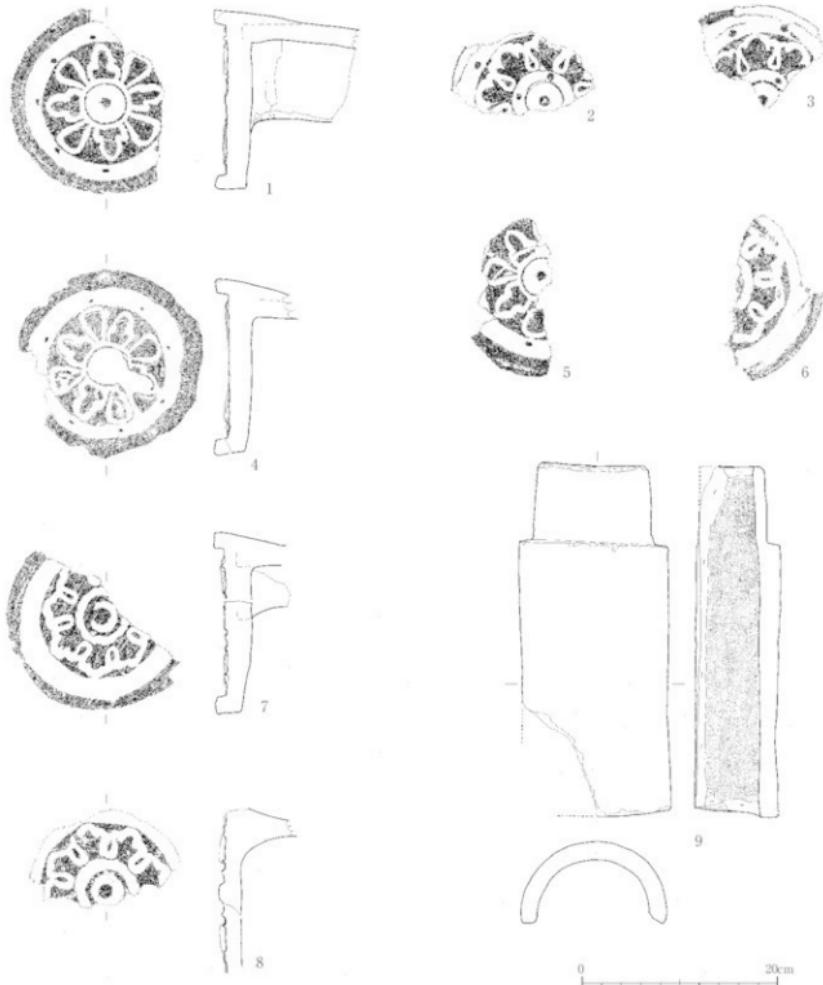
番号	地区	遺跡名	層位	種別	最大径 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 回数
1	A	—	—	軒丸瓦	11.4+	—	197+	2.9	3.58	272-284	22084 黄	瓦当面：墨分離墨文	73-F-30	112	21.6
2	A	—	—	軒丸瓦	—	—	198+	4.8+	3.58	2735-42-485	—	瓦当面：墨分離墨文	73-F-31	115	20.1
3	B	—	—	軒丸瓦	—	—	196+	3.2	3.58	212-38	217-361	瓦当面：墨分離墨文	73-F-17	112	20.3
4	A	—	—	軒丸瓦	11.0+	—	—	204	4.5	3.58	216-287+7	瓦当面：墨分離墨文	73-F-3	115	18.5
5	C	—	—	軒丸瓦	—	—	158+	2.3	3.58	217-108	216-108	瓦当面：墨分離墨文	73-F-34	112	23.9
6	A	—	—	軒丸瓦	—	—	179+	2.6	3.58	216-108	215-108	瓦当面：墨分離墨文	73-F-6	112	19.3
7	B	—	—	軒丸瓦	—	—	159+	2.3	3.58	217-108	2016 墨1-7%	瓦当面：墨分離墨文	73-F-46	112	23.1
8	B	—	—	軒丸瓦	—	—	180+	3.3+	3.58	217-108	217-108	瓦当面：墨分離墨文	73-F-16	114	20.2

第12図 出土遺物拓影・実測図73-1



第13図 出土遺物拓影・実測図73-2

番号	地区	遺物名	部位	種別	最木長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	高さ前 (cm)	耳当前 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登錄番号	分類	写真 回数
1	A	軒丸瓦	—	軒丸瓦	12.0+	—	—	13.0+	3.3+	天青	2286.62, 2193.17褐色	丸当面：重竹葉唐文	73-F-8	112	19.5
2	A	軒丸瓦	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	天青	—	丸当面：重竹葉唐文	73-F-18	114	20.4
3	B	軒丸瓦	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	天青	—	丸当面：重竹葉唐文	73-F-52	114	23.7
4	A	軒丸瓦	—	軒丸瓦	7.2+	—	—	10.1+	2.7+	天青	2277.207.208	丸当面：重竹葉唐文	73-F-33	116	21.9
5	C	軒丸瓦	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	天青	—	丸当面：重竹葉唐文	73-F-13	—	19.10
6	A	軒丸瓦	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	天青	—	丸当面：重竹葉唐文	73-F-14	—	19.11
7	B	—	軒丸瓦	—	—	—	—	11.1+	2.25+	天青	215.06, 219.08	丸当面：重竹葉唐文	73-F-34	112	21.10
8	B	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	—	天青	—	丸当面：重竹葉唐文	73-F-20	—	20.6
9	A	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	—	天青	—	丸当面：重竹葉唐文	73-F-22	112	20.8
10	C	—	軒丸瓦	—	—	—	—	8.5+	3.25+	天青	192.185, 193.178	丸当面：重竹葉唐文	73-F-9	171	19.6
11	A	—	軒丸瓦	—	—	—	—	8.8+	2.1+	天青	216.194, 216.207-7	丸当面：重竹葉唐文	73-F-5	141	19.2
12	B	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	—	天青	—	丸当面：重竹葉唐文	73-F-25	131	21.1



番号	地区	遺構名	部位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版	
1	A	—	—	軒丸瓦	15.3+	—	—	18.5	2.85	朱5R	20%28R	瓦当面: 宝相草文	73-F-2	124	18.4	
2	A	—	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面: 宝相草文	73-F-44	121	22.10	
3	A	—	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面: 宝相草文	73-F-11	121	19.8	
4	B	—	—	軒丸瓦	8.6+	—	—	18.1	2.8	朱5R	20%28R	瓦当面: 宝相草文	73-F-45	124	22.11	
5	A	—	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面: 宝相草文	73-F-37	124	22.3	
6	B	—	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面: 宝相草文	73-F-51	122	23.6	
7	A	—	—	軒丸瓦	—	—	—	18.7+	2.8	朱5R	24%28.4リープ	瓦当面: 宝相草文	73-F-7	122	19.4	
8	A	—	—	軒丸瓦	6.6+	—	—	9.5+	2.4	朱5R	24%28.4リープ	瓦当面: 宝相草文	73-F-4	122	19.1	
9	A	—	—	丸瓦	36	16	2.4	—	—	白底	31%18	瓦当: 裏7.4+23+7.7	瓦当: 41%18	73-F-55	—	24.1

第14図 出土遺物拓影・実測図73-3



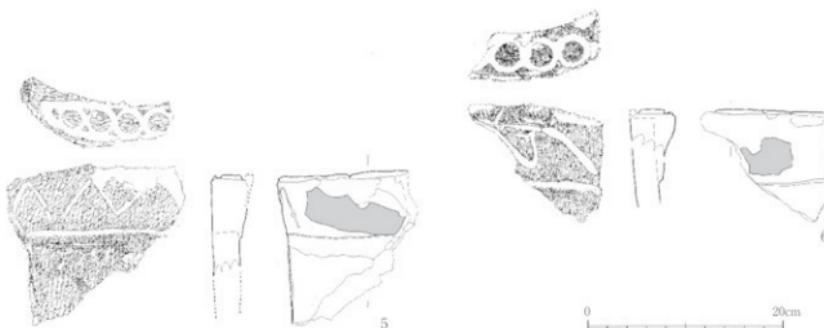
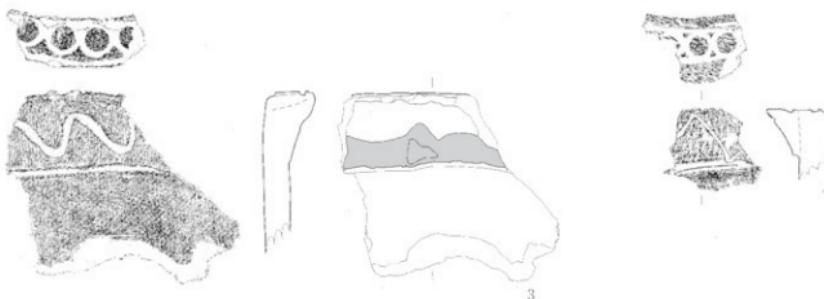
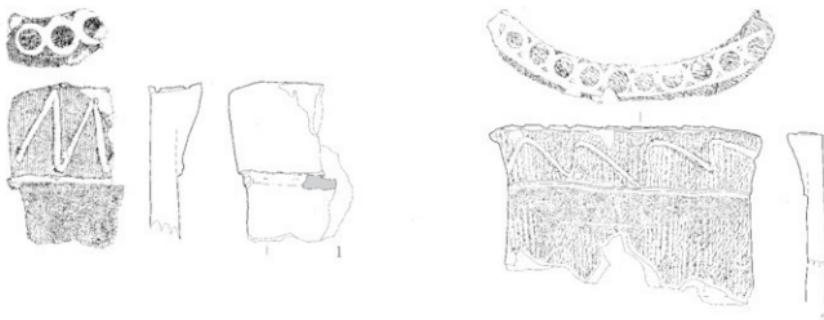
第15図 出土遺物拓影・実測図73-4

番号	地区	遺物名	射位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	直前面長 (cm)	直前面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 回数
1	C	—	—	軒平瓦	20.6+	20.4+	—	17.8+	—	A598, M7-06(1), 2307-26R	A598, 製作工程: 1-27-1-27-1, 1688001	73-G-34	231	30-2	
2	A	—	—	軒平瓦	11.6+	9.6+	1.6	8.0+	—	A598, M7-06(2), 2307-08D	A598, 製作工程: 1-27-1-27-1, 1688001	73-G-13	231	27-1	
3	A	—	—	軒平瓦	13.5+	15.3+	2.1	12.5+	—	A598, M7-06(3), 2307-07A	A598, 製作工程: 1-27-1-27-1, 1688001	73-G-30	232	29-4	
4	A	—	—	軒平瓦	9.0+	8.3+	2.3	9.3+	—	A598, M7-06(4), 2307-09A	A598, 製作工程: 1-27-1-27-1, 1688001	73-G-16	231	27-2	
5	B	—	—	軒平瓦	9.1+	17.5+	—	14.5+	—	A598, M7-06(5), M4-06, M7-06(6)	A598, 製作工程: 1-27-1-27-1, 1688001	73-G-19	231	27-5	
6	A	—	—	軒平瓦	8.5+	9.6+	1.6+	9.0+	—	A598, M7-06(7), M2-14(8)	A598, 製作工程: 1-27-1-27-1, 1688001	73-G-43	232	31-5	
7	B	—	—	軒平瓦	11.7+	13.9+	—	13.5+	—	A598, M7-06(8)	A598, 製作工程: 1-27-1-27-1, 1688001	73-G-9	231	26-1	



第16図 出土遺物拓影・実測図73-5

番号	地区	遺物名	部位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 施者	登録番号	分類 番号	写真 回数
1	B	—	—	軒平瓦	23.4+	32.0+	—	27.0+	—	灰5B:1207.06.23.07.26.8	瓦当面:編行吉草文、裏面:ハナメ	73-G-41	231	31-3
2	B	—	—	軒平瓦	16.5+	22.3+	—	17.7+	—	灰5B:1208.06.23.07.26.8	瓦当面:編行吉草文、裏面:ハナメ+アマメ	73-G-1	231	25-1
3	—	—	—	軒平瓦	8.5+	17.0+	—	11.0+	—	灰5B:1209.06.23.07.26.8	瓦当面:編行吉草文、裏面:ハナメ+アマメ	73-G-29	231	29-3
4	C	—	—	軒平瓦	11.4+	—	2	19.5+	—	灰5B:1317.06.23.07.26.8	瓦当面:編行吉草文、裏面:ハナメ	73-G-11	231	26-3
5	—	—	—	表様 軒平瓦	7.4+	15.5+	—	8.7+	—	灰5B:1208.06.23.07.26.8	瓦当面:編行吉草文、裏面:ハナメ	73-G-8	231	25-8
6	A	—	—	軒平瓦	9.5+	14.0+	—	11.7+	—	灰5B:1305.06.23.07.26.8	瓦当面:編行吉草文、裏面:ハナメ	73-G-38	231	30-6
7	A	—	—	軒平瓦	—	—	—	13.7+	—	灰5B:1207.06.23.07.26.8	瓦当面:編行吉草文	73-G-36	231	30-4



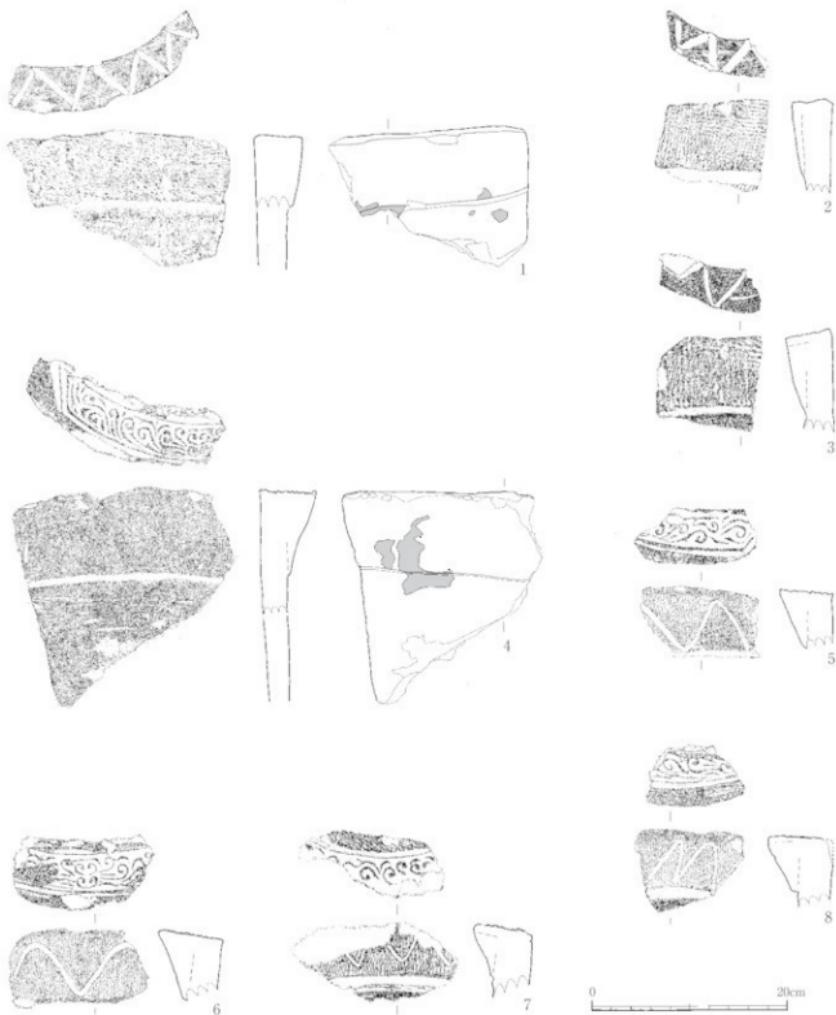
番号	地区	遺物名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 様式	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	A	—	—	軒平瓦	16.0+	9.5+	2.8	9.7+	—	瓦当面：通常文、裏面：黒タマ→ 101U18K	73-G-5	261	25-5		
2	—	—	—	軒平瓦	17.0+	—	—	27.8+	—	瓦当面：N7-09E1J, N8-09E 裏面：通常文、黒タマ→ 73-G-26	262	28.6			
3	A	—	—	軒平瓦	17.0+	19.8+	—	12.6+	—	瓦当面：N9H-07J, N9H-08K 裏面：通常文、黒タマ→ 73-G-18	261	27.4			
4	A	—	—	軒平瓦	7.2+	11.8+	—	9.5+	—	瓦当面：N5-09E 裏面：通常文、黒タマ→ 73-G-4	262	25.4			
5	A	—	—	軒平瓦	15.4+	—	2.7	14.3+	—	瓦当面：N2-02E, N3-03E 裏面：黒タマ→通常文、赤色絞り付 73-G-31	262	29.5			
6	A	—	—	軒平瓦	11.2+	—	2.3+	12.9+	—	瓦当面：N7-09E1J, N3-08E0K 裏面：黒タマ→通常文、赤色絞り付 73-G-24	261	28.4			

第17図 出土遺物拓写・実測図73-6



第18図 出土遺物拓物・実測図73-3

番号	地区	遺物名	部位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版		
1	B	—	—	刹子瓦	6.6+	—	—	17.1+	—	±5.0	±0.7-2.8	輪瓦	1010-1018	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	73-G-49	262	32-5
2	B	—	—	刹子瓦	7.1+	—	—	13.0+	—	±5.0	±0.7-3.5	輪瓦	1011-1018	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	73-G-13	262	26-5
3	B	—	—	刹子瓦	20.4+	15.6+	—	7.5+	—	±5.0	±1.7	輪瓦	1012-1018	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	73-G-33	262	30-1
4	B	—	—	刹子瓦	10.2+	15.5+	—	12.4+	—	±5.0	±1.0-2.0	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	1013-1018	73-G-10	262	26-2	
5	—	—	—	刹子瓦	15.0+	10.0+	—	5.8+	—	±5.0	±2.0-3.0	輪瓦	1014-1018	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	73-G-27	262	29-1
6	B	—	—	刹子瓦	8.9+	8.5+	—	4.9+	—	±5.0	±0.9-1.0	輪瓦	1015-1018	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	73-G-18	211	26-6
7	A	—	—	刹子瓦	8.5+	7.5+	—	6.5+	—	±5.0	±2.0-2.5	輪瓦	1016-1018	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	73-G-44	211	31-6
8	—	—	—	刹子瓦	12.8+	11.1+	—	8.5+	—	±5.0	±0.5-1.0	輪瓦	1017-1018	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	73-G-25	211	28-5
9	A	—	—	刹子瓦	20.3+	22.3+	—	22.2+	—	±5.0	±0.8-1.0	輪瓦	1018-1018	瓦当面：墨黒文、側面：墨黒文+輪紋	73-G-32	211	29-6



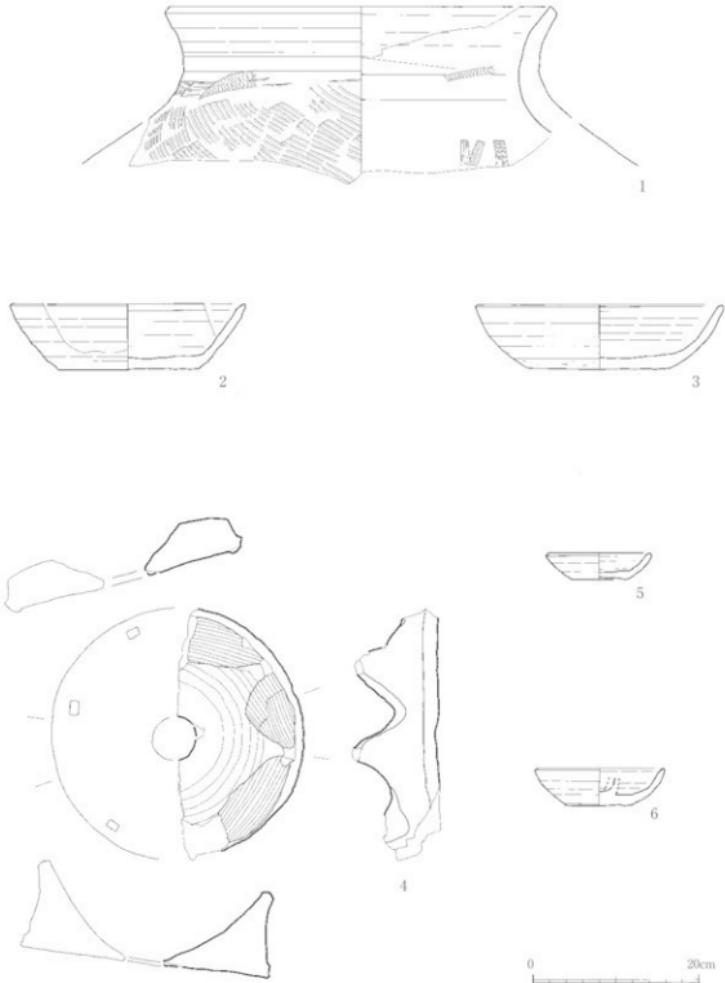
第19図 出土遺物拓影・実測図73-8

番号	地区	遺構名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	A	—	—	軒平瓦	136+	—	—	213+	—	灰色；波打線、輪郭、裏面；赤褐色斑点	丸型；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	未記載	73-G-48	242	32-4
2	C	—	—	軒平瓦	95+	—	—	118+	—	灰色；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	丸型；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	未記載	73-G-42	242	31-4
3	—	—	—	軒平瓦	106+	110+	—	90+	—	灰色；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	丸型；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	未記載	73-G-22	242	28-2
4	A	—	—	軒平瓦	217+	19.3+	2.4	197+	—	灰色；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	丸型；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	未記載	73-G-2	251	25-2
5	A	—	—	軒平瓦	60+	—	—	140+	—	灰色；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	丸型；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	未記載	73-G-6	251	25-6
6	A	—	—	軒平瓦	6.8+	15.0+	—	145+	—	灰色；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	丸型；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	未記載	73-G-47	251	32-3
7	A	—	—	軒平瓦	7.3+	15.3+	—	134+	—	灰色；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	丸型；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	未記載	73-G-28	251	29-2
8	A	—	—	軒平瓦	7.3+	—	—	120+	—	灰色；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	丸型；波打線、輪郭、裏面；鐵ナカタキ	未記載	73-G-20	251	27-6



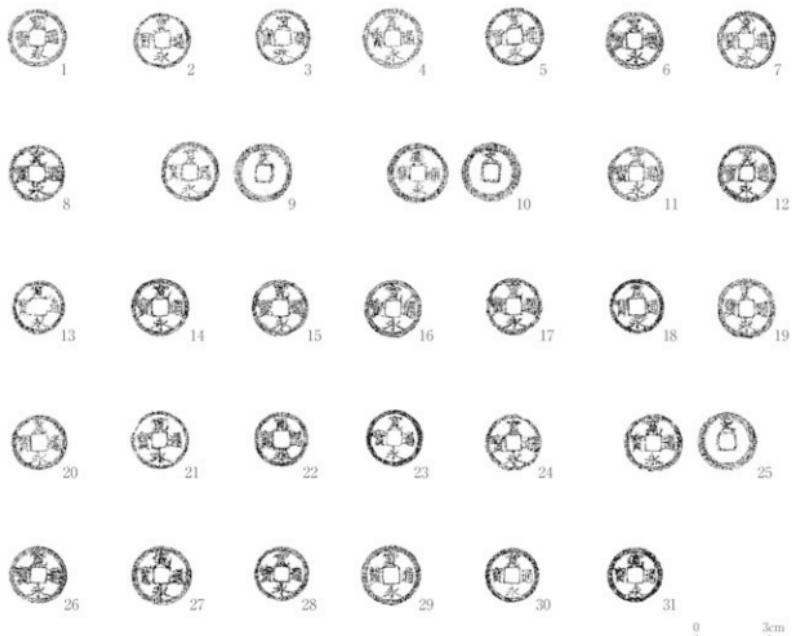
番号	地区	遺構名	部位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	—	—	—	刹平瓦	56+	—	—	130+	—	358-360/16, 25-38	瓦当面：片側斜文、裏面：溝テクノ→ハラツ	—	23-G-3	254	25-3
2	—	—	—	刹平瓦	82+	—	—	138+	—	358-359/26, 37-60	瓦当面：片側斜文、裏面：溝テクノ、凹面	—	23-G-39	254	31-1
3	A	—	—	刹平瓦	53+	—	—	98+	—	358-273/26, 273-100	瓦当面：片側斜文、裏面：溝テクノ→ハラツ	—	23-G-21	254	28-1
4	A	—	—	整地器	刹平瓦	53+	—	122+	—	358-34-35/98	瓦当面：片側斜文、裏面：溝テクノ→ナゲ	—	23-G-17	255	27-3
5	—	—	—	刹平瓦	66+	11.2+	—	83+	—	358-127/65, 127-66他, 216-38	瓦当面：片側斜文、裏面：溝テクノ、凹面	—	23-G-7	254	25-7
6	B	—	—	丸瓦	—	—	—	—	—	—	凸面：斜線「占」	—	23-F-56	—	24-2
7	B	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面：斜面	—	23-G-52	—	33-2
8	B	—	—	圆切瓦	21.4+	23.1	2.3	—	—	358-34/86 瓦面：358-34	凸面：綻テクノキ、凹面：ナゲ	—	23-G-51	—	33-1
9	A	—	—	平瓦	23.0+	23.5+	3.6+	—	—	358-34/86 瓦面：358-34他	凸面：綻テクノ、凹面：有目目→ハラツ	—	23-G-50	—	32-6
10	—	—	—	平瓦	17.3+	16.2+	2.6+	—	—	358-35/86 瓦面：358-34	凸面：平行テクノ→部屋目筋、瓦面：ナゲ	—	23-G-53	—	33-3

第20図 出土遺物拓影・実測図73-9



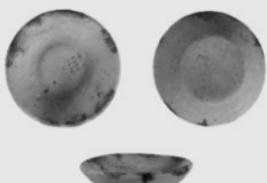
第21図 出土遺物実測図73-10

番号	地C	遺物名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	B	—	—	頸部器	(23.0)	—	(10.2)	外面: SYR4/3に似る赤褐色 内面: 2.5Y3/1Aの赤褐色	外縁: 直線部ロクナダ、体部タキ 内縁: ロクナダ→ヨシビナダ	—	73-E-5	—	18-1
2	B	—	—	頸部器 片	(14.2)	8.4	3.95	外面: 2.5Y3/1A 内面: 7.5Y6/1A	内縁: ロクナダ	—	73-E-1	—	17-3
3	—	—	—	頸部器 片	(15.0)	(9.0)	3.9	外面: 5Y3/4オリーブ色 内面: 3Y4/1B	外縁: 体部ロクナダ、体部下縁回転ヘラケズリ 内縁: ロクナダ 異部: 回転ヘラケズリ	—	73-E-6	—	18-2
4	B	—	I	基盤 残部	—	(15.2)	(5.1)	上部: 10R2/2褐色、 下部: 2.5Y3/1A 内面: SYR6/6	上部: 直線部ロクナダ 内面: ロクナダ	—	73-P-4	—	344
5	B	—	—	有明鏡 陶器	6.4	3.4	1.6	外面: SYR6/6	内縁: ロクナダ	—	73-D-1	—	17-1
6	B-3T.	—	I	有明鏡	7.8	3.8	2.25	外面: 10Y2/2褐色 内面: SY4/3Bオリーブ	内縁: ロクナダ、底部あり 内縁: ロクナダ、底部あり、底部: 回転表切り→ナガ	—	73-I-1	—	33-5

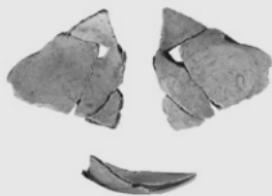


番号	地区	遺物名	層位	種別・器種	径 (mm)	重 (g)	備考	登錄番号	分類 番号	写真 図版
1	熊野勝 (T.T.)	—	表土	金屬製品・ 鉄貨	24.8	25	古窯水鉄	73-N-1	—	35-1
2	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	23.6	25	古窯水鉄	73-N-6	—	35-6
3	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	23.1	30	古窯水鉄	73-N-7	—	35-7
4	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	25.0	35	新窯水鉄	73-N-8	—	35-8
5	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.2	30	古窯水鉄	73-N-10	—	35-10
6	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.8	25	新窯水鉄	73-N-11	—	35-11
7	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.4	35	古窯水鉄	73-N-13	—	35-13
8	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.3	35	古窯水鉄	73-N-15	—	35-15
9	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.6	25	新窯水鉄	73-N-21	—	36-1
10	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.8	30	新窯水鉄	73-N-22	—	36-2
11	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	23.8	25	古窯水鉄	73-N-24	—	36-4
12	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.8	30	古窯水鉄	73-N-25	—	36-5
13	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	22.4	1.0	新窯水鉄	73-N-26	—	36-6
14	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.0	30	古窯水鉄	73-N-27	—	36-7
15	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	23.7	30	古窯水鉄	73-N-28	—	36-8
16	B	—	—	金屬製品・ 鉄貨	24.1	30	古窯水鉄	73-N-30	—	36-10
番号	地区	遺物名	層位	種別・器種	径 (mm)	重 (g)	備考	登錄番号	分類 番号	写真 図版
17	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	23.8	25	古窯水鉄	73-N-32	—	36-12
18	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	23.1	25	新窯水鉄	73-N-33	—	36-13
19	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	24.6	30	古窯水鉄	73-N-35	—	36-15
20	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	23.0	25	新窯水鉄	73-N-36	—	36-16
21	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	24.1	20	古窯水鉄	73-N-38	—	36-18
22	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	22.8	20	新窯水鉄	73-N-39	—	36-19
23	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	23.7	25	古窯水鉄	73-N-44	—	37-4
24	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	23.5	25	古窯水鉄	73-N-45	—	37-5
25	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	23.3	30	新窯水鉄	73-N-46	—	37-6
26	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	24.0	35	古窯水鉄	73-N-47	—	37-7
27	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	24.7	30	新窯水鉄	73-N-49	—	37-9
28	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	23.0	30	古窯水鉄	73-N-51	—	37-11
29	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	24.6	30	古窯水鉄	73-N-52	—	37-12
30	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	22.5	25	新窯水鉄	73-N-53	—	37-13
31	B	—	—	金属製品・ 鉄貨	23.0	25	新窯水鉄	73-N-54	—	37-14

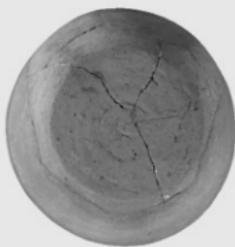
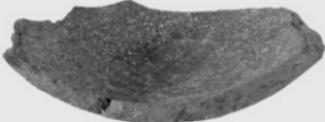
第22図 出土遺物拓影73-11



1. 73-D-1



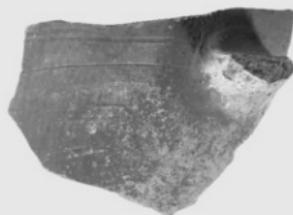
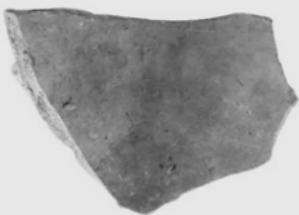
2. 73-D-2



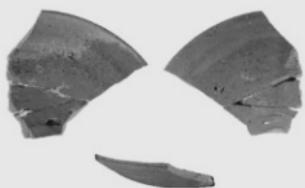
3. 73-E-1



4. 73-E-2

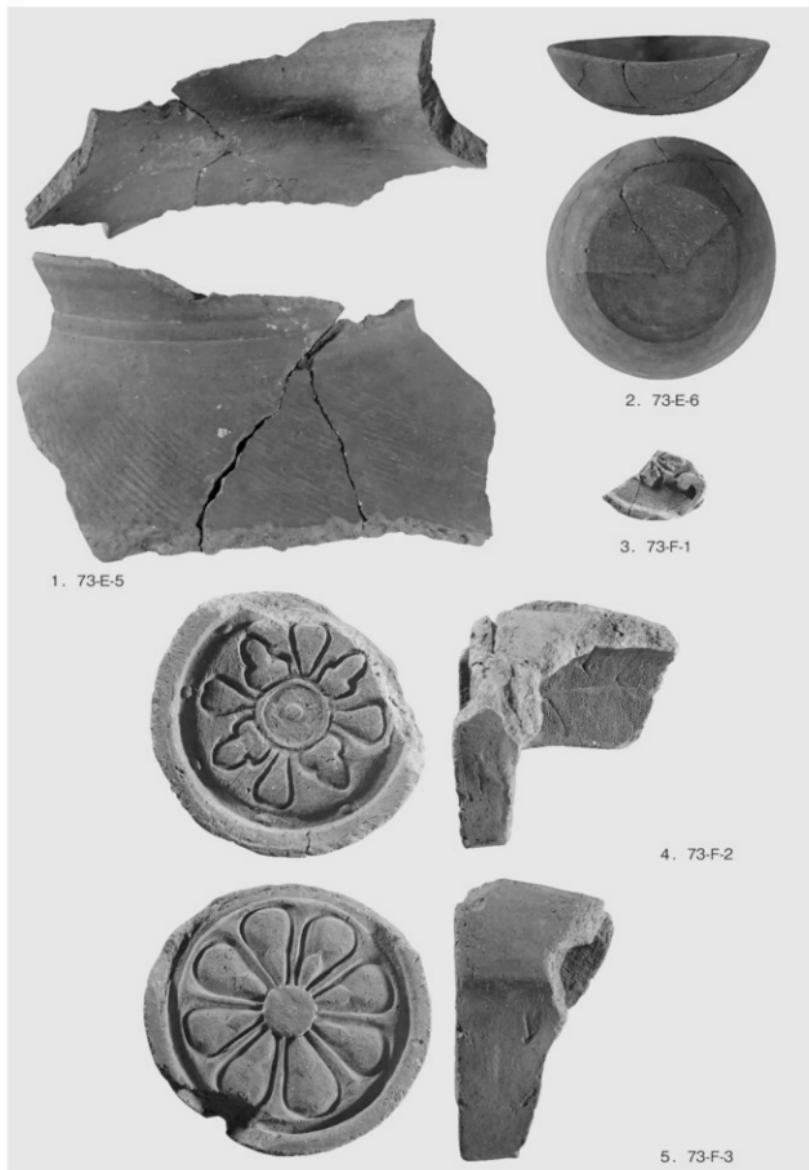


5. 73-E-3

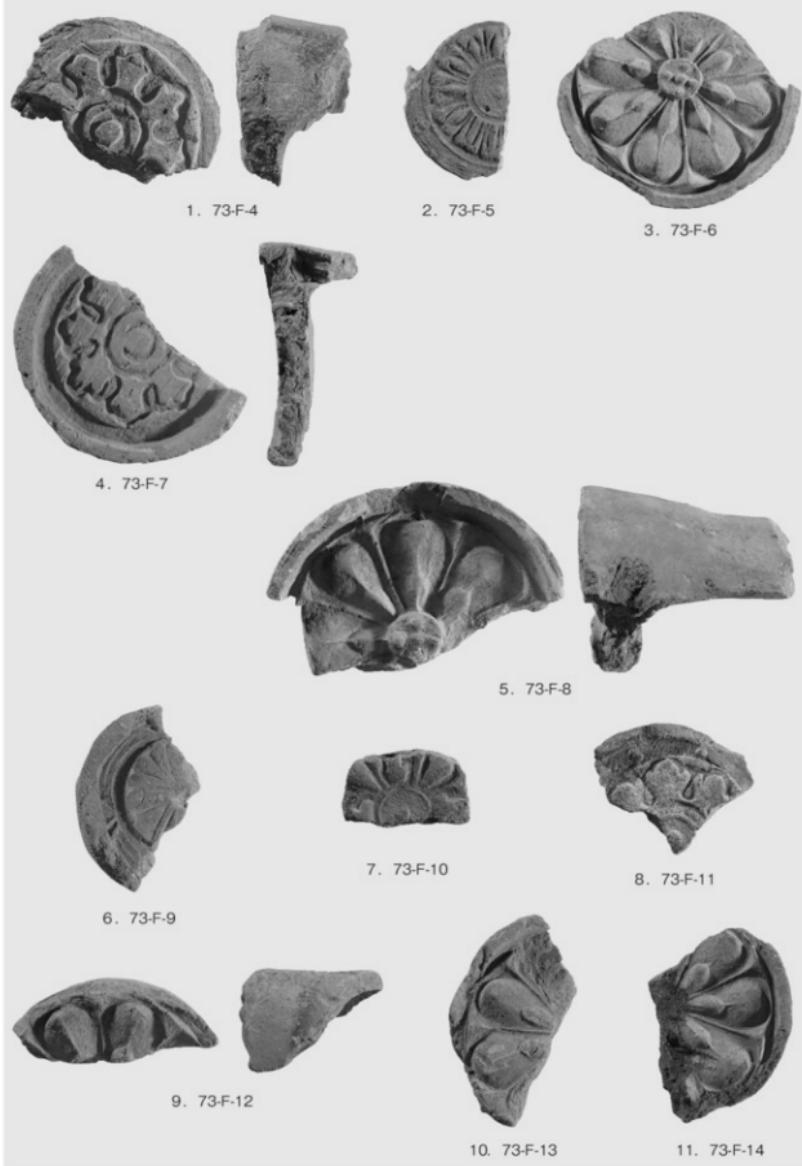


6. 73-E-4

写真図版17 1973（昭和48）年度出土遺物①



写真図版18 1973（昭和48）年度出土遺物②



写真図版19 1973(昭和48)年度出土遺物③



1. 73-F-15



2. 73-F-16



3. 73-F-17



4. 73-F-18



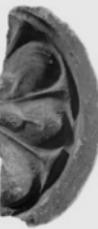
5. 73-F-19



6. 73-F-20



7. 73-F-21



8. 73-F-22



9. 73-F-23



10. 73-F-24

写真図版20 1973（昭和48）年度出土遺物④



1. 73-F-25



2. 73-F-26



3. 73-F-27



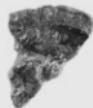
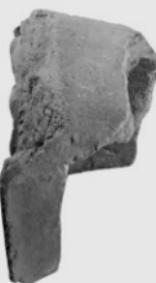
4. 73-F-28



5. 73-F-29



6. 73-F-30



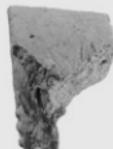
7. 73-F-31



8. 73-F-32



9. 73-F-33



10. 73-F-34

写真図版21 1973(昭和48)年度出土遺物⑤



1. 73-F-35



2. 73-F-36



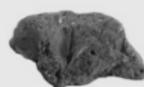
3. 73-F-37



4. 73-F-38



5. 73-F-39



6. 73-F-40



7. 73-F-41



8. 73-F-42



9. 73-F-43



10. 73-F-44



11. 73-F-45

写真図版22 1973（昭和48）年度出土遺物⑥



1. 73-F-46



2. 73-F-47



3. 73-F-48



4. 73-F-49



5. 73-F-50



6. 73-F-51



7. 73-F-52



8. 73-F-53



9. 73-F-54

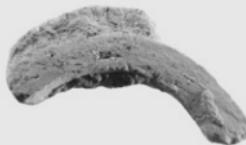
写真図版23 1973（昭和48）年度出土遺物⑦



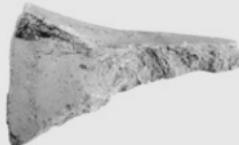
1. 73-F-55



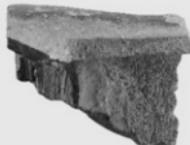
2. 73-F-56



3. 73-F-57



4. 73-F-58



写真図版24 1973（昭和48）年度出土遺物⑧



1. 73-G-1

2. 73-G-2



3. 73-G-3

4. 73-G-4

5. 73-G-5



6. 73-G-6

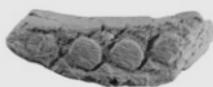
7. 73-G-7

8. 73-G-8

写真図版25 1973（昭和48）年度出土遺物⑨



1. 73-G-9



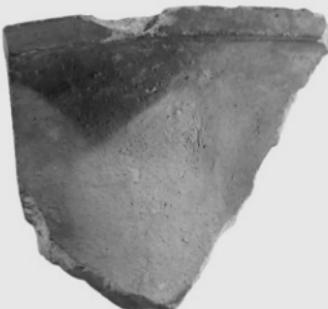
2. 73-G-10



3. 73-G-11



4. 73-G-12



5. 73-G-13



6. 73-G-14

写真図版26 1973（昭和48）年度出土遺物⑩



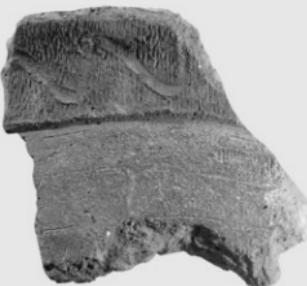
1. 73-G-15



2. 73-G-16



3. 73-G-17



4. 73-G-18

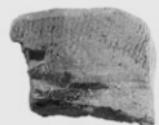


5. 73-G-19

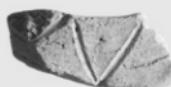


6. 73-G-20

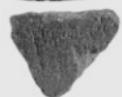
写真図版27 1973（昭和48）年度出土遺物⑪



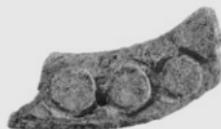
1. 73-G-21



2. 73-G-22



3. 73-G-23



4. 73-G-24

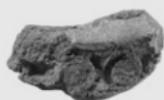


5. 73-G-25



6. 73-G-26

写真図版28 1973（昭和48）年度出土遺物⑫



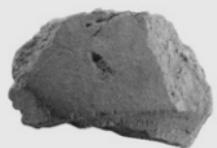
1. 73-G-27



2. 73-G-28



3. 73-G-29



4. 73-G-30



5. 73-G-31



6. 73-G-32



写真図版29 1973（昭和48）年度出土遺物⑬



1. 73-G-33



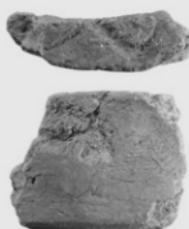
2. 73-G-34



3. 73-G-35



4. 73-G-36



5. 73-G-37



6. 73-G-38

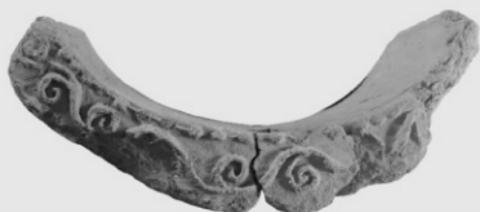
写真図版30 1973（昭和48）年度出土遺物⑭



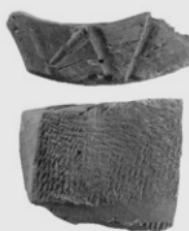
1. 73-G-39



2. 73-G-40



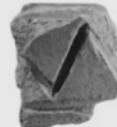
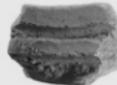
3. 73-G-41



4. 73-G-42



5. 73-G-43



6. 73-G-44

写真図版31 1973（昭和48）年度出土遺物⑯



1. 73-G-45



2. 73-G-46



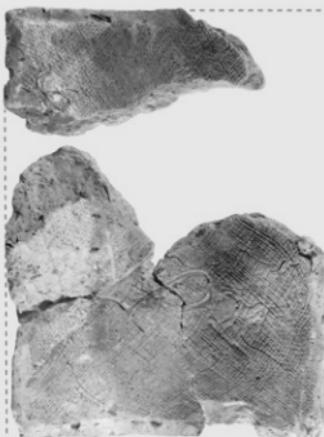
3. 73-G-47



4. 73-G-48

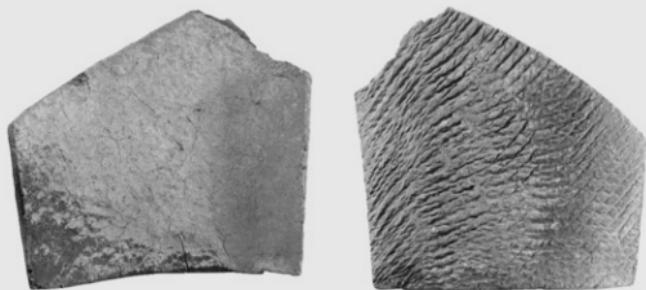


5. 73-G-49



6. 73-G-50

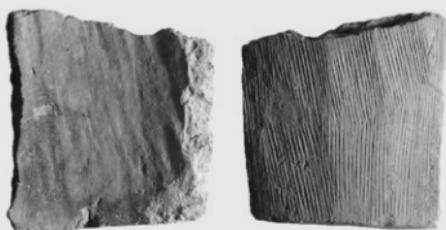
写真図版32 1973（昭和48）年度出土遺物¹⁶



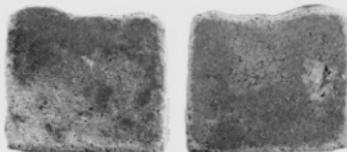
1. 73-G-51



2. 73-G-52



3. 73-G-53

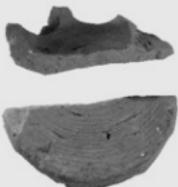


4. 73-H-1

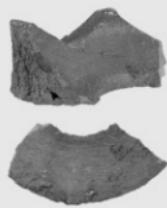


5. 73-I-1

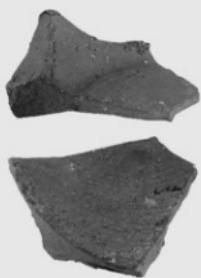
写真図版33 1973（昭和48）年度出土遺物⑯



1. 73-P-1



2. 73-P-2



3. 73-P-3



4. 73-P-4

写真図版34 1973（昭和48）年度出土遺物¹⁸



1. 73-N-1



1. 73-N-21



2. 73-N-22



3. 73-N-23



4. 73-N-24



5. 73-N-25



6. 73-N-26



7. 73-N-27



8. 73-N-28



9. 73-N-29



10. 73-N-30



11. 73-N-31



12. 73-N-32



13. 73-N-33



14. 73-N-34



15. 73-N-35



16. 73-N-36



17. 73-N-37



18. 73-N-38

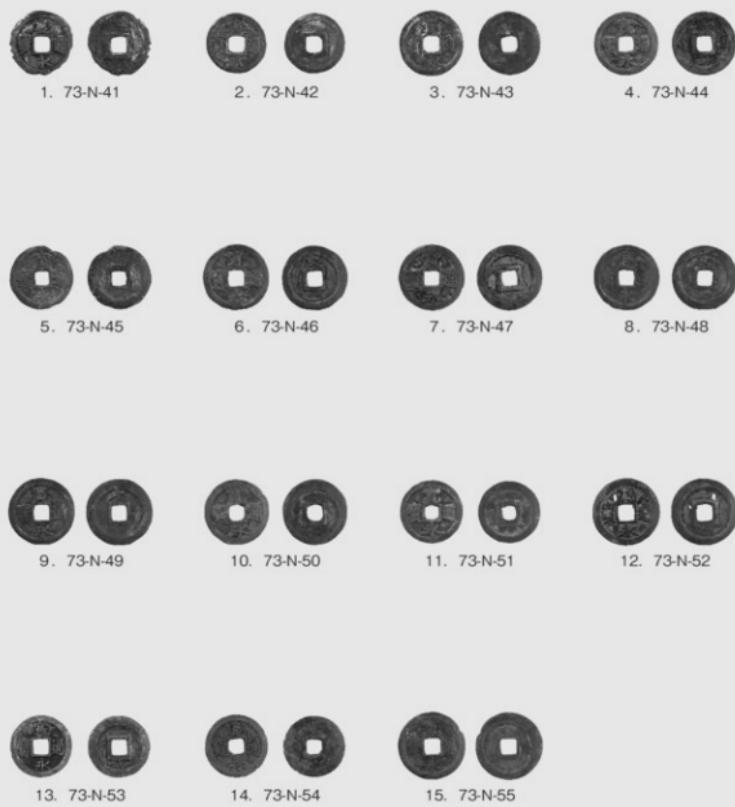


19. 73-N-39



20. 73-N-40

写真図版36 1973（昭和48）年度出土遺物②



写真図版37 1973（昭和48）年度出土遺物②

第4章 1974（昭和49）年度発掘調査

1. 調査経過

環境整備事業のための基礎資料を補充することを目的に、環境整備事業事前調査の第3次として、(1) 中門廻廊跡、(2) 金堂廻廊跡、(3) 僧坊跡の調査を実施した。

調査期間は、昭和49年7月8日から8月7日までである。

(1) 中門廻廊跡（E区）

中門跡は、これまでの調査により、柱位置は判明し、建物規模などは明らかであったが、基壇の規模や基壇外縁の雨落溝などが不明であった。今回は東端柱列位置に南北方向に 12×3 mのトレンチ（E区第2）、西端柱列位置に南北方向に 12×3 mのトレンチ（E区第3）を設定して実施した。

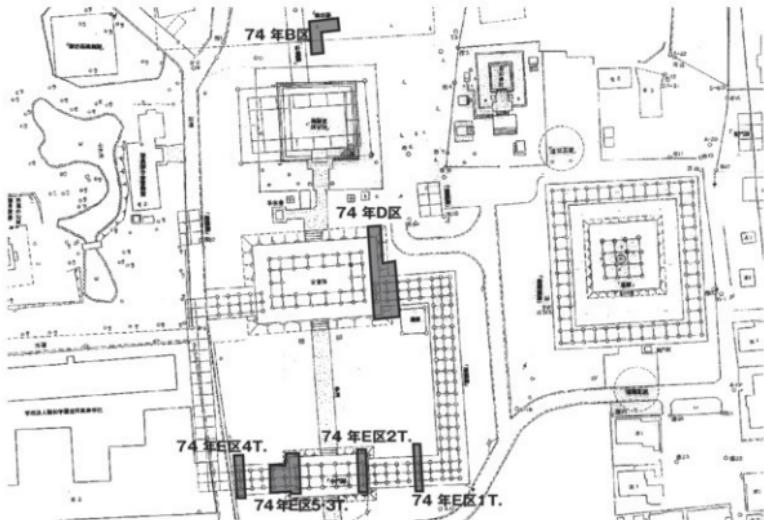
廻廊跡は、中門跡と金堂跡の東西両翼をコロ字型に連結しており、柱位置はほぼ判明していたが、基壇の状況が不明であった。中門の東5列目の柱列位置に南北方向に 12×2 mのトレンチ（E区第1）、中門の西5列目柱列位置に南北方向に 12×2 mのトレンチ（E区第4）、中門跡西側との取り付け部、3トレンチと接続して 7×5 mのトレンチ（E区5）設定して実施した。

(2) 金堂廻廊跡（D区）

金堂跡は、これまでの調査により、柱礎石位置、基壇など遺構復元整備のためのデータはほぼ判明していたが、復元工事設計のために遺構面レベルなどの詳細を把握する必要があった。調査は金堂基壇東辺と廻廊の取り付け部分に南北方向に 24×3 m、 14×4 mのトレンチを設定して実施した。

(3) 僧坊跡（B区）

僧坊跡は、遺構の保存状況が悪く、建物に関する具体的な内容は殆ど把握されていなかった。昭和48年度の調査で、4層に及ぶ整地層を確認、最下層では基壇南側に沿って雨落溝と考えられる遺構が発見されたことから、僧坊の建替えの可能性も考えられた。これらの詳細を把握するため、昭和48年（73）B区1トレンチの南端に東西 $6 \times$ 南北 7 mに幅 $2 \sim 2.5$ mのL字形のトレンチ（74年B区）を設定して実施した。



第23図 調査区位置図-74

2. 発見遺構・出土遺物

(1) 中門回廊跡（E区）

・礎石は全く認められないが、現存する根石のレベルを中門と両翼の廻廊について、詳細にみてみると殆ど差が認められなかったことから、中門と廻廊の基壇上面、礎石の高低差はなかったと考えられる。

・根石はいずれも旧表土の上に30~50cmほど積土された整地層の上に設置されていた。

・中門の両端において、平安中期以降と考えられる掘立小柱穴が3つ検出された。

(2) 金堂回廊跡（D区）

・金堂跡は基壇縁辺側面に凝灰岩切石列が認められたが、基壇上面には全く認められなかった。

・廻廊基壇は、金堂基壇との取り付き部分ではほぼ同レベルであるが、金堂から遠ざかるにしたがって低くなっている。

・廻廊基壇は、縁辺がなだらかな傾斜となっており、基壇幅は明瞭に把握できなかった。

(3) 僧坊跡（B区）

・これまでの調査で明らかになっていた根石部分について精査したところ、根石は4層の整地層のうち、最上層の整地層にのっている。

・最下層において、2つの切り合ったピットをほぼ3m間隔の2ヶ所で検出した。これらはいずれも上層の根石とははずれた位置にある。両ピットとも直径1~1.5mほどの隅丸方形を呈している。切られた古い方のピットは中央に直径40~50cmの円形の柱痕があり、掘立柱建物の柱穴である。これを切る新しい方のピットは、第2層整地層から掘り込まれており、堆積土は版築状を示していることから、第2整地層の時期に設置された柱礎石の坪地業と考えられる。

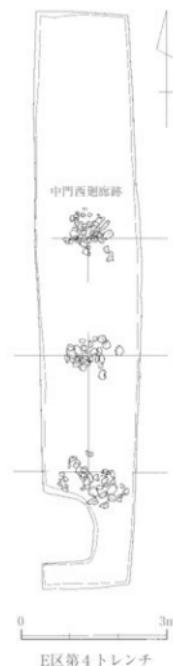
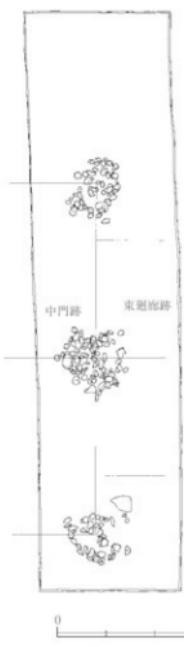
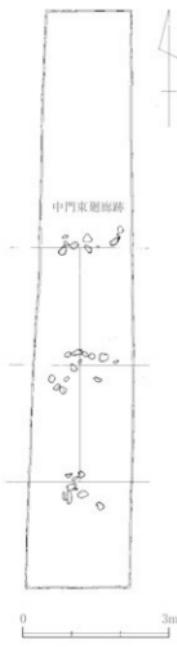
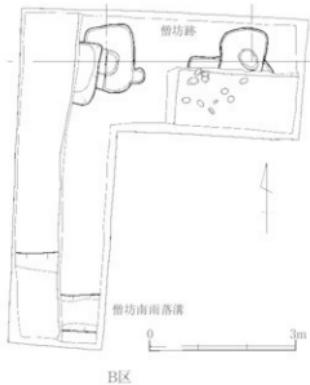
整地層は4層認められるが、建物造構は、掘立柱→礎石（坪地業）→礎石（根石）の少なくとも3時期にわたる変遷が認められた。掘立柱跡は2つ、坪地業も1つときわめて部分的であることから、これが僧坊建物全体の立替を示唆するものか否か、なお今後の調査と検討をする。

(4) 出土遺物

瓦、土器、土製品、鉄製品、古錢などが出土した。瓦は軒丸瓦、軒平瓦のほか、指書・ヘラ書のある瓦片がみられた。土師器杯の底部外面中央に「大」の刻書のあるもの、土製品では全面に細かな布目痕のみられる紡錘車がある。



E区第2トレンチ全景（南より）

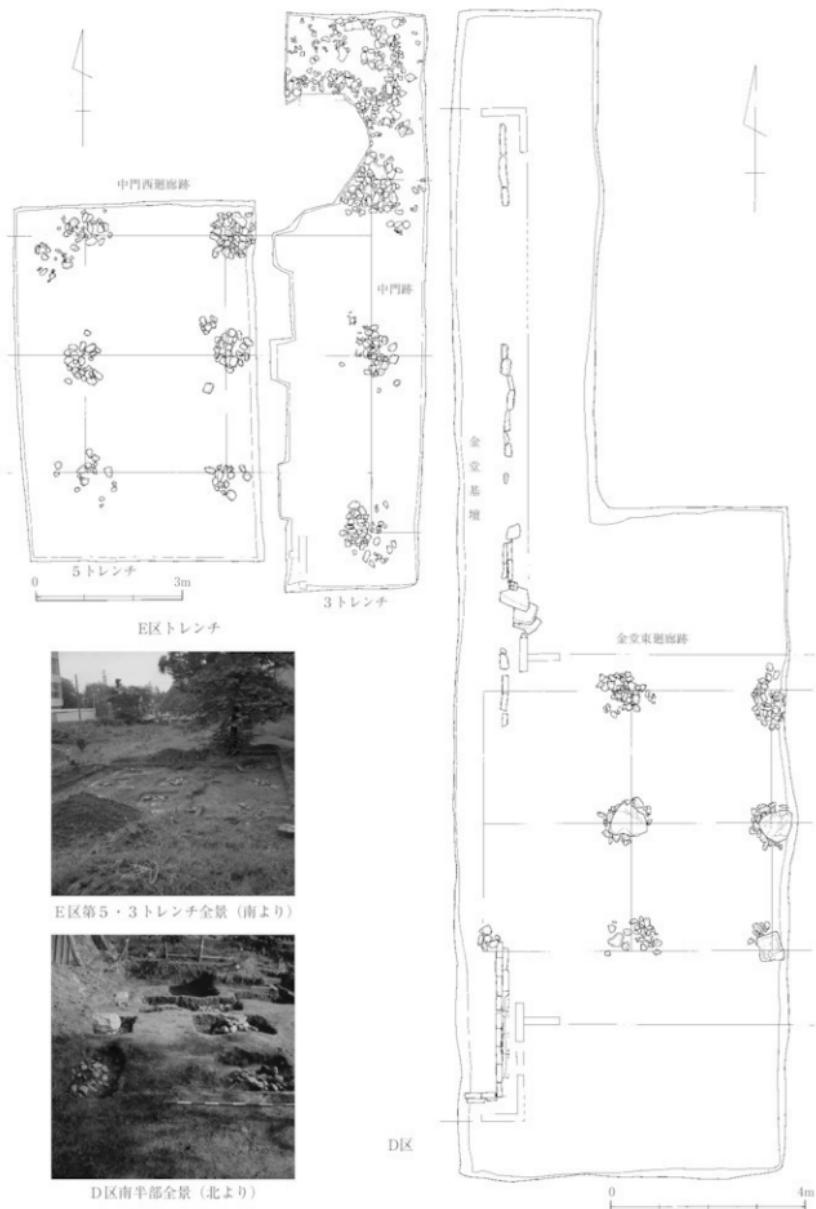


E区第1トレンチ

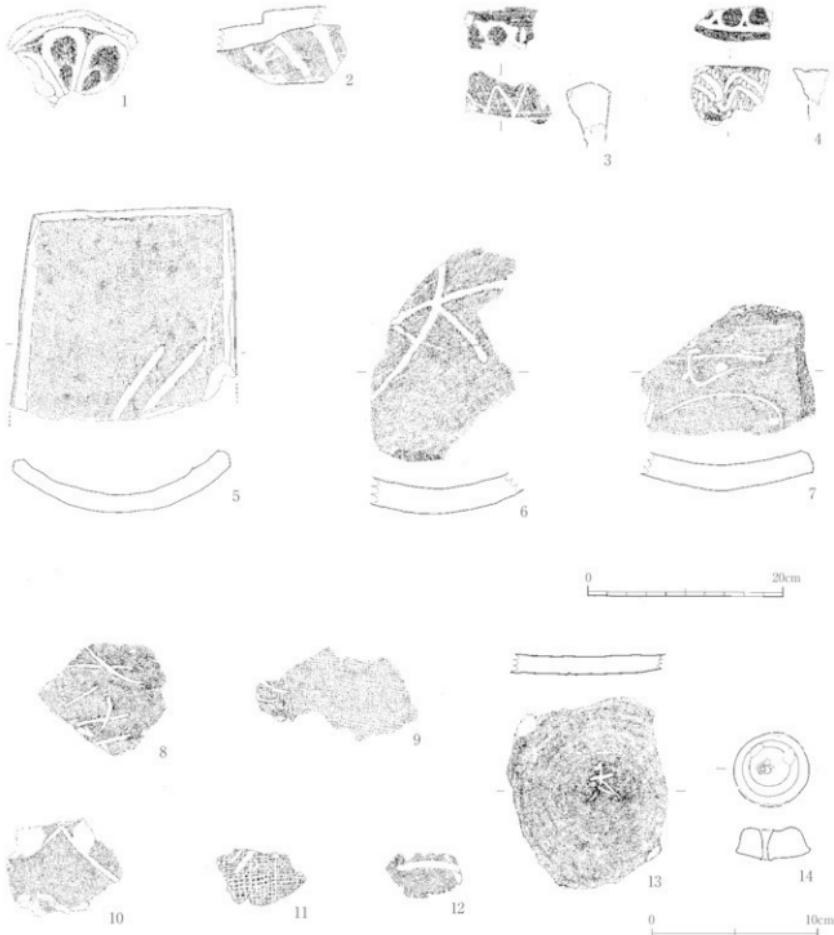
E区第2トレンチ

E区第4トレンチ

第24図 調査区平面図-74-1 (1/100)



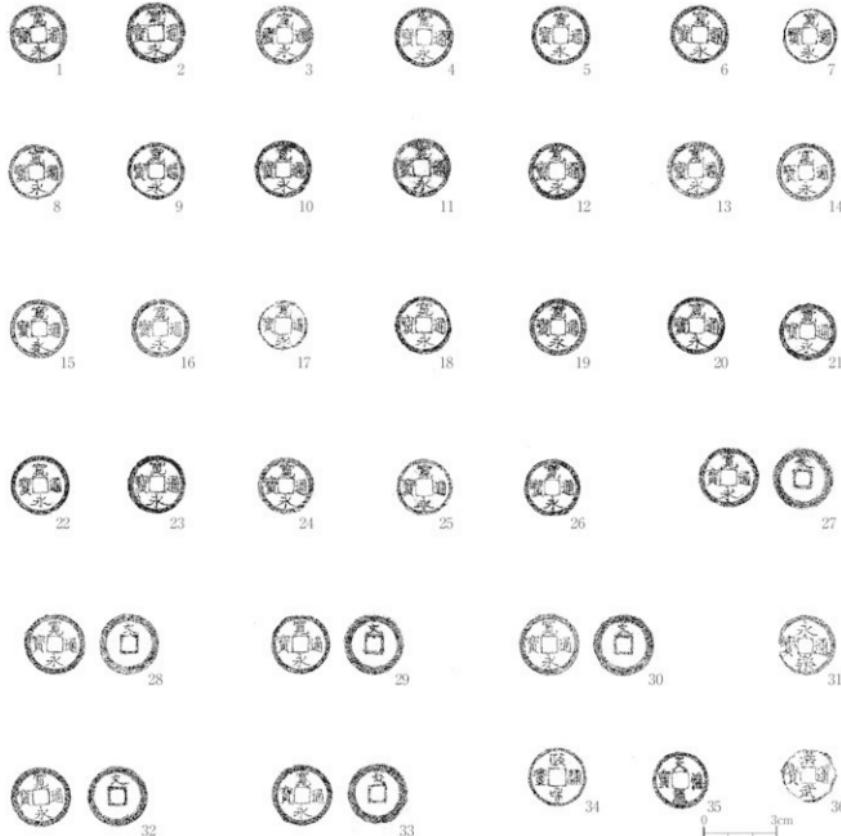
第25図 調査区平面図-74-2 (1/100)



第26図 出土遺物拓影・実測図74-1

番号	地区	遺物名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	—	—	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	74-F-3	114	38.5
2	—	—	—	丸瓦	12.5+	15.5+	3.1+	—	—	—	—	—	74-F-4	—	38.6
3	—	—	—	軒平瓦	6.3+	9.0+	—	6.3+	—	—	—	—	74-G-1	261	38.7
4	D	—	表採	軒平瓦	5.5+	—	—	8.3+	—	—	—	—	74-G-3	262	39.1
5	D	—	—	平瓦	21.5+	22.4+	2.0+	—	—	—	—	—	74-G-9	—	39.7
6	D	—	—	平瓦	23.2+	15.7+	2.7+	—	—	—	—	—	74-G-11	—	40.2
7	想用西北	—	—	平瓦	13.4+	17.5+	2.6+	—	—	—	—	—	74-G-10	—	40.1
8	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	74-G-6	—	39.4
9	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	74-G-5	—	39.3
10	EAT.	—	1	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	74-G-12	—	40.3
11	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	74-G-8	—	39.6
12	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	74-G-7	—	39.5

番号	地区	遺物名	層位	種別・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版	
13	D	—	前器上	土師器・环	—	92+	—	—	—	—	内面：ヘラ巻き 茶褐色表面(白釉未施り)、ヘラ巻き(大)	74-D-2	—	38.2
14	D	—	1	筋跡串	—	4.5	1.8	—	—	—	上面：輪郭(口縁)、表面：有目筋、下面：ナマテ	74-D-1	—	40.4



番号	地区	造幣名	辯別	種別・面種	径 (mm)	重 (g)	備考	登録番号	分類 番号	写真 番号	写真 面種	
1	—	金属製品・銭貨	24.2	35	古霓水鉄	74-N-1	—	49.5	—	41-16	—	
2	—	金属製品・銭貨	24.9	35	古霓水鉄	74-N-2	—	49.6	—	41-17	—	
3	—	金属製品・銭貨	24.3	35	古霓水鉄	74-N-3	—	49.7	—	41-18	—	
4	—	金属製品・銭貨	24.6	40	古霓水鉄	74-N-4	—	49.8	—	41-19	—	
5	—	金属製品・銭貨	24.5	30	古霓水鉄	74-N-5	—	49.12	—	41-21	—	
6	—	金属製品・銭貨	24.2	40	古霓水鉄	74-N-6	—	49.13	—	41-26	—	
7	—	金属製品・銭貨	22.7	25	古霓水鉄	74-N-10	—	49.14	—	41-27	—	
8	—	金属製品・銭貨	23.0	30	古霓水鉄	74-N-11	—	49.15	—	41-23	—	
9	—	金属製品・銭貨	24.4	40	古霓水鉄	74-N-12	—	49.16	—	41-10	—	
10	—	金属製品・銭貨	24.5	25	古霓水鉄	74-N-13	—	49.17	—	41-18	—	
11	—	金属製品・銭貨	24.4	35	古霓水鉄	74-N-16	—	41.2	—	41.7	—	
12	—	金属製品・銭貨	24.0	30	古霓水鉄	74-N-17	—	41.3	—	41-19	—	
13	—	金属製品・銭貨	24.3	35	古霓水鉄	74-N-18	—	41.4	—	41.9	—	
14	—	金属製品・銭貨	21.5	40	古霓水鉄	74-N-19	—	41.5	—	41-25	—	
15	—	金属製品・銭貨	24.3	30	古霓水鉄	74-N-20	—	41.6	—	40.9	—	
16	—	金属製品・銭貨	24.4	30	古霓水鉄	74-N-22	—	41.8	—	40.11	—	
17	E.2. 3T.	I	金属製品・銭貨	20.5	15	新霓水鉄	74-N-43	—	41.29	—	41.4	—
18	—	金属製品・銭貨	24.3	30	古霓水鉄	74-N-29	—	41.15	—	41.30	—	
19	—	—	—	—	—	—	—	23.8	30	古霓水鉄	74-N-30	—
20	—	—	—	—	—	—	—	23.9	40	古霓水鉄	74-N-31	—
21	—	—	—	—	—	—	—	23.8	35	古霓水鉄	74-N-32	—
22	—	—	—	—	—	—	—	24.2	35	古霓水鉄	74-N-34	—
23	—	—	—	—	—	—	—	24.3	30	古霓水鉄	74-N-35	—
24	—	—	—	—	—	—	—	23.7	30	古霓水鉄	74-N-40	—
25	—	—	—	—	—	—	—	23.6	35	古霓水鉄	74-N-41	—
26	—	—	—	—	—	—	—	24.8	35	古霓水鉄	74-N-37	—
27	—	—	—	—	—	—	—	25.1	35	新霓水鉄	74-N-6	—
28	—	—	—	—	—	—	—	25.2	2.5	新霓水鉄	74-N-14	—
29	—	—	—	—	—	—	—	25.2	3.5	新霓水鉄	74-N-21	—
30	—	—	—	—	—	—	—	25.3	4.0	新霓水鉄	74-N-33	—
31	—	—	—	—	—	—	—	24.6	2.5	未定通宝	74-N-23	—
32	—	—	—	—	—	—	—	24.8	4.0	新霓水鉄	74-N-39	—
33	—	—	—	—	—	—	—	25.0	3.5	新霓水鉄	74-N-5	—
34	—	—	—	—	—	—	—	24.0	3.0	政和通宝	74-N-7	—
35	—	—	—	—	—	—	—	23.0	3.0	大观通宝	74-N-15	—
36	E.2. 3T.	I	—	—	—	—	—	23.5	2.0	洪武通宝	74-N-44	—

第27図 出土遺物拓影74-2



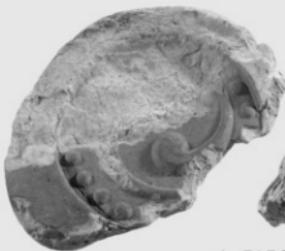
1. 74-D-1



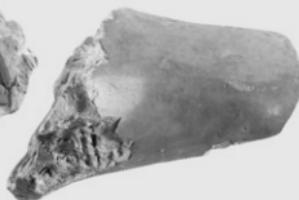
2. 74-D-2



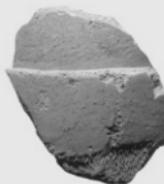
3. 74-F-1



4. 74-F-2



5. 74-F-3



6. 74-F-4



7. 74-G-1

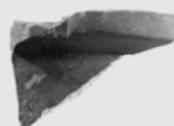


8. 74-G-2

写真図版38 1974（昭和49）年度出土遺物①



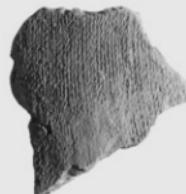
1. 74-G-3



2. 74-G-4



3. 74-G-5



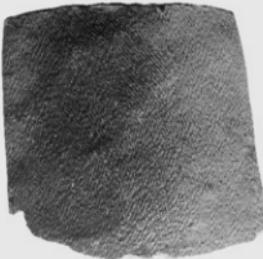
4. 74-G-6



5. 74-G-7

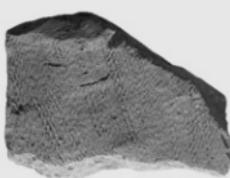
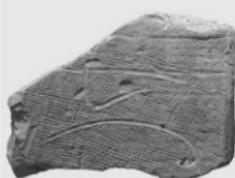


6. 74-G-8

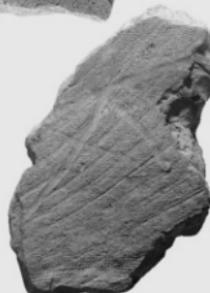


7. 74-G-9

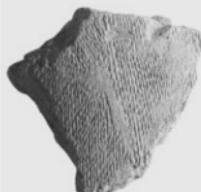
写真図版39 1974（昭和49）年度出土遺物②



1. 74-G-10



2. 74-G-11



3. 74-G-12



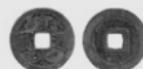
4. 74-P-1



5. 74-N-1



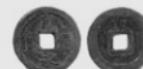
6. 74-N-2



7. 74-N-3



8. 74-N-4



9. 74-N-5



10. 74-N-6



11. 74-N-7



12. 74-N-8



13. 74-N-9



14. 74-N-10



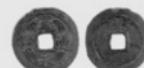
15. 74-N-11



16. 74-N-12

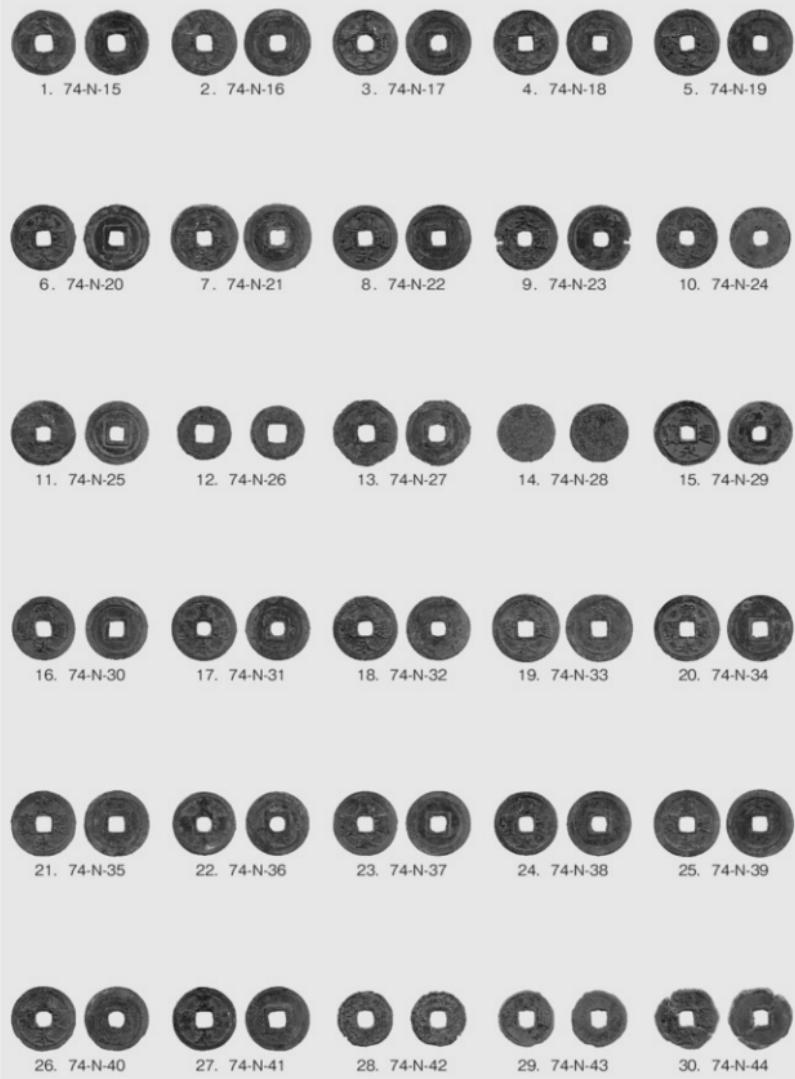


17. 74-N-13



18. 74-N-14

写真図版40 1974（昭和49）年度出土遺物③



写真図版41 1974（昭和49）年度出土遺物④

第5章 1975（昭和50）年度発掘調査

1. 調査経過

伽藍南西外に位置する史跡指定地内で、学校施設建設に伴う現状変更許可申請が提出されたことから、施設建設部分を対象に事前調査を実施した。調査地区は校舎部分（F区）約820m²、トイレ部分（G区）約70m²、下水管路設置部分（H区）約120m²の3地区にわかれ、調査面積は合計1,010m²である。

調査期間は、昭和50年6月12日から8月2日までである。

（1）F区

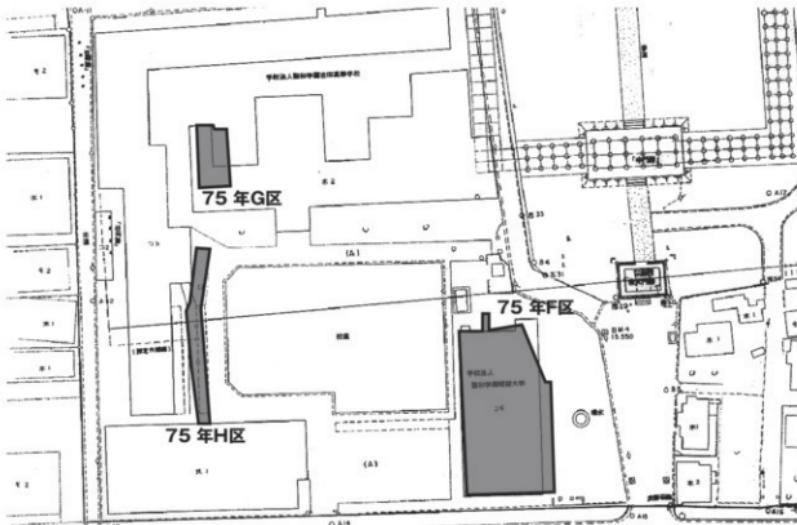
南大門の南西部、外郭南辺西側築地の南外にある。外郭の南外地区での国分寺関連施設の有無と国分寺創建以前及び国分寺が衰退した中世以降の状況を把握する目的で実施された。

（2）G区

寺城内の南西地区にあたり、これまで殆ど調査が行われなかった地区である。主要伽藍以外の寺院構成施設の有無を確認する目的で実施された。

（3）H区

外郭南辺上にあたり、南大門から西約100mの地点である。推定外郭線を横断する形で下水管の埋設計画が提出されたことから、築地等の外郭施設を確認する目的で実施された。



2. 発見遺構・出土遺物

(1) F区

調査の結果、掘立柱建物跡11棟、土坑5基、溝跡2条が検出された。

〔掘立柱建物跡〕 掘立柱建物跡は、200程の小柱穴が検出され、規格性、柱間寸法等の検討から11棟の建物が把握できた。それ以外にも多くの柱穴があり、さらに多くの建物が存在していたものと想定される。11棟の内、8棟が東西棟であるが、3棟の南北棟も含め、ほぼ同方向を基準に建てられている。建物規模は、梁行2間、桁行3~4間と規模の小さいものでほぼ揃っている。柱穴の掘り方は直径25~45cm程度、柱痕跡が検出されたものでは直径10~18cmと小ぶりで、柱間寸法も210cm(7尺)前後のものが多い。柱穴の直接的な切り合は、G建物とF建物で観察され、F→Gへの立替がわかったが、建物プランの重複状況をみると3から4回にわたる立替変遷がみてとれ、短期間での建物群と捉えられる。年代は、平安時代後半期の土器が出土した土坑を切って柱穴が掘られていることから、これよりより新しい時代のものである。

建物	方向	梁行(柱間寸法:m) × 桁行()	掘り方(cm)	柱痕跡(cm)
建物A	南北	2間(約2.4)	4間(約2.0)	40~45 10~12
建物B	東西	2間(1.9~2.2)	5間~(約2.1)	30~35 —
建物C	東西	2間(1.5~2.0)	3間(約2.1)	25~30 10~17
建物D	東西	2間(約2.2)	3間(約2.0)	35~40 10~12
建物E	東西	2間(2~2.2)	3間(約2.1)	25 —
建物F	東西	2間(約1.9)	4間(約2.5)	40~50 13~15
建物G	東西	2間(1.5~2.3)	3間(約1.9)	30 12
建物I	東西	2間(—)	3間~(—)	35~40 —
建物J	南北	2間(1.8~2.1)	4間~(1.9~2.1)	25~30 10~12
建物K	南北	2間(2.2)	3間~(2.1)	40 15前後
建物L	東西	—	2間(2.4)	30~35 15前後

〔土坑〕 土坑は5基、検出された。いずれも不整形で22~55m、深さ25~40cmで、特に規格性、齊一性はみられず、性格や年代等の詳細を特定する特徴は認められない。土坑1からは平安時代後半期の土器が出土している。

〔溝跡〕 溝跡は2条、検出された。

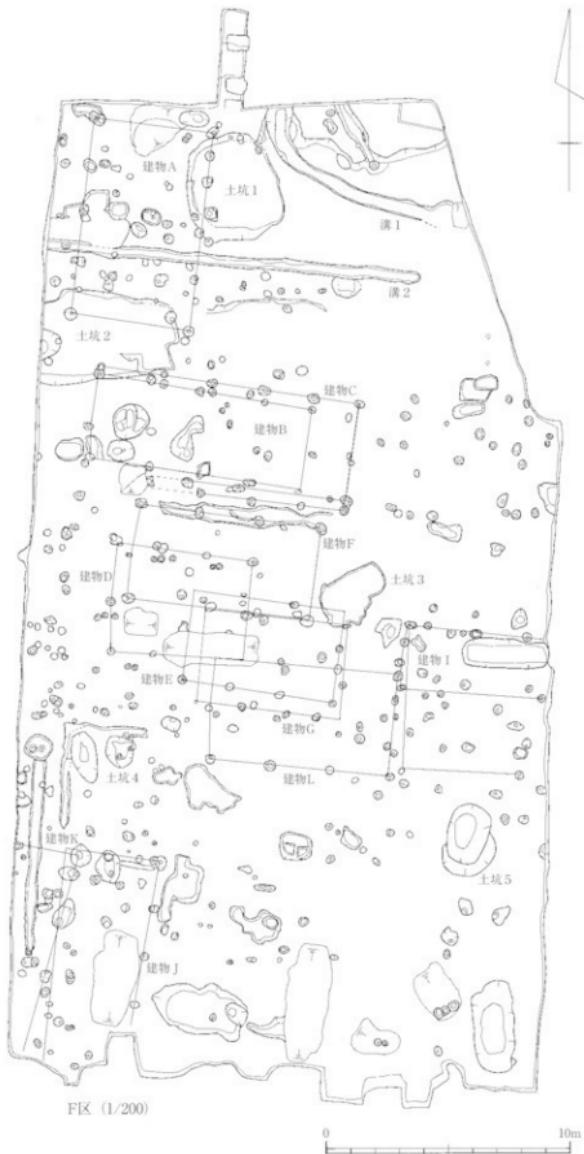
(2) G区

調査区内は搅乱が著しく、土坑2基、柱穴と見られるピットを40ほど検出した。柱穴群は建物としてのまとまりが把握できなかった。土坑からは平安時代後半期の土師器片が出土したが、その他、詳細は不明である。

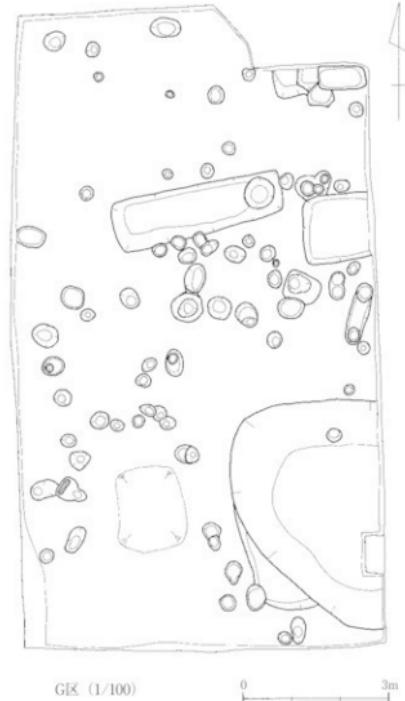
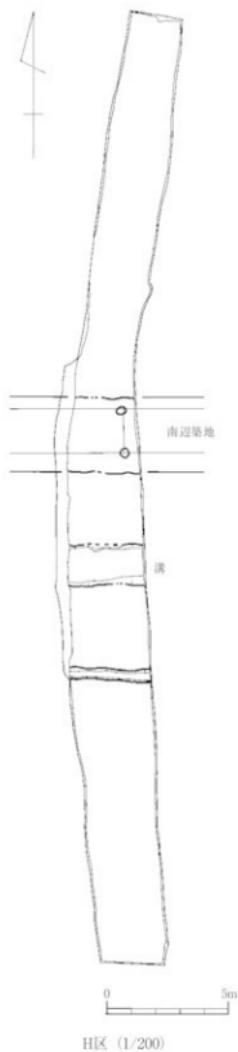
(3) H区

外郭南辺の推定位置で約3mの整地層を確認、断面観察の結果、掘り込み地形であることがわかった。

整地積み土は南側で20cm厚、北側で5cm厚で、暗褐色土と黄色粘土を強く叩き締めている。整地層上面で南北に並ぶ直徑約40cmの柱穴を2つ検出した。芯々距離は1.8mで、築地寄せ柱と考えられる。築地本体の幅は1.8m(6尺)、両側に60cm(2尺)の犬走りを伴っている。また、南側犬走り南端から3m南に築地と平行する溝跡が1条検出された。溝跡は上幅1.7m、下幅1.1m、現存の深さ40cmである。築地と溝は一体になり、寺城南を画する外郭施設を構成していたものと考えられる。築地跡の北側からは他に比較して、瓦の出土量が多い。



第29図 調査区平面図-75-1

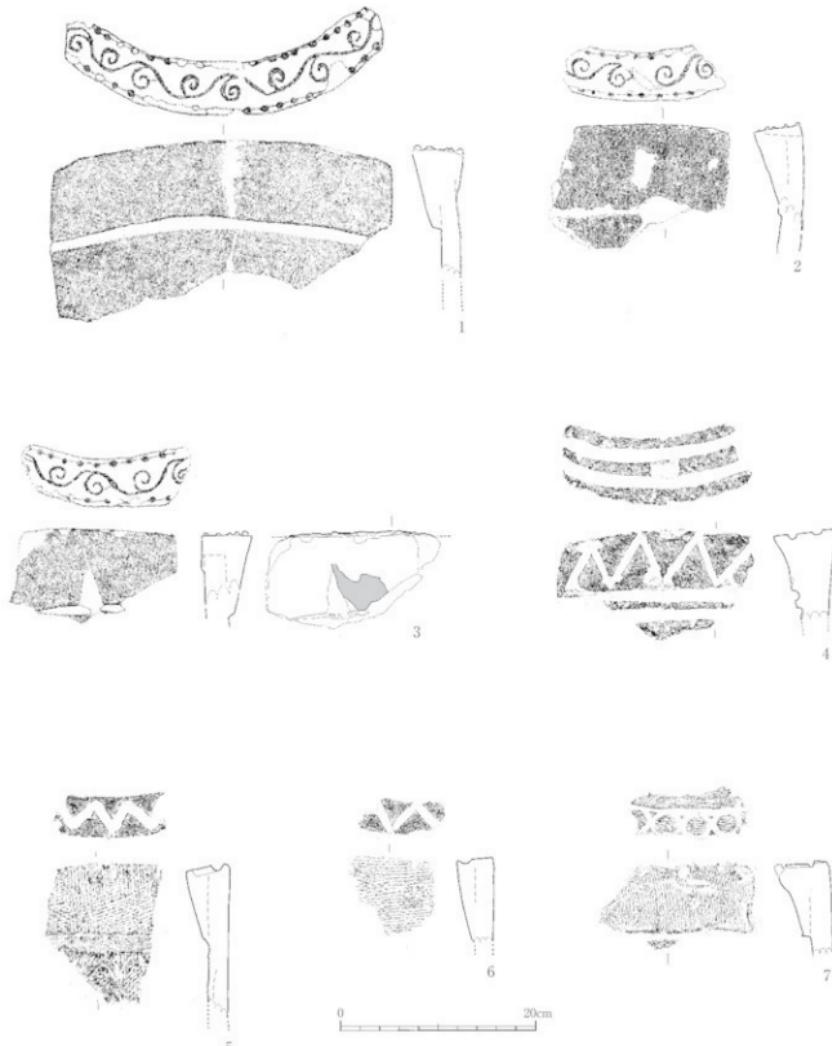


第30図 調査区平面図-75-2



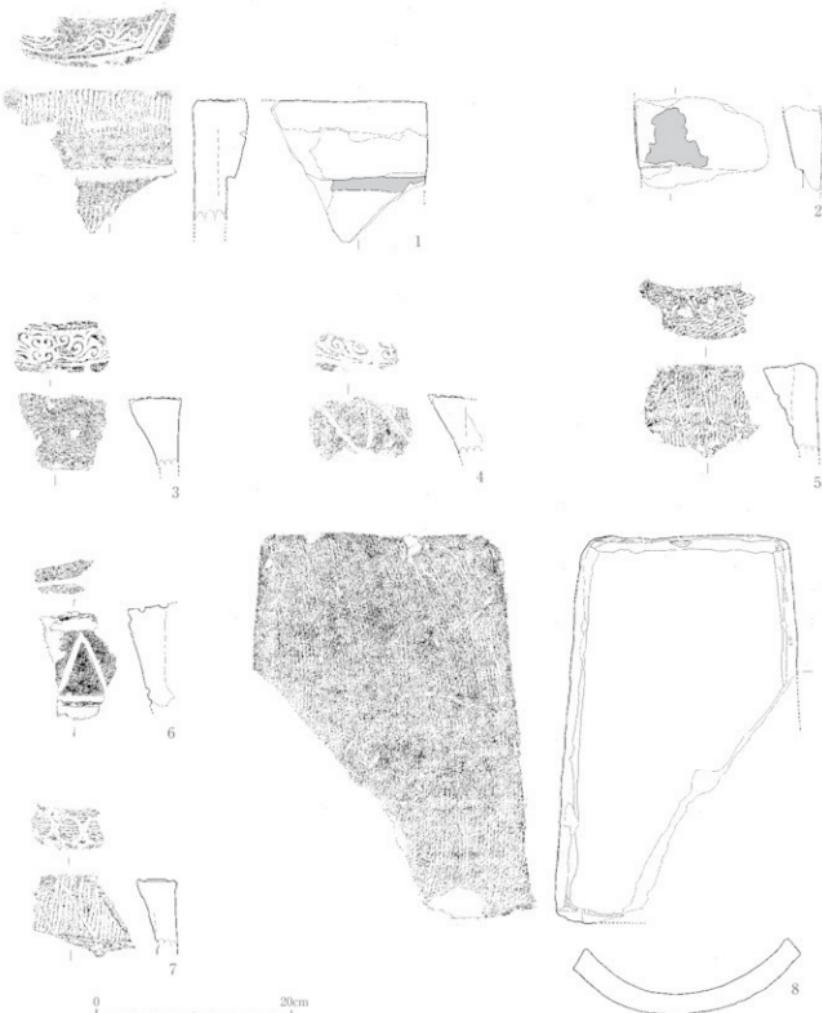
第31図 出土遺物拓影・実測図75-1

番号	地区	遺物名	部位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面積 厚さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 版
1	G	—	表土	軒丸瓦	—	—	—	—	—	瓦当面：墨青墨華文 背面：墨青墨華文	75-F-34	112	47-4		
2	G	SKI	理工	軒丸瓦	—	—	—	—	—	瓦当面：墨青墨華文	75-F-29	115	46-6		
3	F	—	I	軒丸瓦	—	—	—	73+	1.7+	瓦当面：墨青墨華文 背面：墨青墨華文	75-F-23	131	45-9		
4	F	—	表土	軒丸瓦	—	—	—	69+	2.3+	瓦当面：墨青墨華文 背面：墨青墨華文	75-F-22	122	45-8		
5	F	—	—	軒丸瓦	—	—	—	—	—	瓦当面：墨青墨華文	75-F-2	112	43-2		
6	F	—	表土	軒丸瓦	—	—	—	—	—	瓦当面：墨青墨華文	75-F-2	—	44-1		
7	G	—	II	軒丸瓦	—	—	—	—	—	瓦当面：墨青墨華文	75-F-1	142	43-1		
8	F	—	表土	軒丸瓦	—	—	—	—	—	瓦当面：墨青墨華文	75-F-24	141	46-1		
9	—	—	II	丸瓦	11.8+	15.5+	2.8+	—	—	凸面：墨青墨華文 凹面：墨青墨華文	75-F-45	—	49-2		
10	F	SDH	—	丸瓦	—	—	—	—	—	凸面：墨青墨華文 凹面：墨青墨華文	75-F-37	—	47-7		
11	F	—	II	丸瓦	—	—	—	—	—	凸面：墨青墨華文 凹面：墨青墨華文	75-F-47	—	49-4		
12	F	—	表土	丸瓦	—	—	—	—	—	凸面：墨青墨華文 凹面：墨青墨華文	75-F-41	—	48-4		



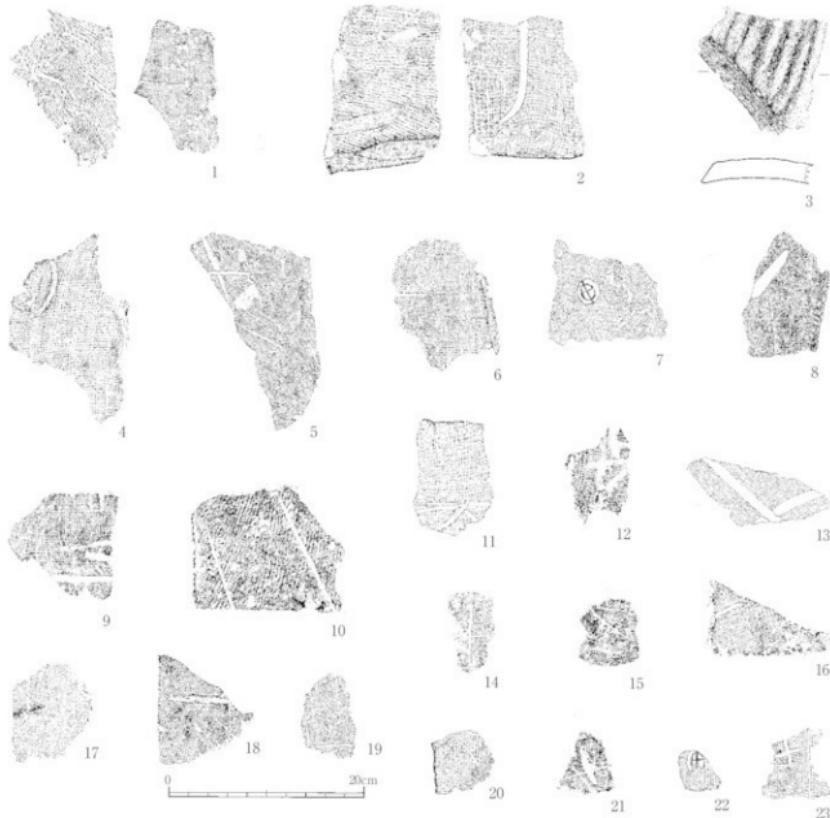
第32図 出土遺物拓物・実測図75-2

番号	地区	遺構名	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	G	SK1	—	II 瓦平瓦	17.1+	—	20+	31.8+	—	灰58	打削磨削	瓦面：黒ナメ	75-G-22	231	53-4
2	F	—	I 瓦平瓦	13.0+	—	26+	16.3+	—	灰58	打削磨削	瓦面：黒ナメ	75-G-23	231	49-6	
3	F	—	表土 瓦平瓦	10.0+	—	35+	17.3+	—	灰58	打削磨削	瓦面：黒ナメ	75-G-25	231	50-3	
4	G	—	II 瓦平瓦	11.2+	—	—	19.5+	—	灰58	打削磨削	瓦面：黒ナメ	75-G-21	211	53-3	
5	F	—	表土 瓦平瓦	15.7+	—	23+	11.3+	—	灰58	打削磨削	瓦面：黒ナメ	75-G-18	243	52-6	
6	F	—	II 瓦平瓦	8.5+	—	—	8.9+	—	灰58	打削磨削	瓦面：黒ナメ	75-G-8	242	51-1	
7	F	—	表土 瓦平瓦	9.7+	—	—	11.7+	—	灰58	打削磨削	瓦面：黒ナメ	75-G-16	262	52-4	



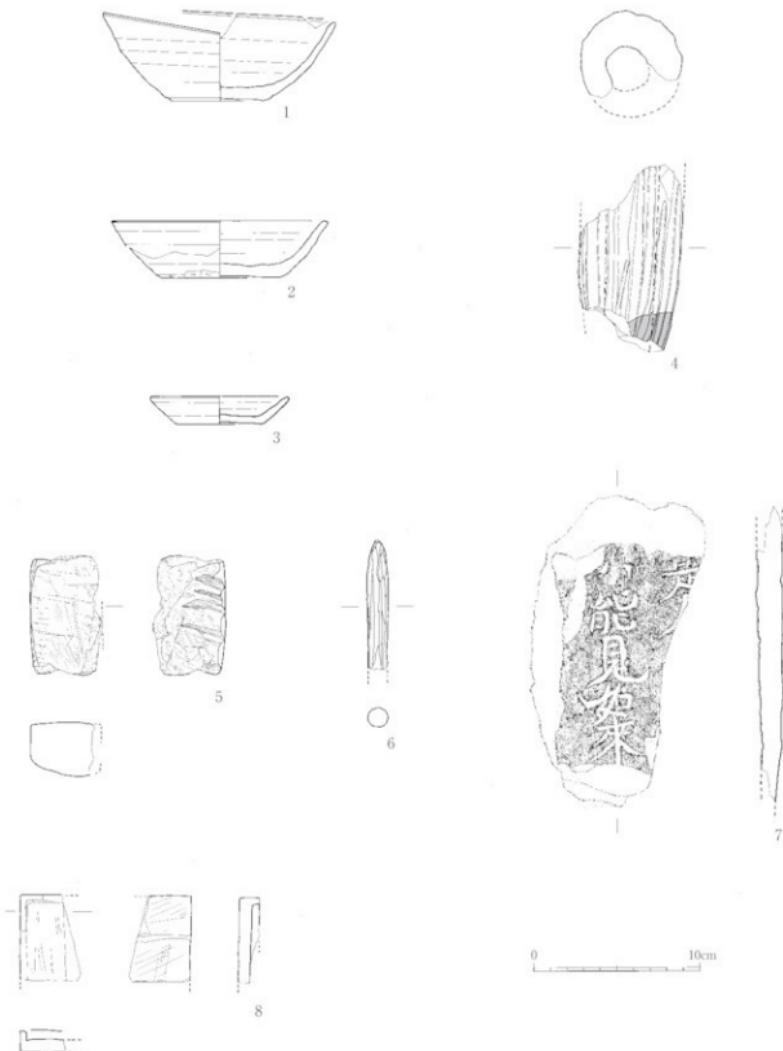
番号	地C	遺物名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面其 他	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	F	SK1	4	軒平瓦	143+	—	32+	17.0+	—	瓦当面：73Y6-196	瓦当面：均整削草文 裏面：圓タテ→ナガ、金色刷毛目	75-G-19	251	53-1	
2	F	—	表土	軒平瓦	92+	13.5+	26+	—	—	裏面：N4-096、N5-096	裏面：均整削草文 裏面：N4-096、N5-096	75-G-3	—	50-1	
3	F	—	表土	軒平瓦	72+	—	—	95+	—	瓦当面：10BG2-1青黒	瓦当面：均整削草文 裏面：ナガ	75-G-17	251	52-5	
4	H	—	H	軒平瓦	7.7+	—	—	11.0+	—	瓦当面：73Y7-196E1	瓦当面：均整削草文 裏面：73Y7-196E1	75-G-23	251	54-1	
5	G	—	表土	軒平瓦	9.3+	—	26+	11.3+	—	瓦当面：23Y7-196E1	瓦当面：均整削草文 裏面：23Y7-196E1	75-G-20	291	53-2	
6	H	—	—	軒平瓦	10.5+	—	—	68+	—	瓦当面：73Y6-196	瓦当面：均整削草文 裏面：73Y6-196	75-G-24	211	54-2	
7	G	—	I	軒平瓦	8.0+	10.0+	—	75+	—	瓦当面：73Y7-1オーリー等	瓦当面：均整削草文 裏面：73Y7-1オーリー等	75-G-10	262	51-3	
8	—	—	表土	平瓦	39.8+	23.4+	2.3+	—	—	凸面：N5-096 凹面：N5-096	凸面：圓タテ→ナガ 凹面：凸目直→ナガ	75-G-36	—	55-5	

第33図 出土遺物拓物・実測図75-3



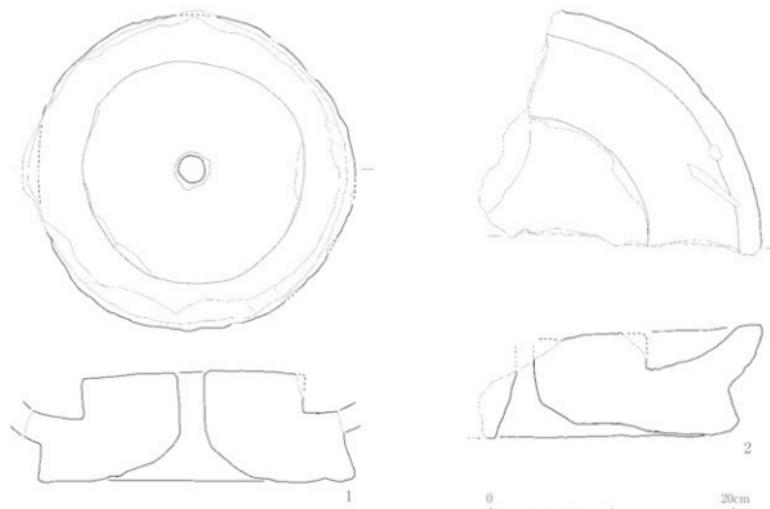
番号	地区	遺物名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	空想 番号	写真 図版
1	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凸面: ハラ青	75-G-39	—	59-2	
2	F	—	埋土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凸面: ハラ青	75-G-43	—	58-2	
3	—	—	側切瓦	13.2+	11.4+	2.0+	—	—	—	—	凸面: 1208.08.西端: 5217.08	75-G-49	—	57-4	
4	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-49	—	59-1	
5	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-49	—	56-2	
6	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-49	—	57-6	
7	—	—	I	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: 刮漆	75-G-44	—	56-6	
8	G	P15	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: 指掌	75-G-46	—	57-1	
9	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: 指掌	75-G-27	—	54-4	
10	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凸面: ハラ青	75-G-41	—	56-3	
11	—	—	B	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-48	—	57-3	
12	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: 指掌	75-G-42	—	56-4	
13	G	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: 指掌	75-G-37	—	55-6	
14	F	—	B	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-29	—	54-6	
15	F	—	B	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-28	—	54-5	
16	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: 指掌	75-G-43	—	56-5	
17	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-32	—	58-1	
18	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-30	—	57-5	
19	—	—	B	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-62	—	59-5	
20	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-61	—	59-4	
21	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-26	—	54-3	
22	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: 刮漆	75-G-54	—	58-3	
23	F	—	表土	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面: ハラ青	75-G-36	—	58-5	

第34図 出土遺物拓影・実測図75-4



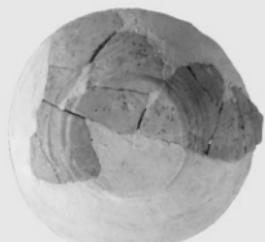
第35図 出土遺物拓影・実測図75-5

番号	地区	遺物名	層位	種別・ 器形	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	色調	成形・調整 施考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	—	SD1	I	縦溝 Ⅰ	0.60	—	5.3	褐色	10YR 4/6 内面：10YR 7/4 亂層：10YR 7/4	外底：ロクナナメ 内面：ロクナナメ 乱層：10YR 6/2	—	42-2
2	F	—	I・II	縦溝 Ⅱ	1.13	—	3.45	褐色	23YR 7/3 西面：10YR 7/3 亂層：12YR 6/2	外底：0.727±0.087mm厚 10YR 7/3 亂層：12YR 6/2 乱層：10YR 7/3 亂層：10YR 6/2 10YR 6/2	—	42-4
3	G	SK1	—	縦溝 Ⅲ	0.83	0.52	1.7	褐色	10YR 4/6 内面：10YR 7/6 亂層：10YR 6/1	外底：2.72±0.087mm厚 10YR 4/6 亂層：10YR 7/6 10YR 6/1	—	42-3
番号	地区	遺物名	層位	種別・ 器形	最大長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	成形・調整 施考	登録番号	分類 番号	写真 図版
4	G	SK1	—	縦溝 Ⅳ	0.13	0.61	2.22	外底：10YR 7/6 亂層：10YR 7/6	外面：ケズリ→ハラナメ 滴漏物付着	75-P-1	—	61-4
5	F	P1	—	縦溝 Ⅴ	7.2	3.6	3.5	25GY 6/1 リープ6K	断面：6面 準正の指折れあり	75-K-4	—	61-1
6	F	—	表土	縦溝 Ⅵ	0.72	1.12	—	9YR 4/6-6K	外底：ケズリ、先端部ヨコ方向削用痕?	75-K-3	—	59-6
7	F	—	表土	縦溝 Ⅶ	17.8+	8.4+	15+	26G-6K	[底] 蔵見如来	75-K-6	—	61-3
8	F	P2	I	縦溝 Ⅷ	5.1+	3.6+	1.2+	26G-6K	方形鏡、面部破片	75-K-5	—	61-2



第36図 出土遺物実測図75-6

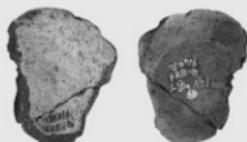
番号	地区	遺構名	層位	種別・器形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	F	—	表土	石製品 石臼	(27.2)	—	9.1+	N5-09K	素面の下臼 手り合わせ部分 平滑、直径部 21.8×2cm	75-K-2	—	60-1	
2	F	—	表土	石製品 石臼	(38.8)	—	9.0+	N5-09K	素面の下臼 手り合わせ部分 平滑、直徑部 20.0cm、他部：端等の付着物無し	75-K-3	—	60-2	



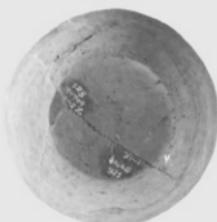
1. 75-D-1



2. 75-D-2



3. 75-D-3



4. 75-E-1



5. 75-E-2



6. 75-E-3

写真図版42 1975（昭和50）年度出土遺物①



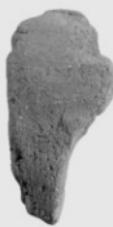
1. 75-F-1



2. 75-F-2



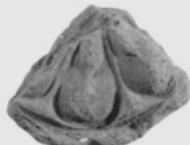
3. 75-F-3



4. 75-F-4



5. 75-F-5



6. 75-F-6

写真図版43 1975（昭和50）年度出土遺物②



1. 75-F-7



2. 75-F-8



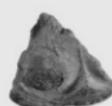
3. 75-F-9



4. 75-F-10



5. 75-F-11



6. 75-F-12



7. 75-F-13

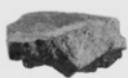


8. 75-F-14

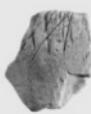
写真図版44 1975（昭和50）年度出土遺物③



1. 75-F-15



2. 75-F-16



3. 75-F-17



4. 75-F-18



5. 75-F-19



6. 75-F-20



7. 75-F-21



8. 75-F-22



9. 75-F-23

写真図版45 1975（昭和50）年度出土遺物④



1. 75-F-24

2. 75-F-25

3. 75-F-26



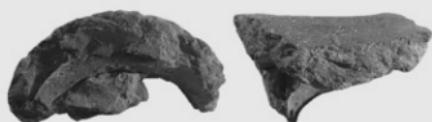
4. 75-F-27



5. 75-F-28



6. 75-F-29



7. 75-F-30

写真図版46 1975（昭和50）年度出土遺物⑤



1. 75-F-31



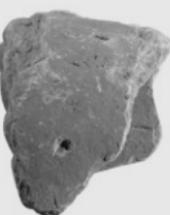
2. 75-F-32



3. 75-F-33



4. 75-F-34



5. 75-F-35

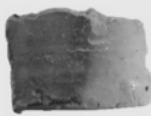


6. 75-F-36

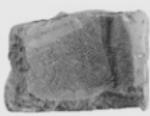


7. 75-F-37

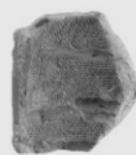
写真図版47 1975（昭和50）年度出土遺物⑥



1. 75-F-38



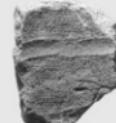
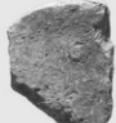
2. 75-F-39



3. 75-F-40



4. 75-F-41



5. 75-F-42



6. 75-F-43

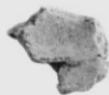
写真図版48 1975（昭和50）年度出土遺物⑦



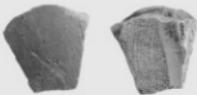
1. 75-F-44



2. 75-F-45



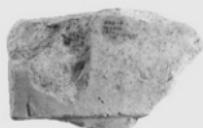
3. 75-F-46



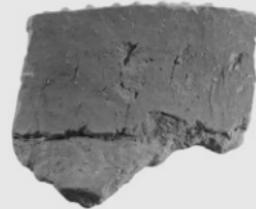
4. 75-F-47



5. 75-G-1



6. 75-G-2



写真図版49 1975（昭和50）年度出土遺物⑧



1. 75-G-3



2. 75-G-4



3. 75-G-5



4. 75-G-6



5. 75-G-7



写真図版50 1975（昭和50）年度出土遺物⑨



1. 75-G-8



2. 75-G-9



3. 75-G-10



4. 75-G-11

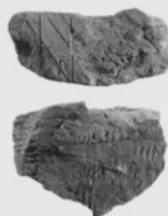


5. 75-G-12

写真図版51 1975（昭和50）年度出土遺物⑩



1. 75-G-13



2. 75-G-14



3. 75-G-15



4. 75-G-16

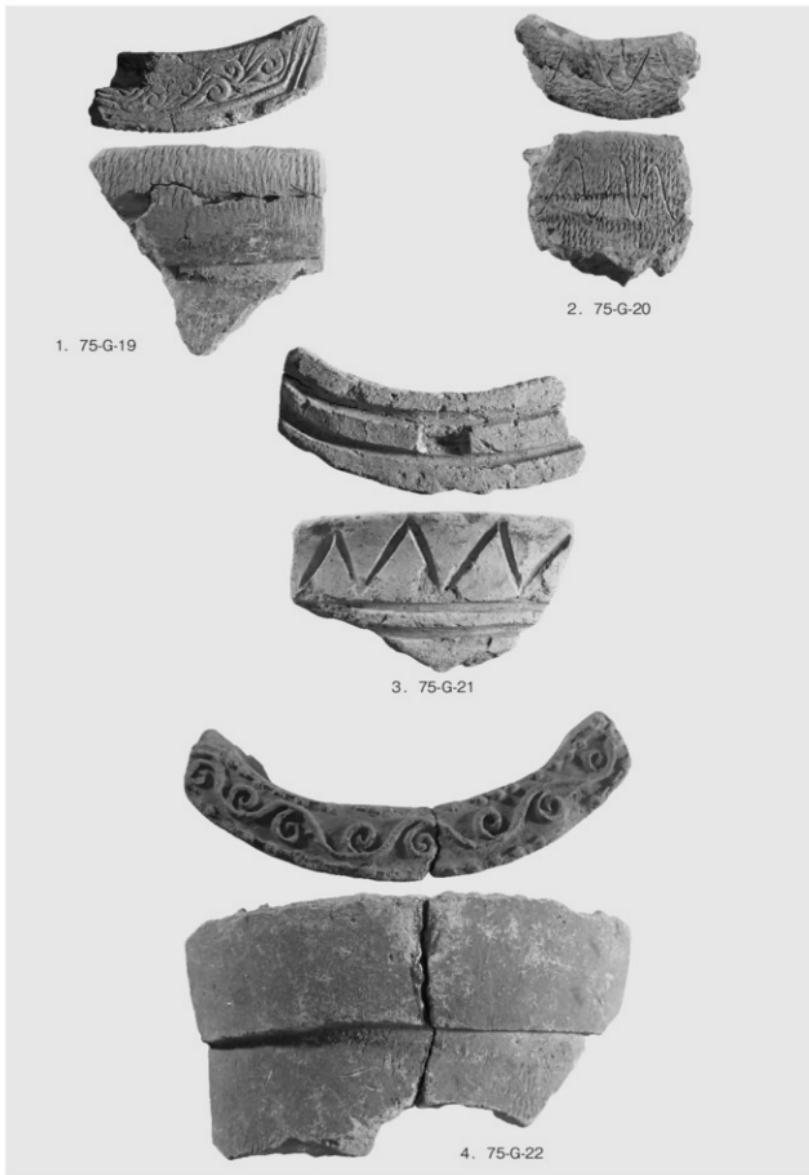


5. 75-G-17



6. 75-G-18

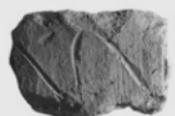
写真図版52 1975（昭和50）年度出土遺物⑪



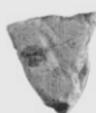
写真図版53 1975（昭和50）年度出土遺物⑫



1. 75-G-23



2. 75-G-24



3. 75-G-26



4. 75-G-27



5. 75-G-28



6. 75-G-29



7. 75-G-31

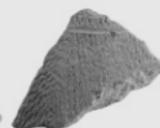
写真図版54 1975（昭和50）年度出土遺物⑬



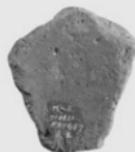
1. 75-G-32



2. 75-G-33



3. 75-G-34



4. 75-G-35



5. 75-G-36

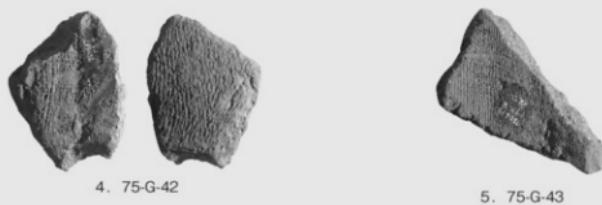
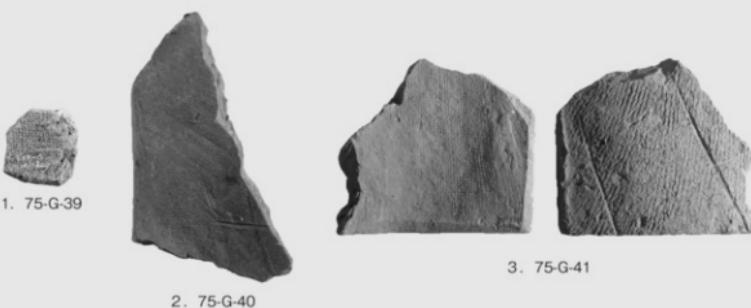


6. 75-G-37



7. 75-G-38

写真図版55 1975（昭和50）年度出土遺物⑭



写真図版56 1975（昭和50）年度出土遺物⑯



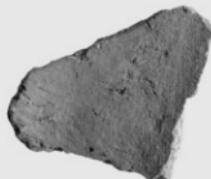
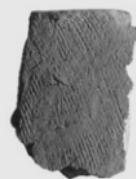
1. 75-G-46



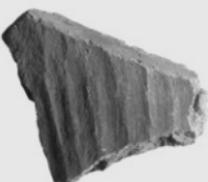
2. 75-G-47



3. 75-G-48



4. 75-G-49



5. 75-G-50



6. 75-G-51



写真図版57 1975（昭和50）年度出土遺物¹⁶



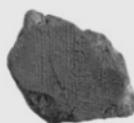
1. 75-G-52



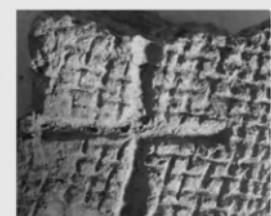
2. 75-G-53



3. 75-G-54



4. 75-G-55



5. 75-G-56



6. 75-G-57

写真図版58 1975（昭和50）年度出土遺物⑯



1. 75-G-58



2. 75-G-59



3. 75-G-60



4. 75-G-61



5. 75-G-62



6. 75-K-1

写真図版59 1975（昭和50）年度出土遺物¹⁸

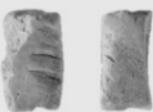


1. 75-K-2



2. 75-K-3

写真図版60 1975（昭和50）年度出土遺物⑯



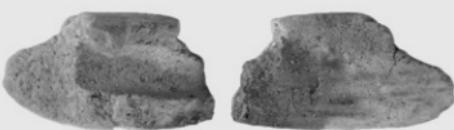
1. 75-K-4



2. 75-K-5



3. 75-K-6



4. 75-P-1

写真図版61 1975（昭和50）年度出土遺物②

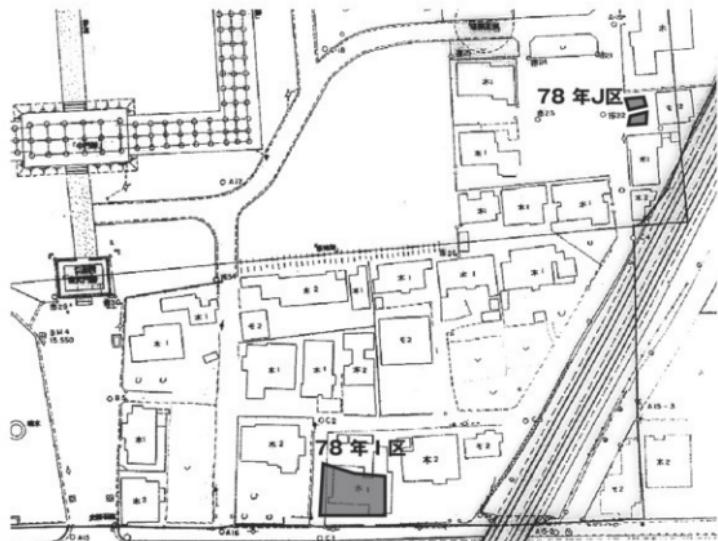
第6章 1978(昭和53)年度発掘調査

1 調査経過

伽藍南東外地区において、共同住宅建設に伴う現状許可申請が提出されたことから、建物建設予定地区において発掘調査を実施した。(I 区 : 96m²) 表土は60~80cmであるが、調査区内の大部分では、この表土直下で基盤層の砂礫層となる。

外郭東辺南部地区において、個人住宅建築に伴う現状変更許可申請が提出されたことから、建築予定地区において発掘調査を実施した。(J 区: 16nf) 表土は50cmから 1mほどもある擾乱層で、一部で黒褐色旧表土があつたが、その下層は粘土・礫層の基盤層となる。

調査期間は両地区あわせて、5月18日から6月13日までである。



第37図 調査区位置図-78

2. 發見遺構・出土遺物

〔I区〕土坑8基、溝状落込み6条、ピット26が検出された。いずれも性格、年代等の詳細は不明であった。
陸奥国分寺に関連する遺構とは考えられない。

出土遺物は、古代の瓦、近世の瓦、土師器片がそれぞれ数点、古銭が1点である。

【J区】 ビットが17検出されたが、柱穴と考えられるものはなかった。外郭東門跡から伽藍中軸線方向に沿って推定される寺域外郭東辺の推定位置であったが、築地等の遺構は発見できなかった。後世の搅乱により損なわれてしまつたのか、推定位置からズレが生じているものなのか、周辺の更なる調査が必要であろう。

出土遺物は、古代の瓦の他、土師器細片が数点、古錢が2点である。

第7章 1979（昭和54）年度発掘調査

1. 寺城西辺塗地（72m²）

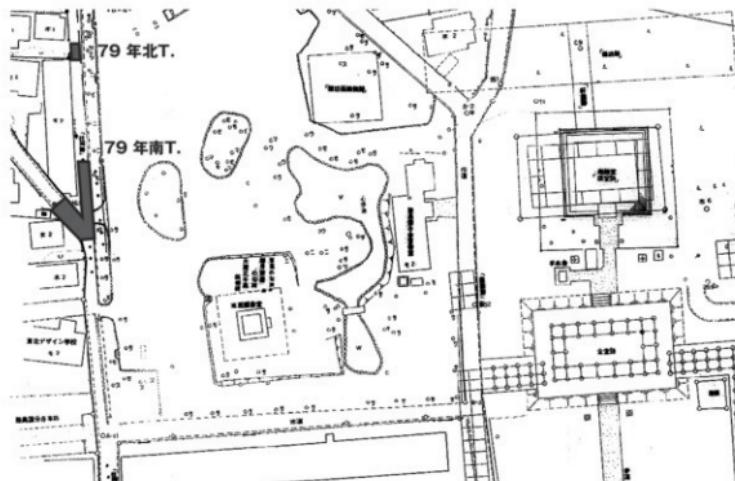
（1）調査経過

寺城西辺地区で南北に延びる市道の舗装工事に伴う史跡現状変更許可申請が提出されたことから、工事に先立って事前調査を実施した。この市道沿いでは、昭和30年代の発掘調査により、外郭西辺の区画施設と考えられる掘立柱列や溝跡が検出されていた。舗装工事は地下遺構を損なわないよう計画されたが、市道敷き内は上下水道・ガスなどの埋設管は敷設されていたことから、遺構の遺存状況を確認する目的で実施された。調査区は2ヶ所にわけ、北トレンチは過去の調査で版塗を検出した部分の南端（市道三叉路より北38m）に3.5×2mで設定した。南トレンチは市道三叉路に南北に18×2.5mと北西に7×2.5mの変形トレンチを設定した。道路敷内は碎石敷で、表土は約40cmの碎石砂利層、2層目も磁器・ガラス片などが混入する搅乱層で、遺構が検出された黄褐色粘土層上面は道路面より60~70cm程度、検出面の30~40cm下層で黄褐色礫層の基盤層となる。調査面積は両トレンチ合わせて、72m²である。調査期間は昭和54年度末の昭和55年3月24日から28日までである。

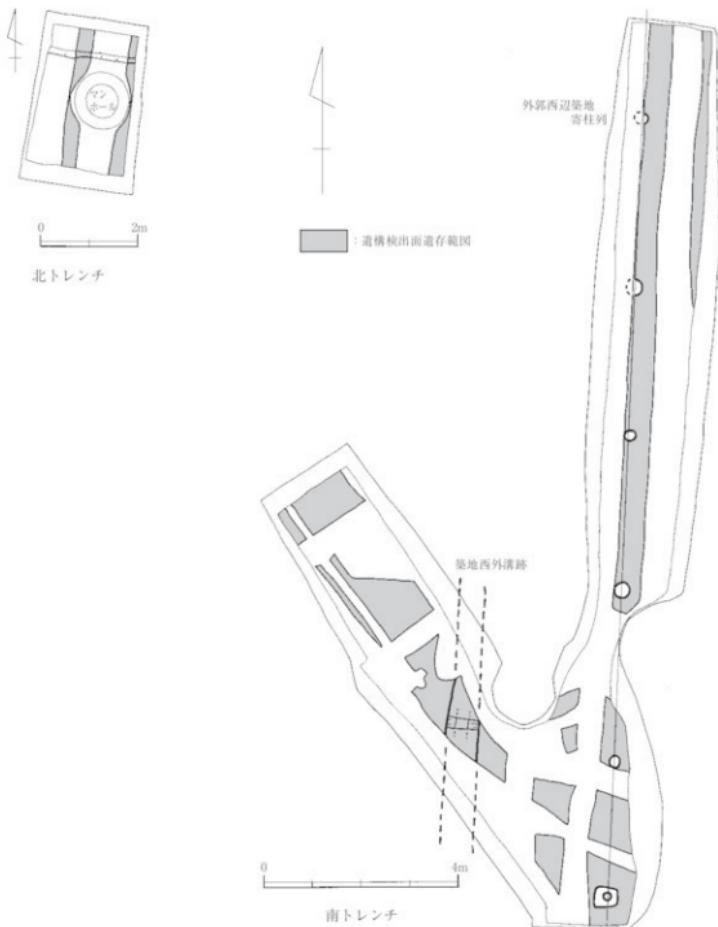
（2）発見遺構・出土遺物

【北トレンチ】 1・2層搅乱層の直下で版塗面を検出、版塗は黄褐色粘土と黒褐色シルトが厚さ数cmの互層を成し、全体では層厚30~40cmである。版塗の範囲は確定できなかったが、これまでの調査によれば、南北は33mにわたり、東端は木ノ下公園敷地内で検出されているが、西側は不明である。

【南トレンチ】 北トレンチ同様、埋設管等による搅乱が著しく、黄褐色土層の遺構検出面が残っている範囲は



第38図 調査区位置図-79-1



第39図 調査区平面図-79-1 (1/100)

調査区内の1/3にも満たなかった。しかし、以前の調査で検出されていた柱穴が6つ1列に検出された。柱穴は上部削平により柱痕跡基底部からうじて残っていたものが殆どであるが、一番南の柱穴のみ、40×50cmの隅丸方形の柱掘り方と直径15cmほどの柱痕跡が検出された。その他の柱穴は直径20~30cmの円形である。柱間寸法は275~350cmとやや不揃いである。柱列の方向は、伽藍中軸線とほぼ同方向である。この柱穴列の西側（寺域外側）には、約3m（10尺）隔てて、平行する溝跡が1条検出された。溝跡は上幅60cm、下幅25cmほどで、断面形は逆台形を呈する。この溝跡も以前の調査で確認のとおりである。

これまでの調査により、外郭西辺地区では、版築による築地跡は検出されていないが、平行する2列の柱穴列が見つかっており、この柱穴は築地寄せ柱と考えられた。今回検出した柱穴列は西側に溝跡との位置関係から、築地西側（外側）の寄せ柱列と築地外を並行する外溝跡と考えられる。

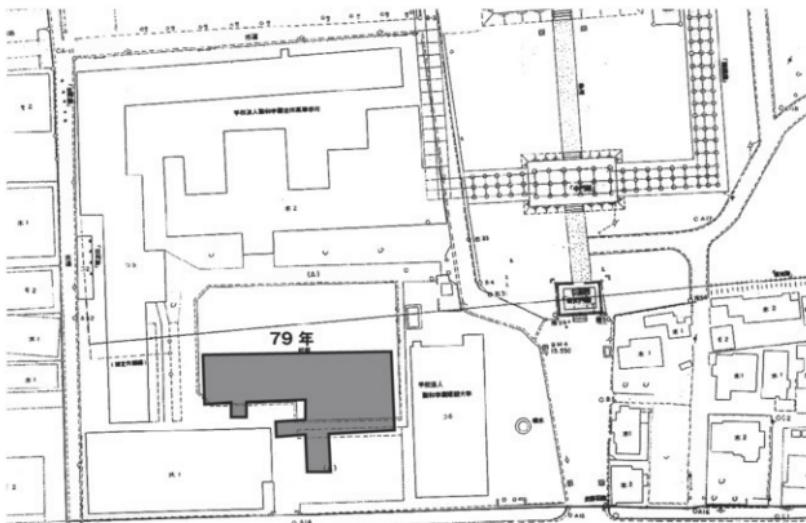
北トレーンで検出された版築は、検出範囲から見ると築地や門等の施設のものとは考えがたく、外郭西辺の北地区では外郭施設推定位置に、版築を伴う何らか施設の存在が想起される。大正時代の史跡指定の際に西北側では張り出して指定範囲が広がっている。関連する遺構の広がりが地表でも認められたのか否か定かでないが、今後の調査と検討が待たれる。

2. 伽藍地南西外側

(1) 調査経過

寺城南西外地区において、学校法人聖和学園吉田高等学校より、校舎新築のための史跡現状変更許可申請が提出されたことから、遺構確認のため建築予定部分の事前調査を実施した。調査個所は昭和50年に調査を行なったF区とH区の間に位置し、外郭南辺築地跡の南外にある。表土は約30cmが校庭の盛土（山砂）、2層目が約30cmで畠地の旧耕作土、3層目が約10cmで暗褐色粘土質シルトの旧表土と見られる。この下層が基盤のローム・砂疊層となっている。調査面積は約690m²である。

調査期間は、昭和54年6月11日から8月3日までである。



(2) 発見遺構・出土遺物

調査の結果、土坑22基、溝跡13条、の他多数のピットが検出された。

〔土坑〕堆積土の中にガラス片など最近の構造物破片が入っているものが多数ある。その他の土坑も古代の遺構と考えられるものはなかった。

〔溝跡〕堆積土の中に土坑と同様、最近のものが混入するものや、方向が現況の建物等と同方向を示すものなどで、これも古代の遺構と考えられるものはなかった。

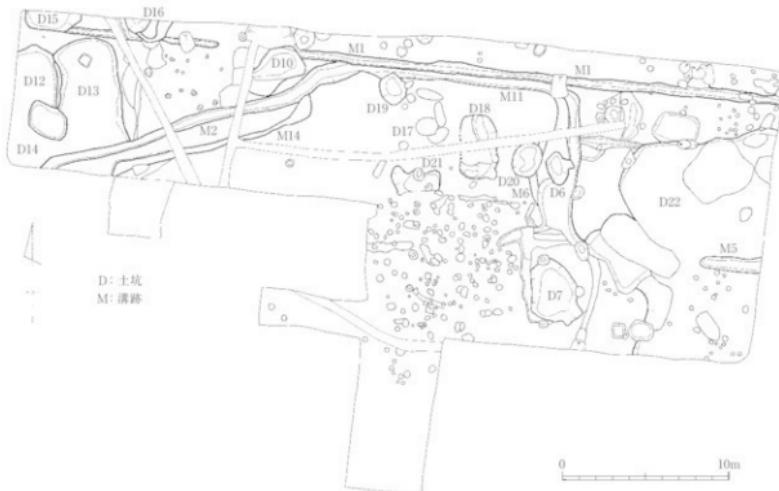
〔ピット〕ある程度の範囲でまとまりが見られたが、堆積土の中に最近のものが混入しているものが多く、また、規模も不揃いで、建物跡として捉えられるものはなかった。

〔出土遺物〕瓦片が大半をしめ、軒丸瓦片3点、軒平瓦片1点も含まれる。土器類は土師器細片の中に底部回転ヘラ切りの坏片が4点あり、その他は若干の須恵器片がみられた。

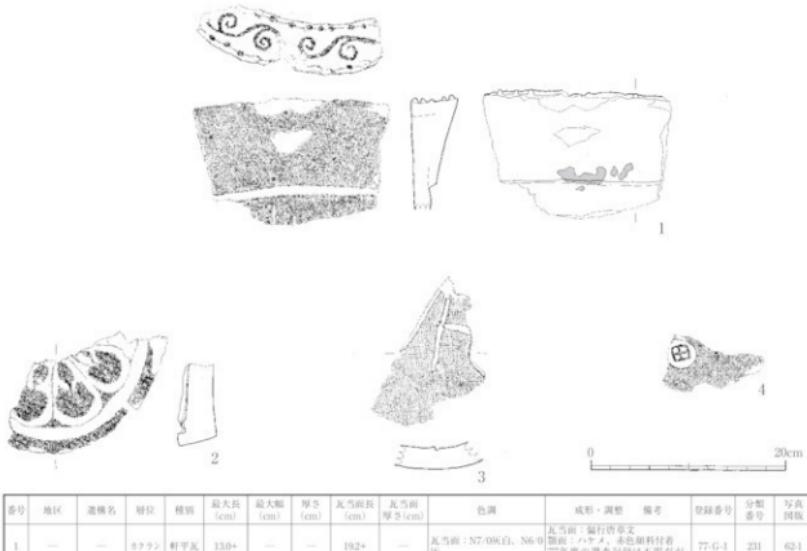
出土遺物の中に古代に属するものも見られたが、陸奥国分寺に関連する遺構は確認できなかった。



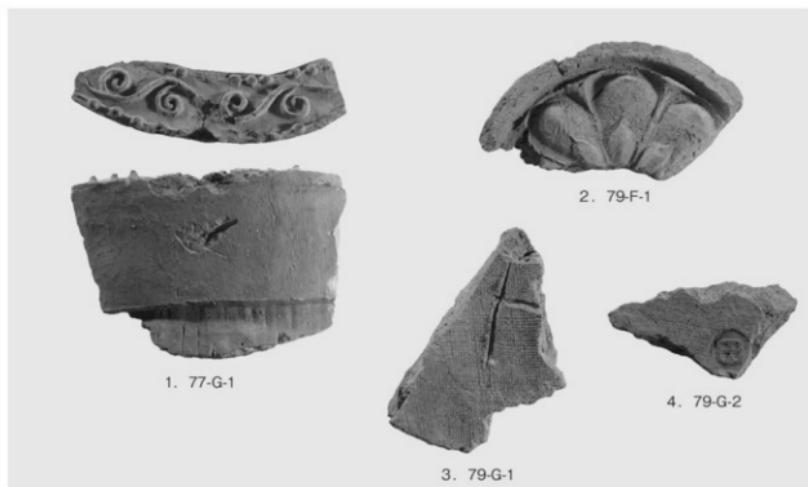
調査区全景（東より）



第41図 調査区平面図-79-2 (1/300)



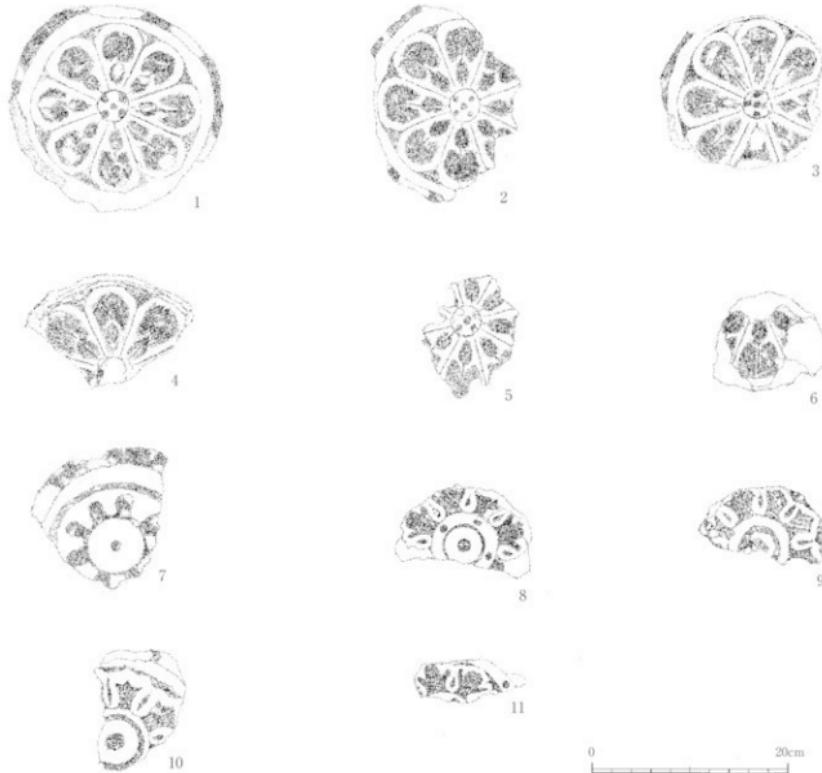
第42図 出土遺物拓物・実測図77・79



写真図版62 1977・1979(昭和52・54)年度出土遺物

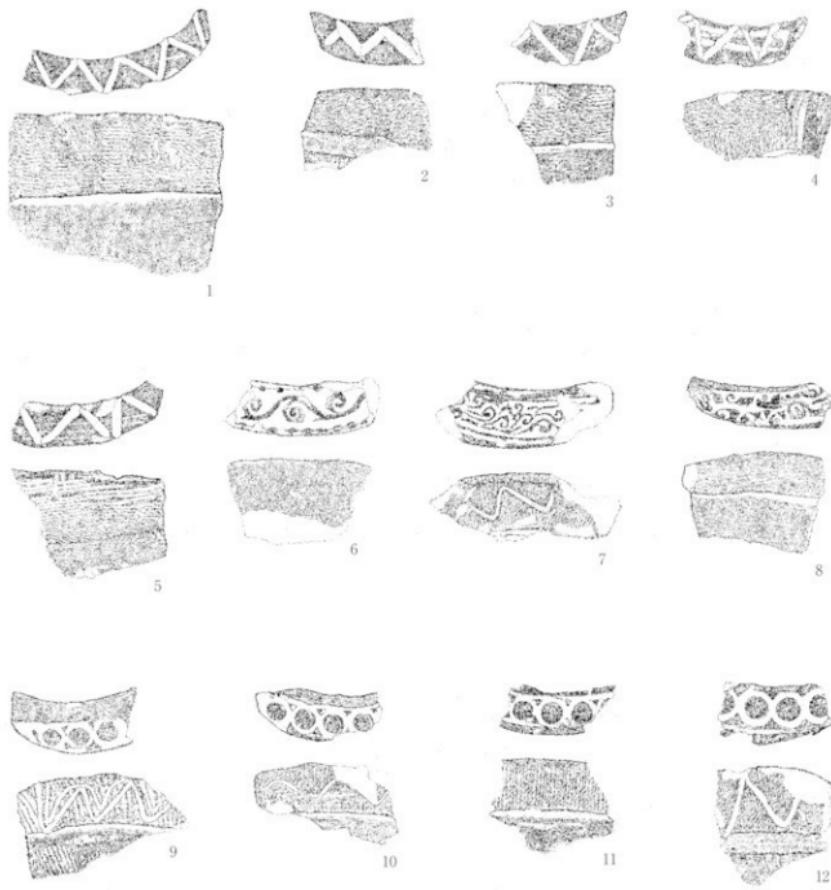
第8章 参考資料

出土資料の内、添付のカードが不明となり、調査年度、調査地区・遺構など詳細データの特定が困難なものが
ある。いずれも本報告所取の調査に該当するものであるが、特定できないものについては、参考資料として登録
作業と拓影・写真撮影を行ない掲載した。



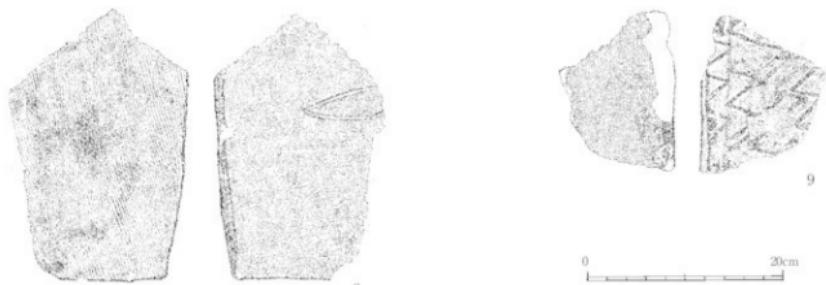
第43図 出土遺物拓影 参考－1

番号	地区	遺構名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録番号	分類 番号	写真 番号
1	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：重井窓華文	參F-11	112	63-11
2	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：重井窓華文	參F-8	112	63-8
3	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：重井窓華文	參F-7	112	63-7
4	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：重井窓華文	參F-6	112	63-6
5	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：重井窓華文	參F-9	112	63-9
6	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：重井窓華文	參F-2	112	63-2
7	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：圓章文	參F-12	131	64-1
8	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：安相參文	參F-10	121	63-10
9	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：安相參文	參F-1	122	63-1
10	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：安相參文	參F-3	122	63-3
11	—	—	—	瓦当	—	—	—	—	—	—	瓦当面：安相參文	參F-5	121	63-5



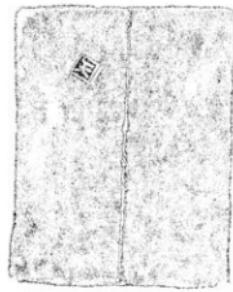
第44図 出土遺物拓影 参考-2

番号	地区	遺跡名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 団版
1	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:山乾文	等-G-11	242	66.3	
2	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:山乾文	等-G-15	243	67.2	
3	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:山乾文	等-G-3	242	65.1	
4	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:山乾文	等-G-12	240	66.4	
5	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:山乾文	等-G-8	242	65.6	
6	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:鷺行唐草文	等-G-16	231	67.3	
7	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:鷺行唐草文 側面:波状文	等-G-14	251	67.1	
8	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:鷺行唐草文	等-G-1	254	64.5	
9	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:波状文 側面:波状文	等-G-4	262	65.2	
10	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:波状文 側面:波状文	等-G-17	262	67.4	
11	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:波状文	等-G-5	262	65.3	
12	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	瓦当面:波状文 側面:山乾文	等-G-2	261	64.6	



番号	地区	遺構名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面：重張文 瓦面：山形文	参G-10	211	66-2
2	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面：へテ様文 瓦面：波状文	参G-9	291	66-1
3	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面：重張文	参G-7	271	65-5
4	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面：均整唐草文	参G-6	254	65-4
5	—	—	—	軒平瓦	—	—	—	—	—	—	—	瓦当面：偏行唐草文	参G-13	231	66-5
6	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	四面：へテ書	参G-27	—	69-4
7	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	四面：へテ書「大」	参G-24	—	69-1
8	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	四面：へテ書	参G-28	—	70-1
9	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	—	四面：へテ書「大」	参G-20	—	68-1

第45図 出土遺物拓影 参考-3



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11

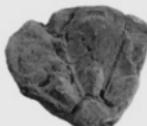
0 20cm

番号	地区	遺構名	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	分類 番号	写真 図版
1	—	—	—	瓦当瓦	—	—	—	—	—	—	刻印「天」	行	参-H-1	—	70.3
2	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面：刻印「行」		参-G-23	—	68.4
3	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面：八字書		参-G-30	—	70.2
4	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面：刻印「物」		参-G-22	—	68.3
5	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面：八字書「大」		参-G-19	—	67.6
6	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面：刻印「末」		参-G-21	—	68.2
7	—	—	—	丸瓦	—	—	—	—	—	—	凸面：刻印「田」		参-F-14	—	64.3
8	—	—	—	丸瓦	—	—	—	—	—	—	凸面：刻印「伊」		参-F-13	—	64.2
9	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凹面：刻印「真」		参-G-26	—	69.3
10	—	—	—	丸瓦	—	—	—	—	—	—	凸面：刻印「吉」		参-F-15	—	64.4
11	—	—	—	平瓦	—	—	—	—	—	—	凸面：刻印「何」		参-G-25	—	69.2

第46図 出土遺物拓影 参考-4



1. 参-F-1



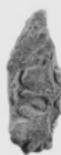
2. 参-F-2



3. 参-F-3



4. 参-F-4



5. 参-F-5



6. 参-F-6



7. 参-F-7



8. 参-F-8



9. 参-F-9



10. 参-F-10



11. 参-F-11

写真図版63 参考資料出土遺物①



1. 参-F-12



2. 参-F-13



3. 参-F-14



4. 参-F-15



5. 参-G-1



6. 参-G-2

写真図版64 参考資料出土遺物②



1. 参-G-3



2. 参-G-4



3. 参-G-5



4. 参-G-6



5. 参-G-7



6. 参-G-8



1. 参-G-9



2. 参-G-10



3. 参-G-11



4. 参-G-12

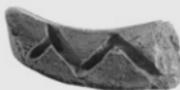


5. 参-G-13

写真図版66 参考資料出土遺物④



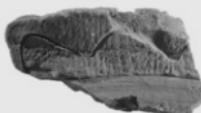
1. 参-G-14



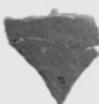
2. 参-G-15



3. 参-G-16



4. 参-G-17



5. 参-G-18



6. 参-G-19



1. 参-G-20



2. 参-G-21

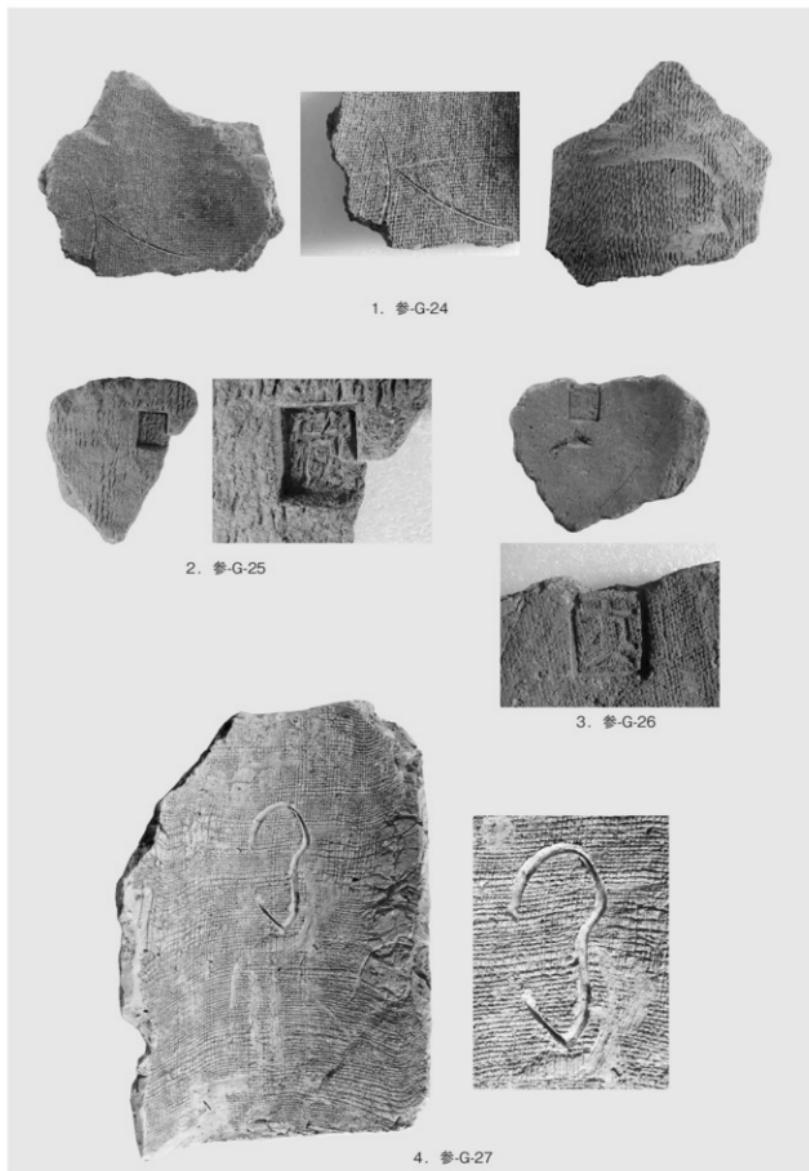


3. 参-G-22



4. 参-G-23

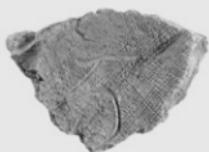
写真図版68 参考資料出土遺物⑥



写真図版69 参考資料出土遺物⑦



1. 参-G-28



2. 参-G-30



3. 参-H-1

写真図版70 参考資料 出土遺物⑧

第9章　まとめ

〔発見遺構〕

僧坊跡：1973年（昭48）・1974年（昭49）の調査により、基壇の整地層が4面検出され、最下層で掘立柱建物跡の柱穴を2つ検出した。また、整地層南縁に並行する雨落溝と考えられる溝跡を検出した。2層目の整地層上面では「壠掘り地形」とある礎石据え方の坪地業、最上層の整地層上面で礎石据え方に伴う根石群を検出し、「僧坊跡柱礎には掘立柱→壠掘り地形→根石と最低3回の変遷を認めることができた。」（文献5）との報告がある。部分的な検出で、即断できないが、僧坊建物全体の立替変遷を示す可能性があり、更なる調査・検討を要する。

塔院廻廊：回廊基壇については規模、形状等の詳細について明らかにすことができなかつた。また、廻廊南正面に付設されたと推定される門等の入口施設についても明らかにすことができなかつた。しかし、廻廊南西隅部で、近世の瓦を焼いた平窓を1基検出した。近世初期、薬師堂の建立に関連する遺構と考えられる。

外郭築地：1973年（昭48）・1975年（昭50）の調査で、外郭南辺の築地塀跡を検出した。版塗による築地基底幅は3mほど、築地塀本体の幅は寄柱間隔からみて1.8m（6尺）で、両側に60cm（2尺）ほどの犬走りがつく。さらに築地塀の内部側には幅50cmほど内の内溝：雨落溝が並行し、外部側には3mほど離れて幅1.7m、深さ40cmほどの大溝：区画溝が並行する。西辺では1979年（昭54）の調査で、築地本体は不明ながら寄柱列と外溝が検出され、南辺とはほぼ同様の塀があったものと考えられた。東辺は推定線隣接地区の調査が1件あったが、区画施設は検出されず、位置、構造等の詳細は不明である。

南面外側西地区：平安後期以降の小規模建物群などが見つかったものの、古代の陸奥国分寺に関連する建物等の施設は発見されなかつた。

〔出土遺物〕

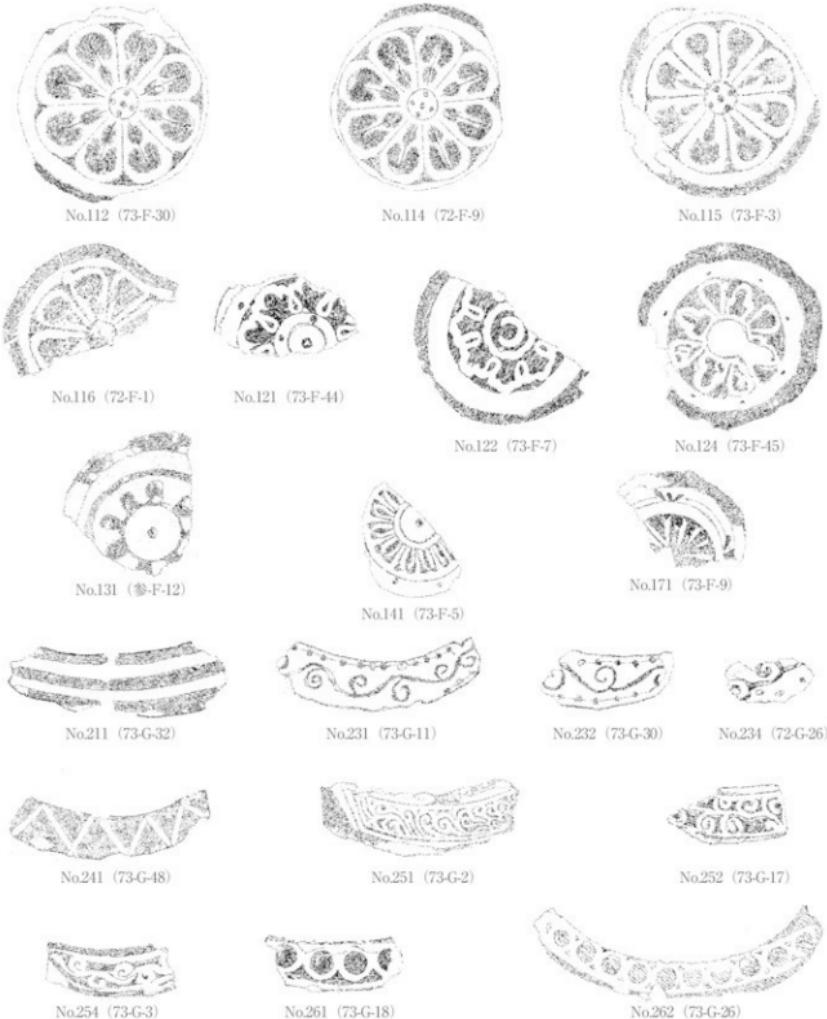
出土遺物の大半は古代の瓦であり、その他には、土器・須恵器などの土器、陶器、石製品、土製品、古錢などがある。しかし、多くのものは、カード類が散逸し、出土遺構・層位など詳細が不明となっていたことから、遺構との照合や年代検討をすることができなかつた。抽出した軒丸・軒平瓦は分類を行いこれまでに発見された瓦類と比較対照を行なった。概観すれば、陸奥国分寺創建期の瓦群と平安時代初めの貞觀年間に陸奥国一带に大きな被害をもたらした所謂貞觀地震後の復興に使われた瓦群のグループに大別された。比較検討に関しては、昭和30～34年に実施された発掘調査の報告書（表1～No1～5：文献1）の分類を踏襲し、さらに陸奥国府多賀城跡出土瓦の形式分類（参考文献23・24）と対比した分類番号を付し、分類対応一覧に記載した。

文字の記された瓦片も多く見られたが、刻印文字にくらべ、指書・ヘラ書き文字のものが多かつた。また、軒平瓦では、顎下部（凸面）に赤色顔料が付着しているものが、多く見られ、特に創建期の瓦である偏行唐草文軒平瓦で顕著であった。創建の建物は、軒の瓦を受ける茅負をはじめとし、組物や柱などの主要建築部材が赤彩を施された豪壮なものであったことが伺われる。

〔今後の調査と整備にむけて〕

僧坊の詳細調査が必要であろう。4層にわたるとされた整地層の確認や建物基壇規模の把握とあわせ、礎石建ち建物に先行する可能性がある掘立柱建物の存在を含め、建て替えの有無、変遷についての検証と検討が待たれる。また、寺域を画す外郭の位置と構造については、東辺、北辺の複数箇所での検証が必要であろう。

本調査報告は、調査担当を含む関係者の多くが職責を離れ、整理、報告書作成に関わることができなかつたことから、現職員で対応し、各年度の調査員、指導者、協力者名等を割愛した。



第47図 軒丸瓦・軒平瓦分類図

拓影に付したNoは、出土瓦分類対応一覧の本報告欄に表記した分類番号で、100番台は軒丸瓦、200番台は軒平瓦にあたる。（ ）は本報告中で表記の登録番号で、分類の際にモデルとした個体番号である。

陸奥国分寺跡出土瓦 分類対応一覧

1. 軒丸瓦

陸奥国分寺 昭和報告(文献1)	陸奥国分寺 本報告	多賀城政府報告(文献24)
重弁蓮花文證瓦 第一類	重弁蓮華文軒丸瓦 111	8集重弁蓮花文 221
“ 第二類	“ 112	“ 222
“ 第三類	“	“ 223
“ 第四類	“ 114	“ 222
“ 第五類	“ 115	“ 225
“ 第六類	“ 116	“ 226
“ 第七類	“	“ 460
“ 第八類	“	
“ 第九類	“	
宝相花文證瓦 第一類	宝相華文軒丸瓦 121	宝相花文 422
“ 第二類	“ 122	“ 423
“ 第三類	“	
“ 第四類	“ 124	宝相花文 425
“ 第五類	“	
南車文證瓦	南車文軒丸瓦 131	南車文 427
細弁蓮花文證瓦 第一類	細弁蓮華文軒丸瓦 141	細弁蓮花文 310B
“ 第二類	“	
重圓文證瓦		
複弁蓮花文證瓦		
変形蓮花文證瓦	変形蓮華文軒丸瓦 171	
素弁蓮花文證瓦 第一類	素弁蓮華文軒丸瓦 181	
“ 第二類	“	
“ 第三類	“ 183	
桜花様文證瓦	桜花様文軒丸瓦 191	

2. 軒平瓦

陸奥国分寺 昭和報告(文献1)	陸奥国分寺 本報告	多賀城政府報告(文献24)
重弧文宇瓦 第一類	重弧文軒平瓦 211	
“ 第二類		
“ 第三類		
单弧文宇瓦	单弧文軒平瓦 221	(不明)
偏行唐草文字瓦 第一類	偏行唐草文軒平瓦 231	偏行唐草文 621
“ 第二類	“ 232	“ 620
“ 第三類		
“ 第四類	“	
“ 第五類	234	
山形文宇瓦	山形文軒平瓦 241-243	
三重波文宇瓦	三重波文軒平瓦 271	
均正唐草文字瓦 第一類	均整唐草文軒平瓦 251	均整唐草文 721B
“ 第二類	“ 252	
“ 第三類		
“ 第四類	“ 254	
连珠文宇瓦 第一類	连珠文軒平瓦 261	连珠文 830
“ 第二類	“ 262	“ 831
細縞陽刻偏行唐草文字瓦	細縞陽刻偏行唐草文軒平瓦 281	
兜描文宇瓦	兜描文軒平瓦 291	
無文宇瓦		

表中の項目名とした〔陸奥国分寺 昭和報告〕は「陸奥国分寺跡」(1961) (文献1)、〔陸奥国分寺 本報告〕は本書、〔多賀城政府報告〕は「多賀城跡 政府跡本文編」(1982) (文献24) を示し、それぞれに掲載の名称・分類番号を表記した。また、対応関係については多賀城政府報告(文献24) 第VII章考察表40・41を参考に作成した。

空欄・欠番は、出土資料のないもの、共有関係のないもの、不明なものなどである。

登錄遺物一覽

No.	登錄番号	種別	備考	国版 番号	美濃 國	伝形 番号	分類 番号	写真 国版
1	71-F-1	軒丸瓦	直脊蓮草文	51	○	116	1-1	
2	72-F-1	軒丸瓦	直脊蓮草文	57	○	114	1-2	
3	72-F-2	軒丸瓦	直脊蓮草文	55	○	112	1-3	
4	72-F-3	軒丸瓦	直脊蓮草文				1-4	
5	72-F-4	軒丸瓦	直脊蓮草文				1-5	
6	72-F-5	軒丸瓦	直脊蓮草文				1-6	
7	72-F-6	軒丸瓦	直脊蓮草文				1-7	
8	72-F-7	軒丸瓦					2-1	
9	72-F-8	軒丸瓦					2-2	
10	72-F-9	軒丸瓦	直脊蓮草文	52	○	114	2-3	
11	72-F-10	軒丸瓦					-	
12	72-F-11	軒丸瓦					2-4	
13	72-F-12	軒丸瓦					2-5	
14	72-F-13	軒丸瓦					2-6	
15	72-F-14	軒丸瓦	宝相草文	59	○	124	2-7	
16	72-F-15	軒丸瓦	直脊蓮草文	54	○	112	3-1	
17	72-F-16	軒丸瓦	直脊蓮草文	56	○	116	3-2	
18	72-F-17	軒丸瓦	直脊蓮草文	53	○	114	3-3	
19	72-F-18	軒丸瓦	宝相草文				3-4	
20	72-F-19	軒丸瓦	宝相草文				3-5	
21	72-F-20	軒丸瓦	直脊蓮草文				3-6	
22	72-F-21	軒丸瓦	直脊蓮草文	58	○	114	3-7	
23	72-F-22	軒丸瓦	宝相草文				3-8	
24	72-F-23	軒丸瓦	直脊蓮草文				3-9	
25	72-F-24	軒丸瓦					4-1	
26	72-F-25	軒丸瓦	宝相草文				4-2	
27	72-F-26	軒丸瓦	直脊蓮草文				4-3	
28	72-F-27	軒丸瓦					4-4	
29	72-F-28	軒丸瓦	直脊蓮草文				4-5	
30	72-F-29	軒丸瓦					4-6	
31	72-F-30	軒丸瓦					4-7	
32	72-F-31	軒丸瓦					5-1	
33	72-F-32	軒丸瓦					5-2	
34	72-F-33	軒丸瓦					5-3	
35	72-F-34	軒丸瓦					5-4	
36	72-F-35	軒丸瓦					5-5	
37	72-F-36	軒丸瓦					5-6	
38	72-F-37	軒丸瓦					5-7	
39	72-F-38	軒丸瓦					5-8	
40	72-F-39	軒丸瓦					6-1	
41	72-F-40	軒丸瓦					6-2	
42	72-F-41	軒丸瓦	宝相草文	510	○	128	6-1	
43	72-F-42	丸瓦	八戸書	96	○		6-2	
44	72-F-43	丸瓦	八戸書	97	○		6-3	
45	72-F-44	丸瓦	八戸書				6-4	
46	72-F-45	丸瓦	八戸書	910	○		6-5	
47	72-F-46	丸瓦	八戸書				6-6	
48	72-F-47	丸瓦					6-7	
49	72-G-1	軒平瓦	鰐行唐草文	76	○	231	7-1	
50	72-G-2	軒平瓦	鰐行唐草文	64	○	231	7-2	
51	72-G-3	軒平瓦	鰐行唐草文	75	○	231	7-3	
52	72-G-4	軒平瓦	鰐行唐草文	66	○	231	7-4	
53	72-G-5	軒平瓦	鰐行唐草文	78	○	231	8-1	
54	72-G-6	軒平瓦	鰐行唐草文	74	○	231	8-2	
55	72-G-7	軒平瓦	鰐行唐草文	77	○	231	8-3	
56	72-G-8	軒平瓦	鰐行唐草文・赤色顔料	63	○	231	8-4	
57	72-G-9	軒平瓦	鰐行唐草文	710	○	231	9-1	
58	72-G-10	軒平瓦	山形文				9-2	
59	72-G-11	軒平瓦	通珠文	733	○	262	9-3	
60	72-G-12	軒平瓦	鰐行唐草文				10-1	
61	72-G-13	軒平瓦	均整唐草文				10-2	
62	72-G-14	軒平瓦	鰐行唐草文・赤色顔料	65	○	231	10-3	
63	72-G-15	軒平瓦	山形文				10-4	
64	72-G-16	軒平瓦	鰐行唐草文				11-1	
65	72-G-17	軒平瓦	通珠文				11-2	
66	72-G-18	軒平瓦	鰐行唐草文				11-3	
67	72-G-19	軒平瓦	通珠文				11-4	
68	72-G-20	軒平瓦	鰐行唐草文				12-1	
69	72-G-21	軒平瓦	通珠文				12-2	
70	72-G-22	軒平瓦	山形文				12-3	
71	72-G-23	軒平瓦	通珠文				12-4	
72	72-G-24	軒平瓦	鰐行唐草文				13-1	
73	72-G-25	軒平瓦	通珠文				13-2	
74	72-G-26	軒平瓦	鰐行唐草文				13-3	
75	72-G-27	軒平瓦	通珠文				13-4	
76	72-G-28	平瓦	八戸書				13-5	
77	72-G-29	平瓦	鰐行唐草文				13-6	
78	72-G-30	平瓦	八戸書				13-7	
79	72-G-31	平瓦	八戸書				14-1	
80	72-G-32	平瓦	鰐行唐草文				14-2	
81	72-G-33	平瓦	八戸書				14-3	
82	72-G-34	軒丸瓦	八戸書				14-4	
83	72-G-35	平瓦	八戸書				14-5	
84	72-G-36	軒丸瓦	鰐行唐草文				14-6	
85	72-G-37	平瓦	鰐行唐草文				14-7	
86	72-G-38	平瓦	鰐行唐草文				14-8	
87	72-G-39	平瓦	八戸書				14-9	
88	72-G-40	平瓦	八戸書				14-10	
89	72-G-41	平瓦	八戸書				14-11	
90	72-G-42	平瓦	鰐行唐草文				14-12	
91	72-G-43	軒丸瓦	鰐行唐草文				14-13	
92	72-G-44	平瓦	鰐行唐草文				14-14	
93	72-G-45	軒丸瓦	鰐行唐草文				14-15	
94	72-G-46	軒丸瓦	鰐行唐草文				14-16	
95	72-G-47	軒丸瓦	鰐行唐草文				14-17	
96	72-G-48	軒丸瓦	宝相草文				14-18	
97	72-G-49	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-19	
98	72-G-50	軒丸瓦	宝相草文				14-20	
99	72-G-51	軒丸瓦	直脊蓮草文				14-21	
100	72-G-52	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-22	
101	72-G-53	軒丸瓦	宝相草文				14-23	
102	72-G-54	軒丸瓦	直脊蓮草文				14-24	
103	72-G-55	軒丸瓦	鰐行唐草文				14-25	
104	72-G-56	軒丸瓦	宝相草文				14-26	
105	72-G-57	軒丸瓦	宝相草文				14-27	
106	72-G-58	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-28	
107	72-G-59	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-29	
108	72-G-60	軒丸瓦	直脊蓮草文				14-30	
109	72-G-61	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-31	
110	72-G-62	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-32	
111	72-G-63	軒丸瓦	直脊蓮草文				14-33	
112	72-G-64	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-34	
113	72-G-65	軒丸瓦	通珠文				14-35	
114	72-G-66	軒丸瓦	鰐行唐草文				14-36	
115	72-G-67	軒丸瓦	九曜文				14-37	
116	72-G-68	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-38	
117	72-G-69	軒丸瓦	幽牟文				14-39	
118	72-G-70	軒丸瓦	宝相草文				14-40	
119	72-G-71	軒丸瓦	幽牟文				14-41	
120	72-G-72	軒丸瓦	通珠文				14-42	
121	72-G-73	軒丸瓦	宝相草文				14-43	
122	72-G-74	軒丸瓦	直脊蓮草文				14-44	
123	72-G-75	軒丸瓦	幽牟文				14-45	
124	72-G-76	軒丸瓦	重脊蓮草文				14-46	

No.	登録番号	種別	備考	国版 番号	美濃 國	剖面 番号	分類 番号	写真 国版
125	73-F-31	軒丸瓦	宝相草文			122	21-7	
126	73-F-32	軒丸瓦	宝相草文			122	21-8	
127	73-F-33	軒丸瓦	重牙蓮草文	13-4	○	116	21-9	
128	73-F-34	軒丸瓦	重牙蓮草文	13-7	○	112	21-10	
129	73-F-35	軒丸瓦	宝相草文			122	22-1	
130	73-F-36	軒丸瓦	宝相草文			122	22-2	
131	73-F-37	軒丸瓦	宝相草文	14-5	○	124	22-3	
132	73-F-38	軒丸瓦	宝相草文			122	22-4	
133	73-F-39	軒丸瓦	宝相草文			122	22-5	
134	73-F-40	軒丸瓦	宝相草文			122	22-6	
135	73-F-41	軒丸瓦				122	22-7	
136	73-F-42	軒丸瓦				122	22-8	
137	73-F-43	軒丸瓦				122	22-9	
138	73-F-44	軒丸瓦	宝相草文	14-2	○	121	22-10	
139	73-F-45	軒丸瓦	宝相草文	14-4	○	121	22-11	
140	73-F-46	軒丸瓦	重牙蓮草文	12-7	○	112	23-1	
141	73-F-47	軒丸瓦	重牙蓮草文			171	23-2	
142	73-F-48	軒丸瓦	重牙蓮草文			112	23-3	
143	73-F-49	軒丸瓦	重牙蓮草文			122	23-4	
144	73-F-50	軒丸瓦	宝相草文			122	23-5	
145	73-F-51	軒丸瓦	宝相草文	14-6	○	122	23-6	
146	73-F-52	軒丸瓦	重牙蓮草文	13-3	○	114	23-7	
147	73-F-53	軒丸瓦				122	23-8	
148	73-F-54	軒丸瓦	重牙蓮草文	12-5	○	122	23-9	
149	73-F-55	丸瓦		14-9	○	○	24-1	
150	73-F-56	丸瓦	刻印「吉」	20-6	○	○	24-2	
151	73-F-57	丸瓦				24-3		
152	73-F-58	丸瓦				24-4		
153	73-G-1	軒平瓦	鰐行草文	16-2	○	○	25-1	
154	73-G-2	軒平瓦	均整草文・赤色顔料	19-4	○	○	25-2	
155	73-G-3	軒平瓦	均整草文	20-1	○	○	25-3	
156	73-G-4	軒平瓦	通珠文	17-4	○	○	26-2	
157	73-G-5	軒平瓦	通珠文・赤色顔料	17-1	○	○	26-3	
158	73-G-6	軒平瓦	均整草文	19-5	○	○	25-6	
159	73-G-7	軒平瓦	均整草文	20-5	○	○	25-7	
160	73-G-8	軒平瓦	鰐行草文	16-5	○	○	25-8	
161	73-G-9	軒平瓦	鰐行草文・赤色顔料	15-7	○	○	26-1	
162	73-G-10	軒平瓦	通珠文	18-4	○	○	26-2	
163	73-G-11	軒平瓦	鰐行草文	16-4	○	○	26-3	
164	73-G-12	軒平瓦				26-4		
165	73-G-13	軒平瓦	通珠文	18-2	○	○	26-5	
166	73-G-14	軒平瓦	重弧文	18-6	○	○	26-6	
167	73-G-15	軒平瓦	鰐行草文・赤色顔料	15-2	○	○	23-1	
168	73-G-16	軒平瓦	鰐行草文・赤色顔料	15-4	○	○	23-2	
169	73-G-17	軒平瓦	均整草文	20-4	○	○	23-3	
170	73-G-18	軒平瓦	通珠文・赤色顔料	17-3	○	○	26-4	
171	73-G-19	軒平瓦	鰐行草文・赤色顔料	15-5	○	○	23-5	
172	73-G-20	軒平瓦	均整草文	19-8	○	○	25-1	
173	73-G-21	軒平瓦	均整草文	20-3	○	○	25-1	
174	73-G-22	軒平瓦	山形文	19-3	○	○	24-2	
175	73-G-23	軒平瓦				28-3		
176	73-G-24	軒平瓦	通珠文・赤色顔料	17-6	○	○	26-4	
177	73-G-25	軒平瓦	重弧文	18-8	○	○	21-1	
178	73-G-26	軒平瓦	通珠文	17-2	○	○	26-5	
179	73-G-27	軒平瓦	通珠文	18-5	○	○	26-2	
180	73-G-28	軒平瓦	均整草文	19-7	○	○	25-1	
181	73-G-29	軒平瓦	均整草文	16-3	○	○	23-3	
182	73-G-30	軒平瓦	鰐行草文・赤色顔料	15-3	○	○	23-2	
183	73-G-31	軒平瓦	通珠文・赤色顔料	17-5	○	○	26-2	
184	73-G-32	軒平瓦	重弧文	18-9	○	○	21-1	
185	73-G-33	軒平瓦	通珠文	18-3	○	○	26-3	
186	73-G-34	軒平瓦	鰐行草文・赤色顔料	15-1	○	○	23-1	
187	73-G-35	軒平瓦	均整草文			25-3		
188	73-G-36	軒平瓦	鰐行草文	16-7	○	○	23-1	
189	73-G-37	軒平瓦				27-1		
190	73-G-38	軒平瓦	鰐行草文	16-6	○	○	23-1	
191	73-G-39	軒平瓦	均整草文			27-2		
192	73-G-40	軒平瓦				27-3		
193	73-G-41	軒平瓦	鰐行草文	16-1	○	○	23-1	
194	73-G-42	軒平瓦	山形文			27-4		
195	73-G-43	軒平瓦	鰐行草文・赤色顔料	15-6	○	○	23-1	
196	73-G-44	軒平瓦	重弧文・赤色顔料	18-7	○	○	21-1	
197	73-G-45	軒平瓦				27-5		
198	73-G-46	軒平瓦				27-6		
199	73-G-47	軒平瓦	均整草文	19-6	○	○	25-1	
200	73-G-48	軒平瓦	山形文・赤色顔料	19-1	○	○	24-2	
201	73-G-49	軒平瓦	通珠文	18-1	○	○	26-2	
202	73-G-50	平瓦				28-9		
203	73-G-51	平瓦				28-8		
204	73-G-52	平瓦	山形文			28-7		
205	73-G-53	平瓦				29-10		
206	73-H-1	瓦頭器				30-3		
207	73-H-1	瓦頭貫土器	灯明照			21-5		
208	73-H-2	瓦頭器	环			21-2		
209	73-E-1	瓦頭器	环			21-2		
210	73-E-2	瓦頭器	横板			21-2		
211	73-E-3	瓦頭器				27-5		
212	73-E-4	瓦頭器	盖			27-6		
213	73-E-5	瓦頭器	裏			23-1		
214	73-E-6	瓦頭器	环			23-3		
215	73-I-1	陶器	灯明照			21-6		
216	73-P-1	土製品	鐵台			34-1		
217	73-P-2	土製品	鐵台			34-2		
218	73-P-3	土製品	鐵台			34-3		
219	73-P-4	土製品	鐵台			34-4		
220	73-N-1	金城製品	政貨			22-1		
221	73-N-2	金城製品	政貨			25-2		
222	73-N-3	金城製品	政貨			25-3		
223	73-N-4	金城製品	政貨			25-4		
224	73-N-5	金城製品	政貨			25-5		
225	73-N-6	金城製品	政貨			22-2		
226	73-N-7	金城製品	政貨			22-3		
227	73-N-8	金城製品	政貨			22-4		
228	73-N-9	金城製品	政貨			25-9		
229	73-N-10	金城製品	政貨			22-5		
230	73-N-11	金城製品	政貨			22-6		
231	73-N-12	金城製品	政貨			25-12		
232	73-N-13	金城製品	政貨			25-13		
233	73-N-14	金城製品	政貨			25-14		
234	73-N-15	金城製品	政貨			25-15		
235	73-N-16	金城製品	政貨			25-16		
236	73-N-17	金城製品	政貨			25-17		
237	73-N-18	金城製品	政貨			25-18		
238	73-N-19	金城製品	政貨			25-19		
239	73-N-20	金城製品	政貨			25-20		
240	73-N-21	金城製品	政貨			22-9		
241	73-N-22	金城製品	政貨			22-10		
242	73-N-23	金城製品	政貨			26-3		
243	73-N-24	金城製品	政貨			22-11		
244	73-N-25	金城製品	政貨			22-12		
245	73-N-26	金城製品	政貨			22-13		
246	73-N-27	金城製品	政貨			22-14		
247	73-N-28	金城製品	政貨			22-15		
248	73-N-29	金城製品	政貨			26-9		
249	73-N-30	金城製品	政貨			22-16		
250	73-N-31	金城製品	政貨			26-11		
251	73-N-32	金城製品	政貨			22-17		
252	73-N-33	金城製品	政貨			22-18		

No.	登録番号	種別	備考	国版 番号	米國 版番	別版 番号	分類 番号	写真 国版		
253	73-N-34	金属製品	鉄貨				36-14			
254	73-N-35	金属製品	鉄貨	22-19	○		36-15			
255	73-N-36	金属製品	鉄貨	22-20	○		36-16			
256	73-N-37	金属製品	鉄貨				36-17			
257	73-N-38	金属製品	鉄貨	22-21	○		36-18			
258	73-N-39	金属製品	鉄貨	22-22	○		36-19			
259	73-N-40	金属製品	鉄貨				36-20			
260	73-N-41	金属製品	鉄貨				37-1			
261	73-N-42	金属製品	鉄貨				37-2			
262	73-N-43	金属製品	鉄貨				37-3			
263	73-N-44	金属製品	鉄貨	22-23	○		37-4			
264	73-N-45	金属製品	鉄貨	22-24	○		37-5			
265	73-N-46	金属製品	鉄貨	22-25			37-6			
266	73-N-47	金属製品	鉄貨	22-26	○		37-7			
267	73-N-48	金属製品	鉄貨				37-8			
268	73-N-49	金属製品	鉄貨	22-27	○		37-9			
269	73-N-50	金属製品	鉄貨				37-10			
270	73-N-51	金属製品	鉄貨	22-28	○		37-11			
271	73-N-52	金属製品	鉄貨	22-29	○		37-12			
272	73-N-53	金属製品	鉄貨	22-30	○		37-13			
273	73-N-54	金属製品	鉄貨	22-31	○		37-14			
274	73-N-55	金属製品	鉄貨				37-15			
275	74-F-1	軒丸瓦					38-3			
276	74-F-2	軒丸瓦					38-4			
277	74-F-3	軒丸瓦	重渦文	26-1	○	114	38-5			
278	74-F-4	軒丸瓦		26-2	○	○	38-6			
279	74-G-1	軒平瓦	連珠文	26-3	○	○	26-1	38-7		
280	74-G-2	軒平瓦	均整型草文				38-8			
281	74-G-3	軒平瓦	連珠文	36-4	○	○	36-2	39-1		
282	74-G-4	軒平瓦					39-2			
283	74-G-5	平瓦	ハラ書	26-9			39-3			
284	74-G-6	平瓦	ハラ書	26-8	○		39-4			
285	74-G-7	平瓦	捺書	26-12	○		39-5			
286	74-G-8	平瓦	ハラ書	26-11	○		39-6			
287	74-G-9	平瓦	ハラ書	26-5	○		39-7			
288	74-G-10	平瓦	ハラ書	26-7	○		40-1			
289	74-G-11	平瓦	捺書	26-6	○		40-2			
290	74-G-12	平瓦	ハラ書	26-10	○		40-3			
291	74-D-1	土器類	环				38-1			
292	74-D-2	土器類	环、底部にハラ書「大」	26-13	○		38-2			
293	74-P-1	土製品	結跡草	26-14	○		40-4			
294	74-N-1	金属製品	鉄貨	27-1			40-5			
295	74-N-2	金属製品	鉄貨	27-2			40-6			
296	74-N-3	金属製品	鉄貨	27-3			40-7			
297	74-N-4	金属製品	鉄貨	27-4			40-8			
298	74-N-5	金属製品	鉄貨	27-33			40-9			
299	74-N-6	金属製品	鉄貨	27-27			40-10			
300	74-N-7	金属製品	鉄貨	27-34			40-11			
301	74-N-8	金属製品	鉄貨	27-5			40-11			
302	74-N-9	金属製品	鉄貨	27-6			302			
303	74-N-10	金属製品	鉄貨	27-7			303			
304	74-N-11	金属製品	鉄貨	27-8			304			
305	74-N-12	金属製品	鉄貨	27-9			305			
306	74-N-13	金属製品	鉄貨	27-10			306			
307	74-N-14	金属製品	鉄貨	27-28			307			
308	74-N-15	金属製品	鉄貨	27-35			308			
309	74-N-16	金属製品	鉄貨	27-11			309			
310	74-N-17	金属製品	鉄貨	27-12			310			
311	74-N-18	金属製品	鉄貨	27-13			311			
312	74-N-19	金属製品	鉄貨	27-14			312			
313	74-N-20	金属製品	鉄貨	27-15			313			
314	74-N-21	金属製品	鉄貨	27-29			314			
315	74-N-22	金属製品	鉄貨	27-16			315			
316	74-N-23	金属製品	鉄貨	27-31			316			
317	74-N-24	金属製品	鉄貨					317		
318	74-N-25	金属製品	鉄貨					318		
319	74-N-26	金属製品	鉄貨					319		
320	74-N-27	金属製品	鉄貨					320		
321	74-N-28	金属製品	鉄貨					321		
322	74-N-29	金属製品	鉄貨					322		
323	74-N-30	金属製品	鉄貨					323		
324	74-N-31	金属製品	鉄貨					324		
325	74-N-32	金属製品	鉄貨					325		
326	74-N-33	金属製品	鉄貨					326		
327	74-N-34	金属製品	鉄貨					327		
328	74-N-35	金属製品	鉄貨					328		
329	74-N-36	金属製品	鉄貨					329		
330	74-N-37	金属製品	鉄貨					330		
331	74-N-38	金属製品	鉄貨					331		
332	74-N-39	金属製品	鉄貨					332		
333	74-N-40	金属製品	鉄貨					333		
334	74-N-41	金属製品	鉄貨					334		
335	74-N-42	金属製品	鉄貨					335		
336	74-N-43	金属製品	鉄貨					336		
337	74-N-44	金属製品	鉄貨					337		
338	75-F-1	軒丸瓦	重背蓮華文				31-7	○	142	338
339	75-F-2	軒丸瓦	重背蓮華文				31-5	○	112	339
340	75-F-3	軒丸瓦								340
341	75-F-4	軒丸瓦	重背蓮華文							341
342	75-F-5	軒丸瓦	重背蓮華文							342
343	75-F-6	軒丸瓦	重背蓮華文							343
344	75-F-7	軒丸瓦	重背蓮華文				31-6	○		344
345	75-F-8	軒丸瓦	重背蓮華文							345
346	75-F-9	軒丸瓦								346
347	75-F-10	軒丸瓦								347
348	75-F-11	軒丸瓦								348
349	75-F-12	軒丸瓦								349
350	75-F-13	軒丸瓦								350
351	75-F-14	軒丸瓦								351
352	75-F-15	軒丸瓦								352
353	75-F-16	軒丸瓦	重背蓮華文							353
354	75-F-17	軒丸瓦								354
355	75-F-18	軒丸瓦								355
356	75-F-19	軒丸瓦								356
357	75-F-20	軒丸瓦								357
358	75-F-21	軒丸瓦	重背蓮華文							358
359	75-F-22	軒丸瓦	火照參文				31-4	○	122	359
360	75-F-23	軒丸瓦	幽半文				31-3	○	131	360
361	75-F-24	軒丸瓦	重背蓮華文				31-8	○	141	361
362	75-F-25	軒丸瓦								362
363	75-F-26	軒丸瓦								363
364	75-F-27	軒丸瓦								364
365	75-F-28	軒丸瓦								365
366	75-F-29	軒丸瓦	重背蓮華文				31-2	○	115	366
367	75-F-30	軒丸瓦								367
368	75-F-31	軒丸瓦								368
369	75-F-32	軒丸瓦								369
370	75-F-33	軒丸瓦								370
371	75-F-34	軒丸瓦	重背蓮華文				31-1	○	112	371
372	75-F-35	軒丸瓦								372
373	75-F-36	軒丸瓦	素背蓮華文							373
374	75-F-37	丸瓦	ハラ書				31-10	○		374
375	75-F-38	丸瓦								375
376	75-F-39	丸瓦								376
377	75-F-40	丸瓦								377
378	75-F-41	丸瓦	捺書				31-12	○		378
379	75-F-42	丸瓦								379
380	75-F-43	丸瓦								380

No.	登録番号	種別	備考	国版 番号	米綱 国	部品 番号	分類 番号	写真 国版
281	75-F-44	平丸					381	
282	75-F-45	丸丸	ハラ書	31-9	○	○	282	
283	75-F-46	丸丸					383	
284	75-F-47	丸丸	指書	31-11	○		384	
285	75-G-1	軒平丸					385	
286	75-G-2	軒平丸	偏行書草文	32-2	○	○	231	386
287	75-G-3	軒平丸	赤色墨料	33-2	○	○	387	
288	75-G-4	平丸					388	
289	75-G-5	軒平丸	偏行書草文・赤色墨料	32-3	○	○	231	389
290	75-G-6	軒平丸					390	
291	75-G-7	軒平丸					391	
292	75-G-8	軒平丸	山形文	32-6	○	○	242	392
293	75-G-9	軒平丸					393	
294	75-G-10	軒平丸	連珠文	33-7	○	○	262	394
295	75-G-11	軒平丸					395	
296	75-G-12	軒平丸					396	
297	75-G-13	軒平丸					397	
298	75-G-14	軒平丸					398	
299	75-G-15	軒平丸					399	
300	75-G-16	軒平丸	連珠文	32-7	○	○	262	400
301	75-G-17	軒平丸	均整書草文	33-3	○	○	231	325
302	75-G-18	軒平丸	山形文	32-5	○	○	243	326
403	75-G-19	軒平丸	均整書草文・赤色墨料	33-4	○	○	251	534
404	75-G-20	軒平丸	波狀文	33-5	○	○	299	532
405	75-G-21	軒平丸	重弧文	32-4	○	○	211	533
406	75-G-22	軒平丸	偏行書草文	32-1	○	○	231	534
407	75-G-23	軒平丸	均整書草文	33-4	○	○	251	541
408	75-G-24	軒平丸	重弧文	33-6	○	○	211	542
409	75-G-26	平丸	ハラ書	34-21	○		543	
410	75-G-27	平丸	指書	34-9	○		544	
411	75-G-28	平丸	ハラ書	34-15	○		545	
412	75-G-29	平丸	ハラ書	34-14	○		546	
413	75-G-31	平丸					547	
414	75-G-32	平丸					551	
415	75-G-33	平丸					552	
416	75-G-34	平丸					553	
417	75-G-35	平丸					554	
418	75-G-36	平丸		33-8	○		555	
419	75-G-37	平丸	指書	34-13	○		556	
420	75-G-38	平丸					557	
421	75-G-39	平丸					561	
422	75-G-40	平丸	ハラ書	34-5	○		562	
423	75-G-41	平丸	ハラ書	34-10	○		563	
424	75-G-42	平丸	指書	34-12	○		564	
425	75-G-43	平丸	指書	34-16	○		565	
426	75-G-44	平丸	刷印	34-7	○		566	
427	75-G-45	平丸					567	
428	75-G-46	平丸	指書	34-8	○		571	
429	75-G-47	平丸	指書				572	
430	75-G-48	平丸	ハラ書	34-11	○		573	
431	75-G-49	平丸	隠切丸	34-3	○		574	
432	75-G-50	平丸	ハラ書	34-18	○		575	
433	75-G-51	平丸	ハラ書	34-6	○		576	
434	75-G-52	平丸	ハラ書	34-17	○		581	
435	75-G-53	平丸	指書	34-2	○		582	
436	75-G-54	平丸	刷印	34-22	○		583	
437	75-G-55	平丸					584	
438	75-G-56	平丸	刷印	34-23	○		585	
439	75-G-57	平丸					586	
440	75-G-58	平丸	ハラ書	34-4	○		591	
441	75-G-59	平丸	ハラ書	34-1	○		592	
442	75-G-60	平丸	指書				593	
443	75-G-61	平丸	ハラ書	34-20	○		594	
444	75-G-62	平丸	ハラ書	34-19	○		595	
445	75-D-1	上端器	环					421
446	75-D-2	中端上器	环				35-1	422
447	75-D-3	上端下器	环				35-3	423
448	75-E-1	初忠器	忠忠器				35-2	424
449	75-E-2	照忠器	忠忠器					425
450	75-E-3	照忠器	忠忠器					426
451	75-P-1	上端品	羽1				35-4	614
452	75-K-1	右端品	右棒				35-6	596
453	75-K-2	右端品	右1				36-1	601
454	75-K-3	右端品	右3				36-2	602
455	75-K-4	右端品	砾石				35-5	611
456	75-K-5	右端品	砾				35-8	612
457	75-K-6	右端品	板碑				35-7	613
458	77-G-1	軒平丸	偏行書草文				42-1	○ ○ ○ 231 621
459	79-F-1	軒丸	重井蓮華文				42-2	○ ○ 112 622
460	79-G-1	平丸	ハラ書				42-3	623
461	79-G-2	平丸	刷印「田」				42-4	○ 624
462	9-F-1	軒丸	宝相華文				43-9	○ ○ 122 631
463	9-F-2	軒丸	重井蓮華文				43-6	○ ○ 112 632
464	9-F-3	軒丸	宝相華文				43-10	○ ○ 122 633
465	9-F-4	軒丸	軒丸					63-4
466	9-F-5	軒丸	宝相華文				43-11	○ ○ 121 635
467	9-F-6	軒丸	重井蓮華文				43-4	○ ○ 112 636
468	9-F-7	軒丸	重井蓮華文				43-3	○ ○ 112 637
469	9-F-8	軒丸	重井蓮華文				43-2	○ ○ 112 638
470	9-F-9	軒丸	重井蓮華文				43-5	○ ○ 112 639
471	9-F-10	軒丸	宝相華文				43-8	○ ○ 121 610
472	9-F-11	軒丸	重井蓮華文				43-1	○ ○ 121 631
473	9-F-12	軒丸	山形文				43-7	○ ○ 131 641
474	9-F-13	丸丸	刷印「伊」				46-8	642
475	9-F-14	丸丸	刷印「田」				46-7	643
476	9-F-15	丸丸	刷印「吉」				46-10	644
477	9-G-1	軒平丸	均整書草文				44-8	254 645
478	9-G-2	軒平丸	連珠文				44-12	261 646
479	9-G-3	軒平丸	山形文				44-3	242 651
480	9-G-4	軒平丸	通底文				44-9	262 652
481	9-G-5	軒平丸	連珠文				44-11	262 653
482	9-G-6	軒平丸	均整書草文				45-4	254 654
483	9-G-7	軒丸	重弧文				45-3	271 655
484	9-G-8	軒平丸	山形文				44-5	242 656
485	9-G-9	軒平丸	ハラ筋文				45-2	291 661
486	9-G-10	軒平丸	重弧文				45-1	211 662
487	9-G-11	軒平丸	山形文				44-1	242 663
488	9-G-12	軒平丸	山形文				44-4	240 664
489	9-G-13	軒平丸	偏行書草文				45-5	231 665
490	9-G-14	軒平丸	均整書草文				44-7	251 671
491	9-G-15	軒平丸	山形文				44-2	243 672
492	9-G-16	軒平丸	偏行書草文				44-6	231 673
493	9-G-17	軒平丸	連珠文				44-10	262 674
494	9-G-18	軒平丸						67-5
495	9-G-19	平丸	ハラ書「大」				46-5	67-6
496	9-G-20	平丸	ハラ書「天」				45-9	68-1
497	9-G-21	平丸	刷印「木」				46-6	68-2
498	9-G-22	平丸					46-4	68-3
499	9-G-23	平丸					46-2	68-4
500	9-G-24	平丸	ハラ書「大」				45-7	69-1
501	9-G-25	平丸	刷印「羽」				46-11	69-2
502	9-G-26	平丸	刷印「真」				46-9	69-3
503	9-G-27	平丸	ハラ書				45-6	69-4
504	9-G-28	平丸	ハラ書				45-8	70-1
505	9-G-29	平丸	ハラ書				46-3	70-2
506	9-G-31	平丸	刷印				-	-
507	9-H-1	寝今丸	刷印				46-1	70-3

引用参考文献

[陸奥国分寺跡関連発掘調査報告書一覧]

1. 陸奥国分寺跡発掘調査委員会 1961「陸奥国分寺跡」
2. 宮城県教育委員会 1968「陸奥国分寺跡東北部発掘調査報告」宮城県文化財調査報告書第14集
3. 仙台市教育委員会 1973「史跡国分寺跡環境整備予備調査（塔院廻廊跡）発掘調査説明会資料」
4. 仙台市教育委員会 1974「史跡陸奥国分寺跡 昭和48年度環境整備調査概報」
5. 仙台市教育委員会 1975「史跡陸奥国分寺跡環境整備予備調査略報」
6. 仙台市教育委員会 1976「陸奥国分寺跡・西南地域発掘調査報告」
7. 仙台市教育委員会 1978「陸奥国分寺跡 緊急発掘調査概報」
8. 仙台市教育委員会 1979「史跡陸奥国分寺跡西南部発掘調査略報」
9. 仙台市教育委員会 1980「陸奥国分寺跡発掘調査報告—宗教法人陸奥国分寺の位牌堂建設に伴う遺構確認調査—」
『年報1』仙台市文化財調査報告書第23集
10. 仙台市教育委員会 1980「陸奥国分寺跡西側寺域線試掘調査報告 昭和54年度」
11. 仙台市教育委員会 1981「史跡陸奥国分寺跡 昭和55年度環境整備予備調査概報 東門跡」
仙台市文化財調査報告書第27集
12. 仙台市教育委員会 1982「史跡陸奥国分寺跡」「仙台平野の遺跡群Ⅰ」仙台市文化財調査報告書第37集
13. 仙台市教育委員会 1983「史跡陸奥国分寺跡」「仙台平野の遺跡群Ⅱ」仙台市文化財調査報告書第47集
14. 仙台市教育委員会 1984「史跡陸奥国分寺跡 昭和58年度環境整備予備調査概報南大門跡東臨塗地跡」
仙台市文化財調査報告書第63集
15. 仙台市教育委員会 1987「史跡陸奥国分寺跡」「仙台平野の遺跡群VI」仙台市文化財調査報告書第97集
16. 仙台市教育委員会 1988「陸奥国分寺跡」「仙台平野の遺跡群VII」仙台市文化財調査報告書第111集
17. 仙台市教育委員会 1990「陸奥国分寺跡」「仙台平野の遺跡群IX」仙台市文化財調査報告書第134集
18. 仙台市教育委員会 2006「陸奥国分寺跡南大門跡、薬師堂仁王門跡の調査」「郡山遺跡26」
仙台市文化財調査報告書第296集
19. 仙台市教育委員会 2007「陸奥国分寺跡」「郡山遺跡27」仙台市文化財調査報告書第307集
20. 仙台市教育委員会 2008「陸奥国分寺跡第28次調査」「仙台平野の遺跡群XⅢ」仙台市文化財調査報告書第328集
21. 仙台市教育委員会 2009「陸奥国分寺跡第29次調査」「郡山遺跡29」仙台市文化財調査報告書第347集
22. 仙台市史編さん委員会 1995「仙台市史 特別編2 考古資料」
〔参考文献〕
23. 宮城県教育委員会 1980 宮城県多賀城跡調査研究所「多賀城跡 政府跡図録編」
24. 宮城県教育委員会 1982 宮城県多賀城跡調査研究所「多賀城跡 政府跡本文編」
25. 仙台市教育委員会 2010「与兵衛沼窯跡－都市計画道路「川内・南小泉線」関連遺跡発掘調査報告書」
仙台市文化財調査報告第366集

報 告 書 抄 錄

ふりがな	くにしせき むつこくぶんじあと						
書名	国史跡 陸奥国分寺跡						
副書名	昭和46~50・53・54年度発掘調査報告						
巻次	—						
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第430集						
編著者名	石山智之、木村浩二						
編集機関	仙台市教育委員会（文化財課）						
所在地	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-1-25 TEL022(214)8893						
発行年月日	2014年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
陸奥国分寺跡	宮城県仙台市 若林区 木ノ下 3丁目	04100	01019	38° 14' 55"	140° 54' 22"	1973.2.15~1980.3.28	2,618m ² 環境整備事前調査、史跡現状変更許可申請事前調査
所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
陸奥国分寺跡	寺院跡	奈良～平安時代	塔院迴廊跡 金堂・中門迴廊跡 僧坊跡 外郭築地塀跡	瓦、土師器、須恵器、陶器、石製品、土製品、古銭		僧坊建物が建替え変遷の可能性があること、外郭南辺・西辺南半の区画施設が築地塀と確認された	

仙台市文化財調査報告書第430集

国史跡 陸奥国分寺跡

—昭和46～50・53・54年度発掘調査—

平成26年3月25日印刷

平成26年3月31日発行

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7-1

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24
